

藤沢市
市民活動に関するアンケート調査
報告書

2025 年(令和 7 年) 1 月

藤沢市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	2
2. 調査の種類	2
3. 調査方法と回収状況	2
4. 調査項目	2
5. 調査結果を見る上での注意事項	2
第2章 調査結果の詳細	4
1. 基本属性	5
(1) 性別	5
(2) 年齢	5
(3) 婚姻状況	6
(4) 居住地区	6
(5) 職業	7
(6) 世帯全体の年間収入	7
2. 地域活動について	8
(1) 地域活動の周知状況	8
(2) 地域活動への参加の頻度と参加理由	13
(3) 地域活動を行う場として利用している施設	27
(4) 地域活動を行う場として今後利用したい施設	29
(5) 地域活動に参加することに妨げとなること	31
3. 市民活動について	35
(1) 市民活動への参加意向	35
(2) 参加したい市民活動の分野	36
(3) 市民活動に参加したい理由	38
(4) 市民活動に参加することに妨げとなること	41
(5) 市民活動団体に期待することの有無	44
(6) 市民活動団体に期待することの内容	45
(7) 市民活動団体に期待することがない理由	48
(8) 市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと	51
(9) 市民活動について市に望むこと	54
4. ボランティア活動について	58
(1) ボランティア活動への関心の有無	58
(2) ボランティア活動の経験	60

(3) ボランティア活動への参加の頻度	62
(4) 令和5年度中に参加したことがあるボランティア活動	63
(5) ボランティア活動に参加する理由	65
(6) ボランティア活動に参加することに妨げとなること	67
(7) 今後参加したいボランティア活動の分野	70
(8) ボランティア活動について市に望むこと	72
5. 寄付について	74
(1) 寄付経験の有無	74
(2) 令和5年度に寄付した金額、回数、現物を寄付した回数	76
(3) 寄付を行った方法	78
(4) 令和5年度に寄付をした団体	80
(5) 令和5年度に寄付をした分野	82
(6) 寄付をした理由	84
(7) 寄付をするにあたり妨げとなること	86
(8) 寄付促進のために市に望むこと	88
6. その他	90
(1) 新型コロナウイルスによる地域活動や市民活動への影響	90
(2) 「藤沢市市民憲章」の周知状況	92
(3) 自由意見	93

第3章 総評 94

第4章 調査票 99

第1章 調査の概要

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、市民活動推進計画における市民活動促進の施策について、今後のあり方を検討するための事前調査として、市民を対象とし、市民活動の現状及び日頃の暮らしの中で感じていることを調査することを目的とする。

2. 調査の種類

調査名	調査対象
市民活動に関するアンケート調査	満 15 歳以上の市民 3,000 人を無作為に抽出

3. 調査方法と回収状況

調査方法： 郵送配布、郵送回収またはウェブ回答によるアンケート調査

調査期間： 令和 6 年 10 月 28 日 (月) ～ 11 月 27 日 (水)

<回収状況>

調査名	発送数	回収数	回収率
市民活動に関するアンケート調査	3,000 件	1,129 件 (うち、郵送 593 件 ウェブ 536 件)	37.6%

※調査期間終了後 12 月 6 日(金)までの回収分を含む、白票を除く

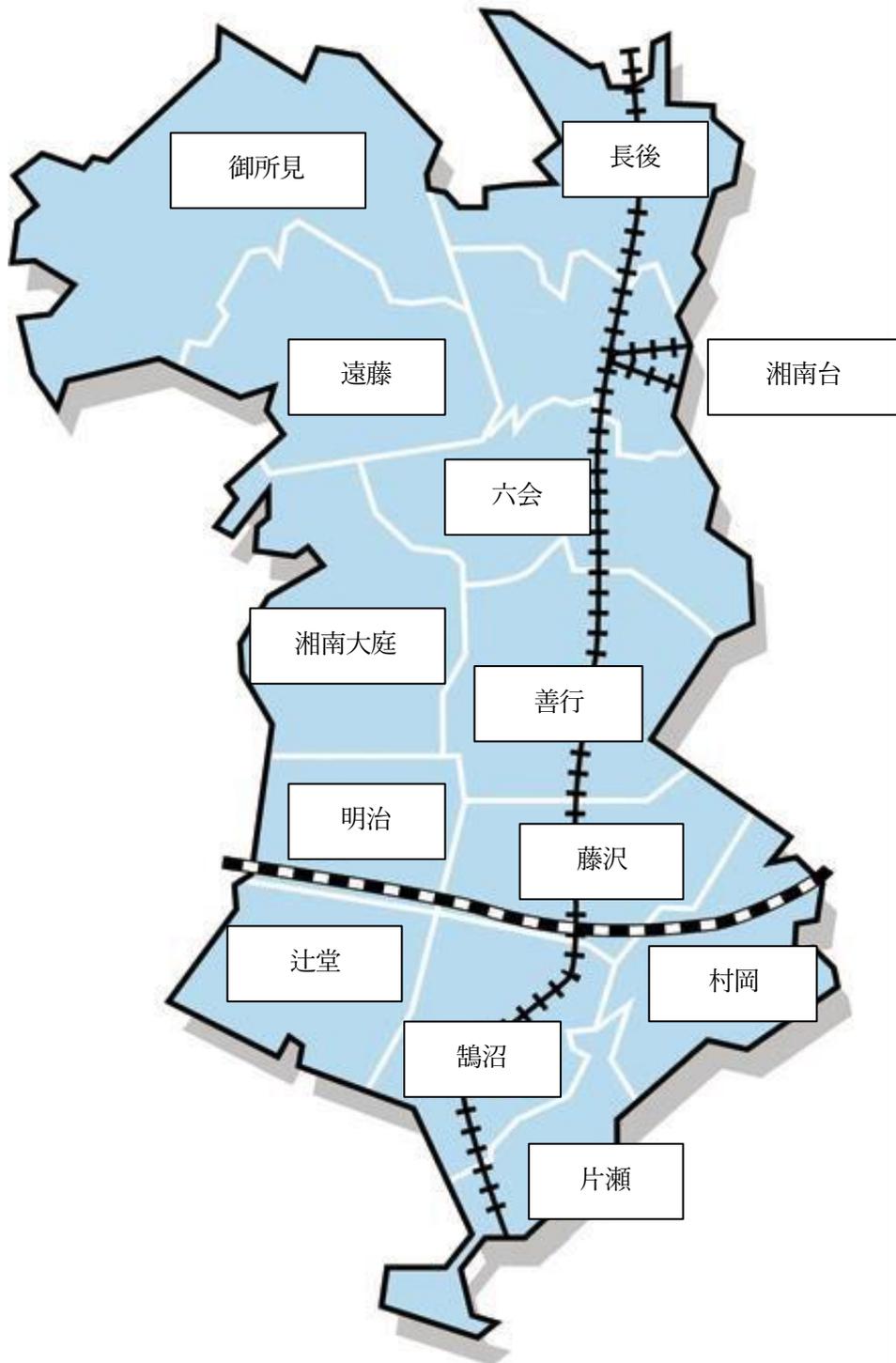
4. 調査項目

調査名	調査項目
市民活動に関するアンケート調査	<ul style="list-style-type: none">●基本属性●地域活動について●市民活動について●ボランティア活動について●寄付について●その他

5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率 (%) の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、少数第 1 位まで表示した。したがって、単数回答 (1 つだけ選ぶ問) においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて 100%にならない場合がある。
- ・複数回答 (2 つ以上選んでよい問) においては、%の合計が 100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が 30 未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・本調査における市民活動等についての説明は、調査票 (99ページ以降) を参照。
- ・報告書に記載されている 13 地区は次ページの通りである。

<藤沢行政13地区>

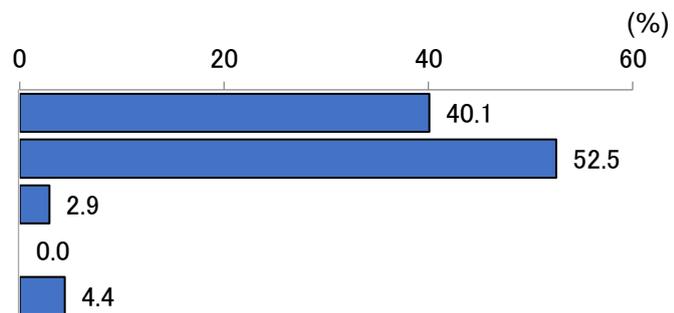


第2章 調査結果の詳細

1. 基本属性

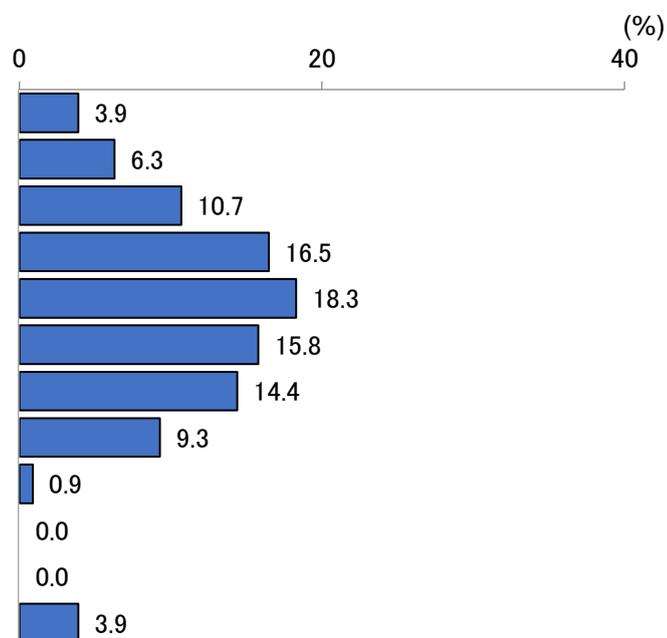
(1) 性別

	基数	構成比
男	453	40.1%
女	593	52.5%
回答しない	33	2.9%
不明	0	0.0%
無回答	50	4.4%
全体	1,129	100.0%

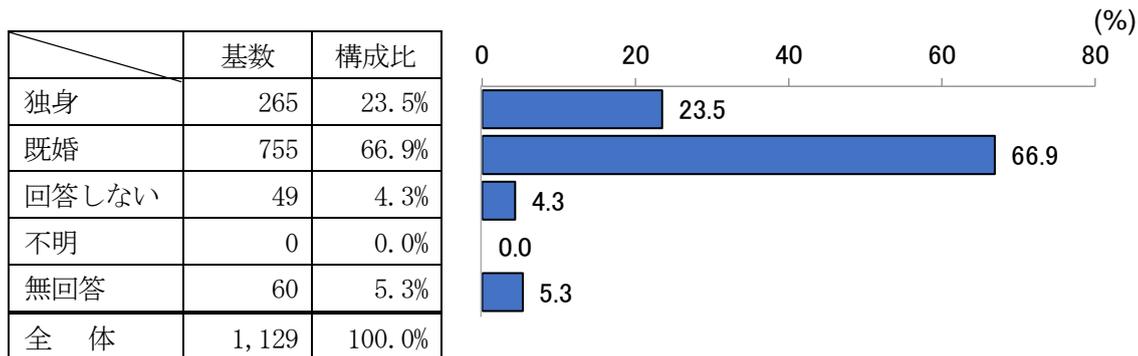


(2) 年齢

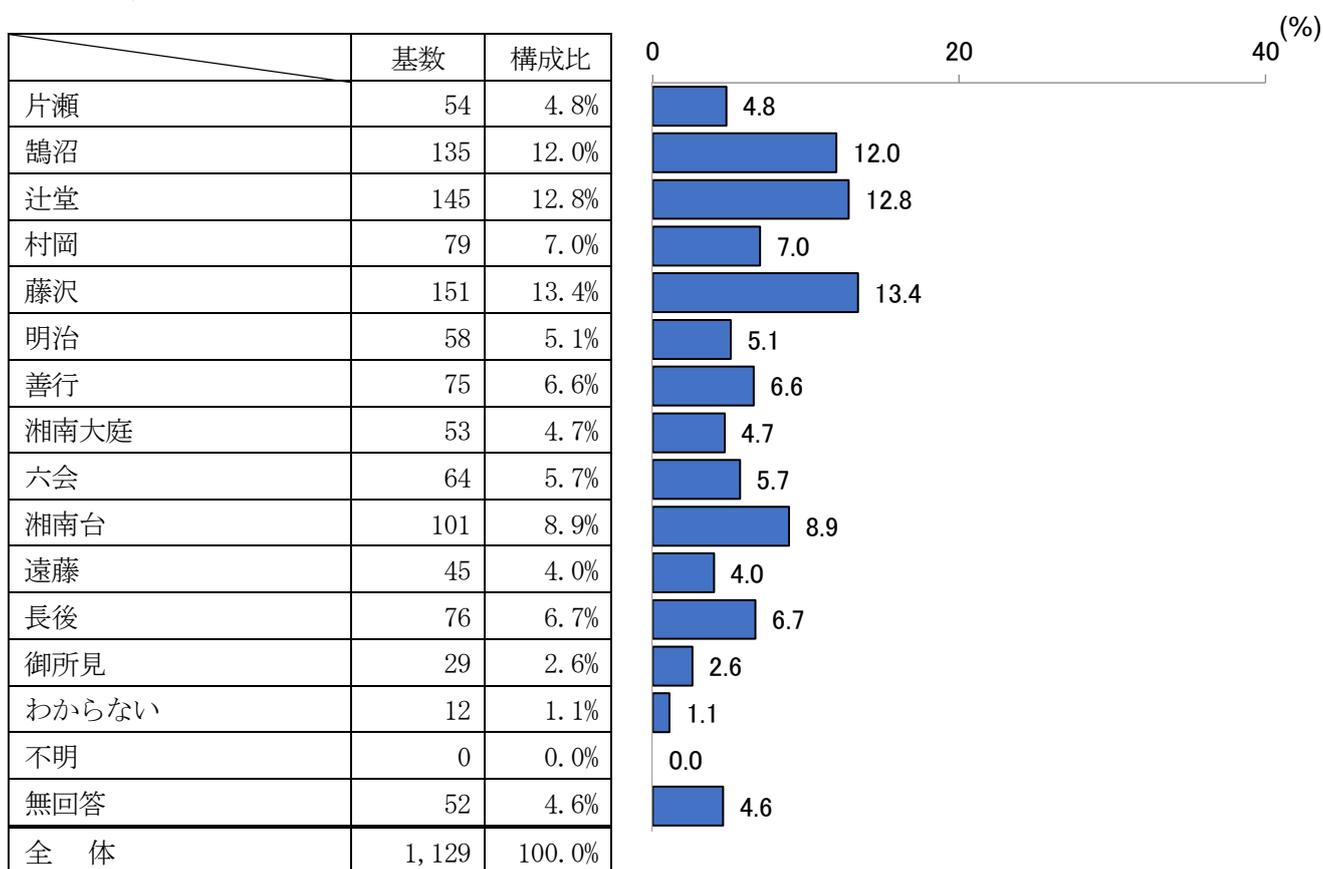
	基数	構成比
10歳代	44	3.9%
20歳代	71	6.3%
30歳代	121	10.7%
40歳代	186	16.5%
50歳代	207	18.3%
60歳代	178	15.8%
70歳代	163	14.4%
80歳代	105	9.3%
90歳代	10	0.9%
100歳以上	0	0.0%
不明	0	0.0%
無回答	44	3.9%
全体	1,129	100.0%



(3) 婚姻状況

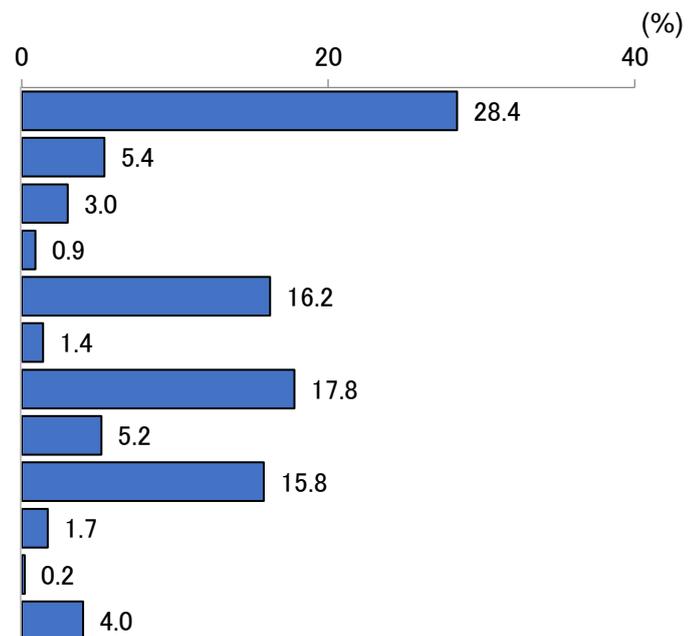


(4) 居住地区



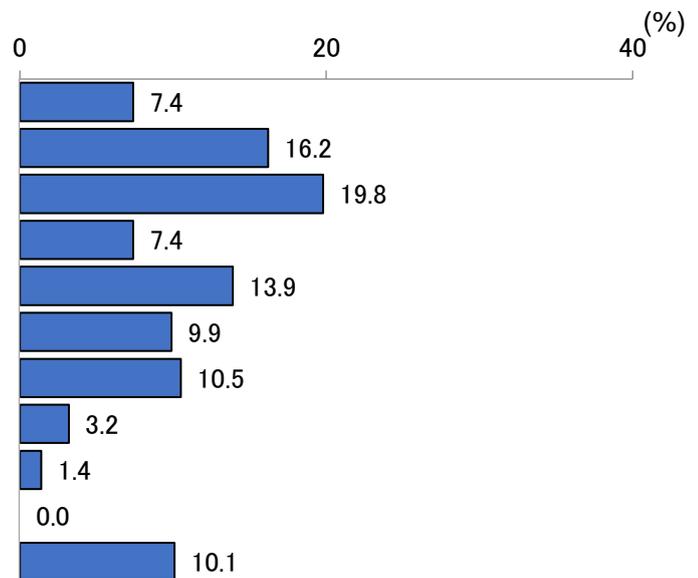
(5) 職業

	基数	構成比
会社員	321	28.4%
自営業・家族従業者	61	5.4%
公務員	34	3.0%
団体職員	10	0.9%
派遣・契約社員、パートタイム従業者、アルバイト	183	16.2%
会社役員・団体役員	16	1.4%
主婦・主夫	201	17.8%
学生	59	5.2%
無職(主婦/主夫、学生を除く)	178	15.8%
その他	19	1.7%
不明	2	0.2%
無回答	45	4.0%
全 体	1,129	100.0%



(6) 世帯全体の年間収入

	基数	構成比
150 万円未満	84	7.4%
150 万円以上～300 万円未満	183	16.2%
300 万円以上～500 万円未満	224	19.8%
500 万円以上～600 万円未満	84	7.4%
600 万円以上～800 万円未満	157	13.9%
800 万円以上～1,000 万円未満	112	9.9%
1,000 万円以上～1,500 万円未満	119	10.5%
1,500 万円以上～2,000 万円未満	36	3.2%
2,000 万円以上	16	1.4%
不明	0	0.0%
無回答	114	10.1%
全 体	1,129	100.0%

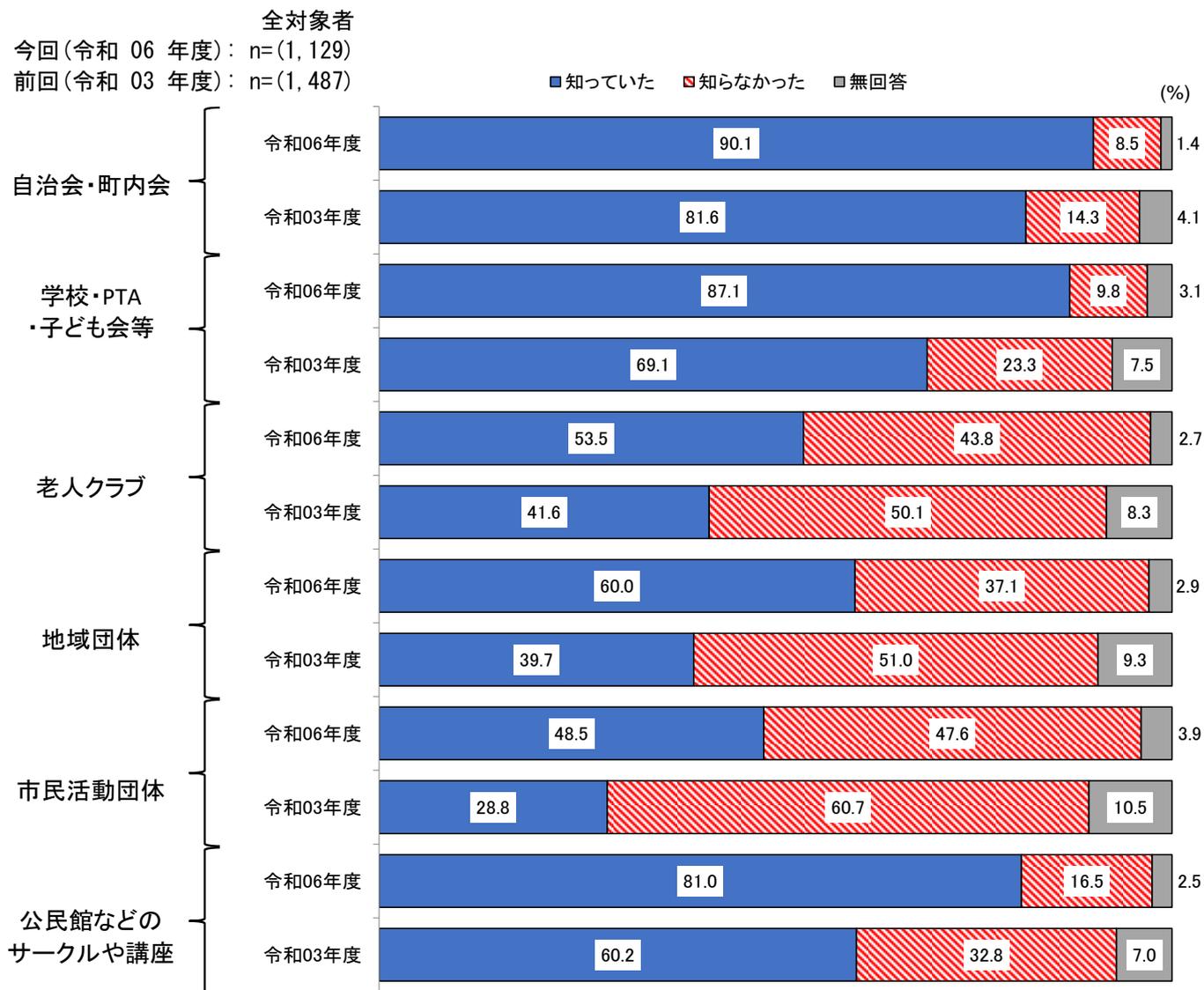


2. 地域活動について

(1) 地域活動の周知状況

問1-1 次の地域活動のうち、このアンケートが届く前からその活動の存在を知っていたかどうかをお選びください。(いずれか一つに○)

【図表1：地域活動の周知状況】

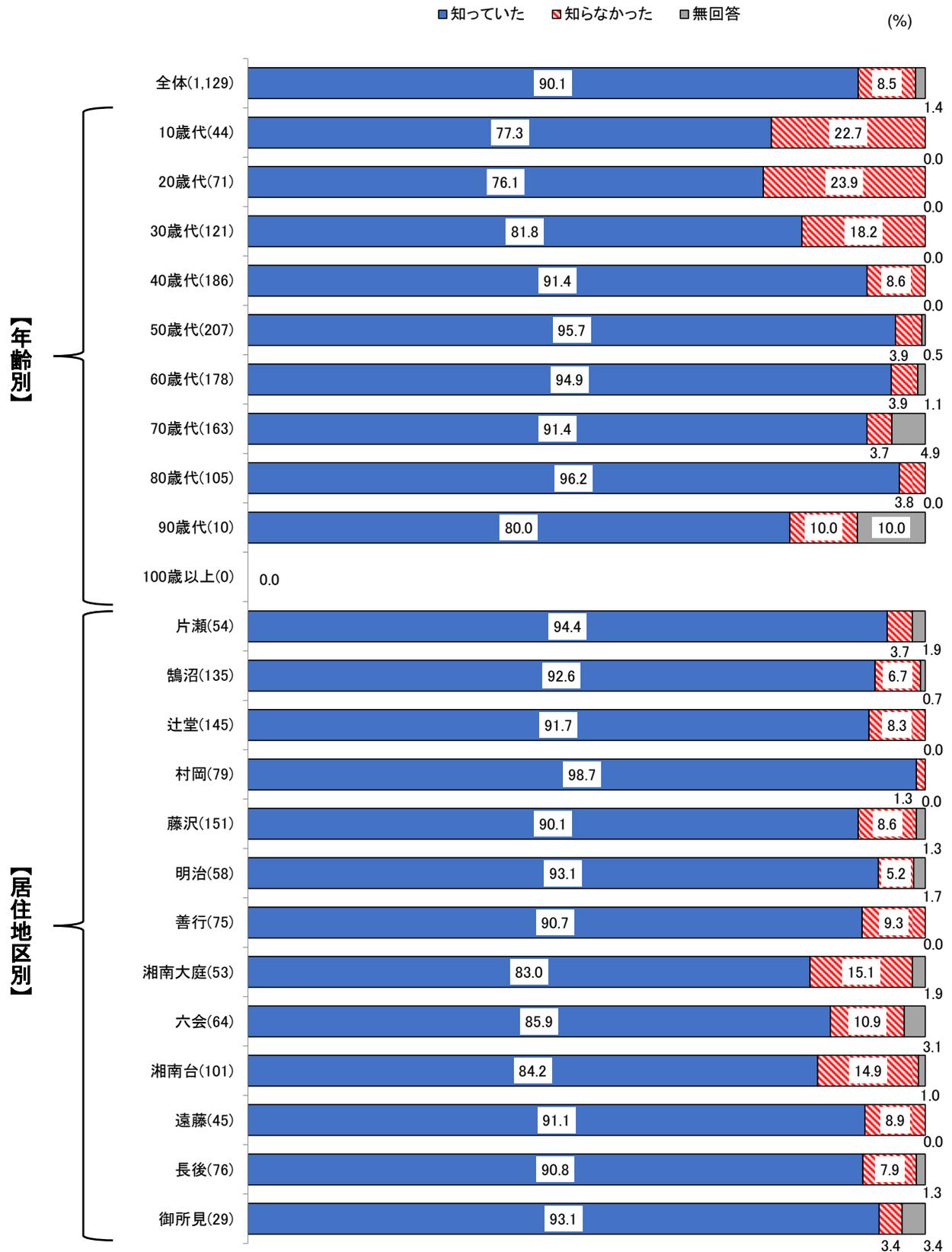


地域活動の周知状況について、「知っていた」割合は「自治会・町内会」が90.1%、次いで「学校・PTA・子ども会等」(87.1%)、「公民館などのサークルや講座」(81.0%)と、前回調査と同じ順となっている。

また、「知らなかった」の割合についても「市民活動団体」(47.6%)、「老人クラブ」(43.8%)が4割を超えている。

前回調査(令和3年度)と比較すると、すべての地域活動において「知っていた」割合が高くなっている。

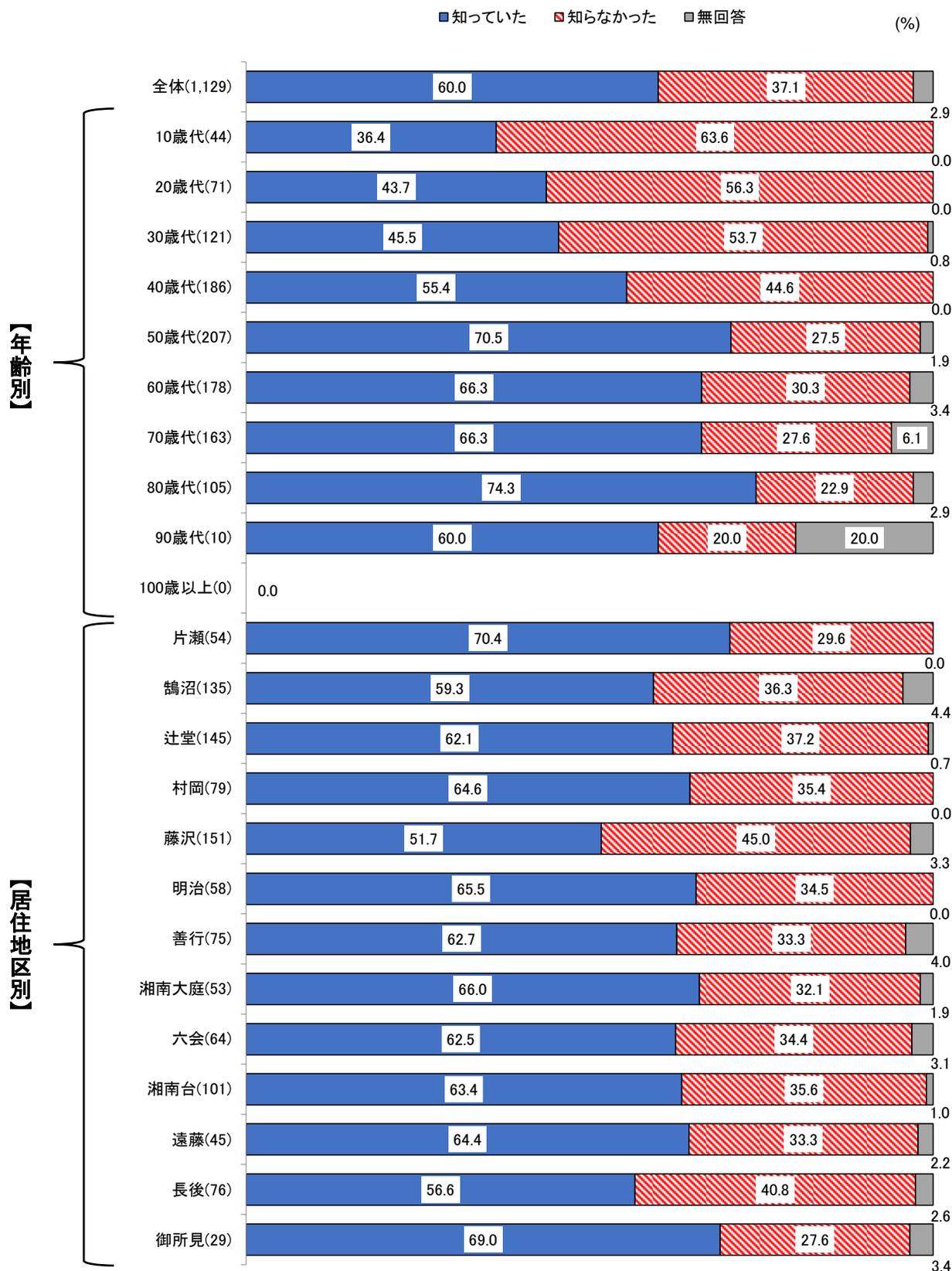
【図表2：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況①】自治会・町内会



「知っていた」の割合を年齢別にみると、おおむね年代が上がるにつれて高くなる傾向があり、80歳代が96.2%と最も高くなっている。

居住地区別では、村岡(98.7%)、片瀬(94.4%)、明治(93.1%)、御所見(93.1%)、鵜沼(92.6%)などで「知っていた」割合が高くなっている。

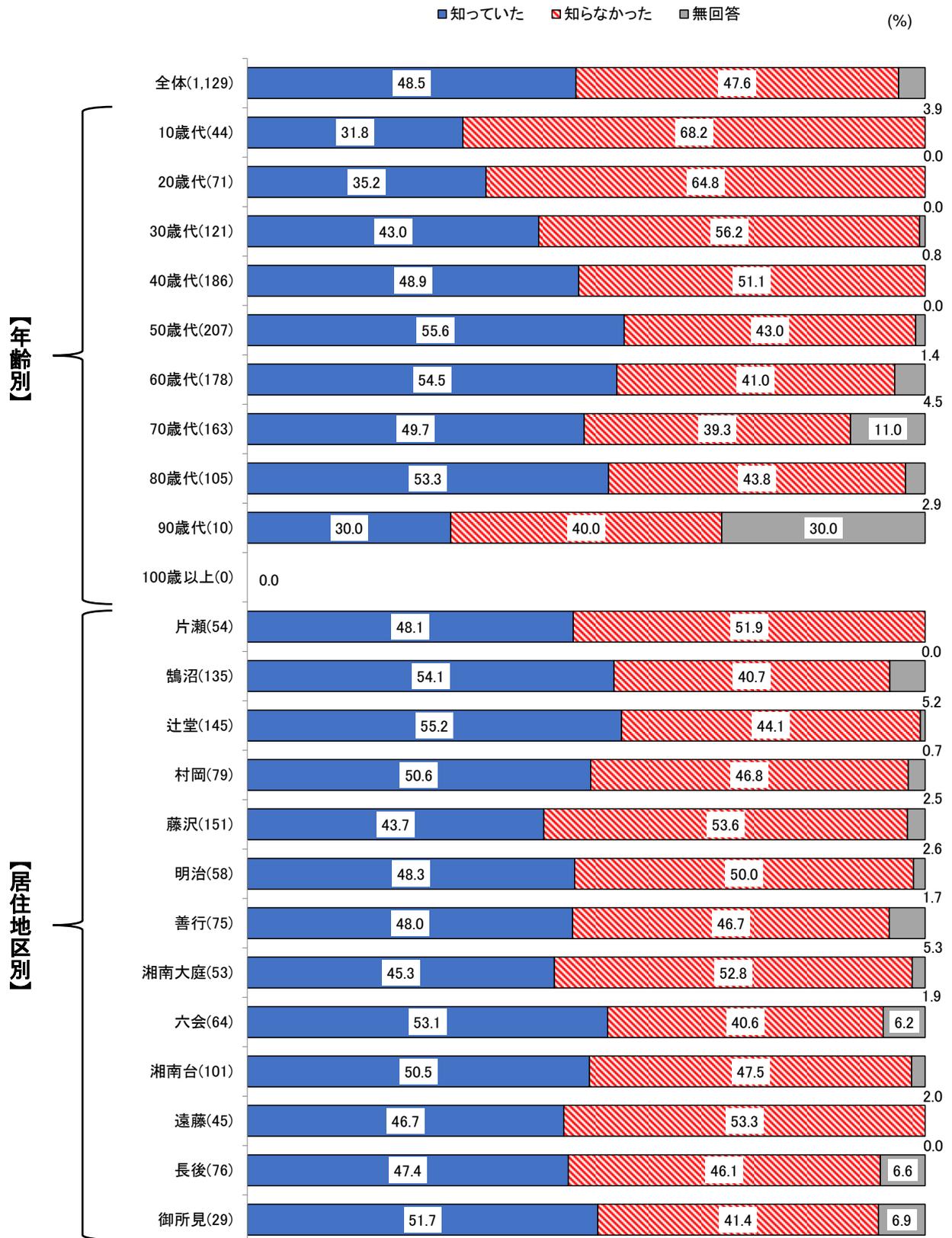
【図表3：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況②】 **地域団体**



「知っていた」の割合を年齢別にみると、80歳代（74.3%）と50歳代（70.5%）が7割以上となっている。

居住地区別では、片瀬（70.4%）で「知っていた」割合が最も多く、次いで、御所見（69.0%）、湘南大庭（66.0%）、明治（65.5%）等で「知っていた」割合が高くなっている。

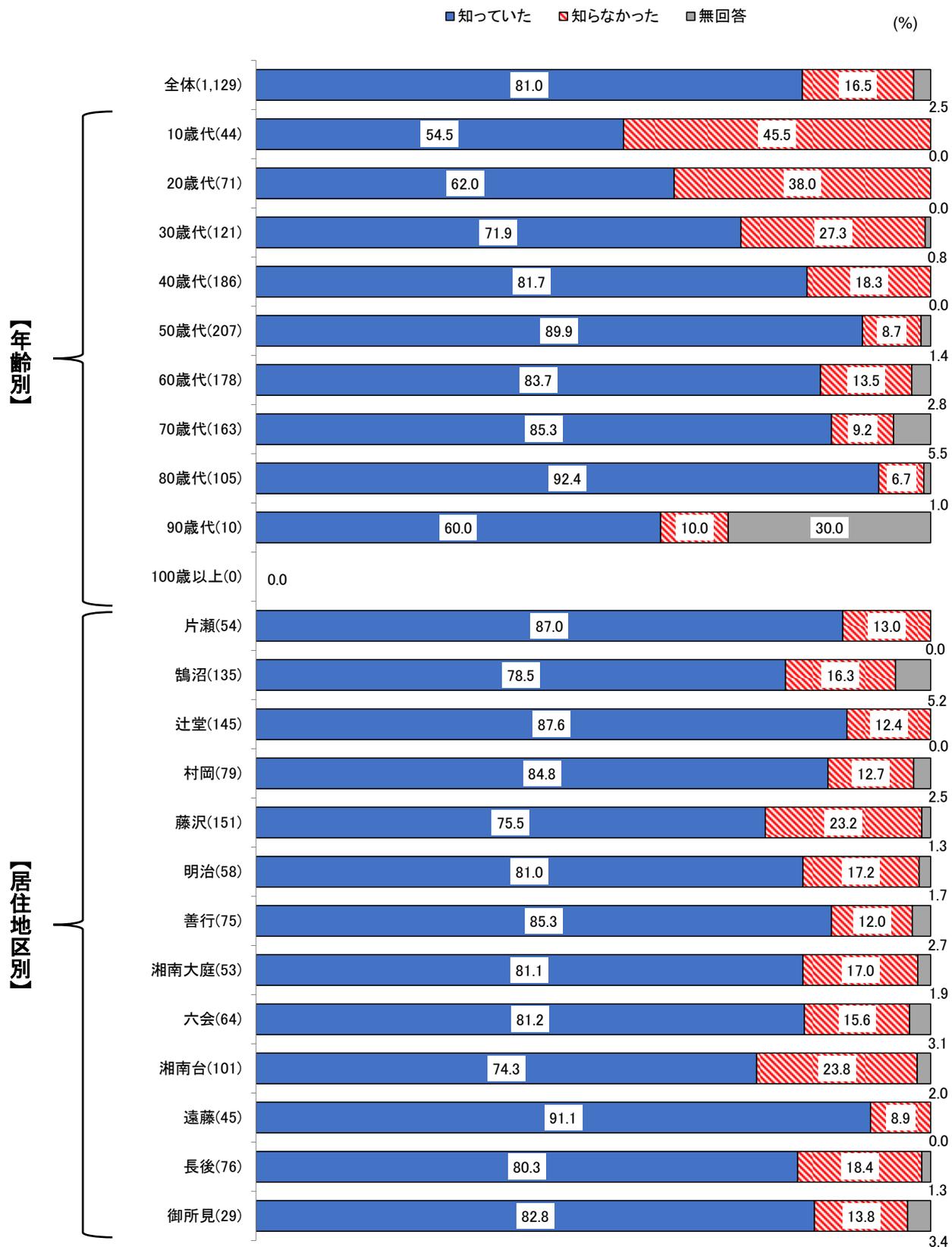
【図表4：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況③】 市民活動団体（NPOを含む）



「知っていた」の割合を年齢別にみると、50歳代（55.6%）と60歳代（54.5%）、80歳代（53.3%）で5割を超えている。

居住地区別では、辻堂（55.2%）、鶴沼（54.1%）、六会（53.1%）の順で「知っていた」割合が高くなっている。

【図表5：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況④】 公民館などのサークルや講座



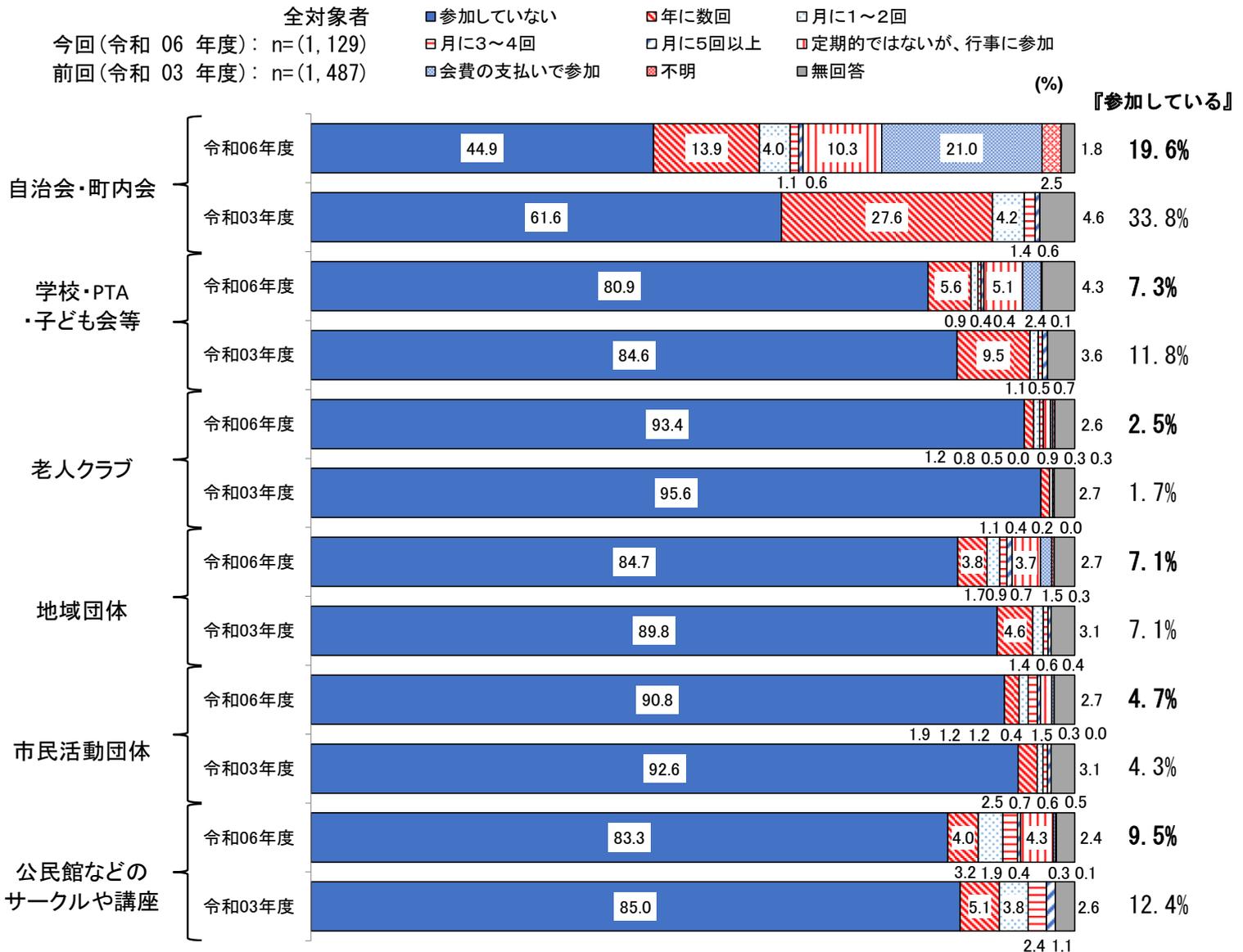
「知っていた」の割合を年齢別にみると、おおむね年代が上がるにつれて高くなる傾向ではあるが、最も「知っていた」割合が高い年齢は 80 歳代 (92.4%) 及び 50 歳代 (89.9%) となっている。

居住地区別では、遠藤 (91.1%)、辻堂 (87.6%)、片瀬 (87.0%)、善行 (85.3%) などで「知っていた」割合が高くなっている。

(2) 地域活動への参加の頻度と参加理由

問1-2 あなたの地域活動への参加の頻度をお選びください。(いずれか一つに○)
 また参加の理由についてお選びください。(あてはまるものすべてに○)

【図表6：地域活動への参加の頻度】



※「定期的ではないが、行事に参加」「会費の支払いで参加」は今回より新設。

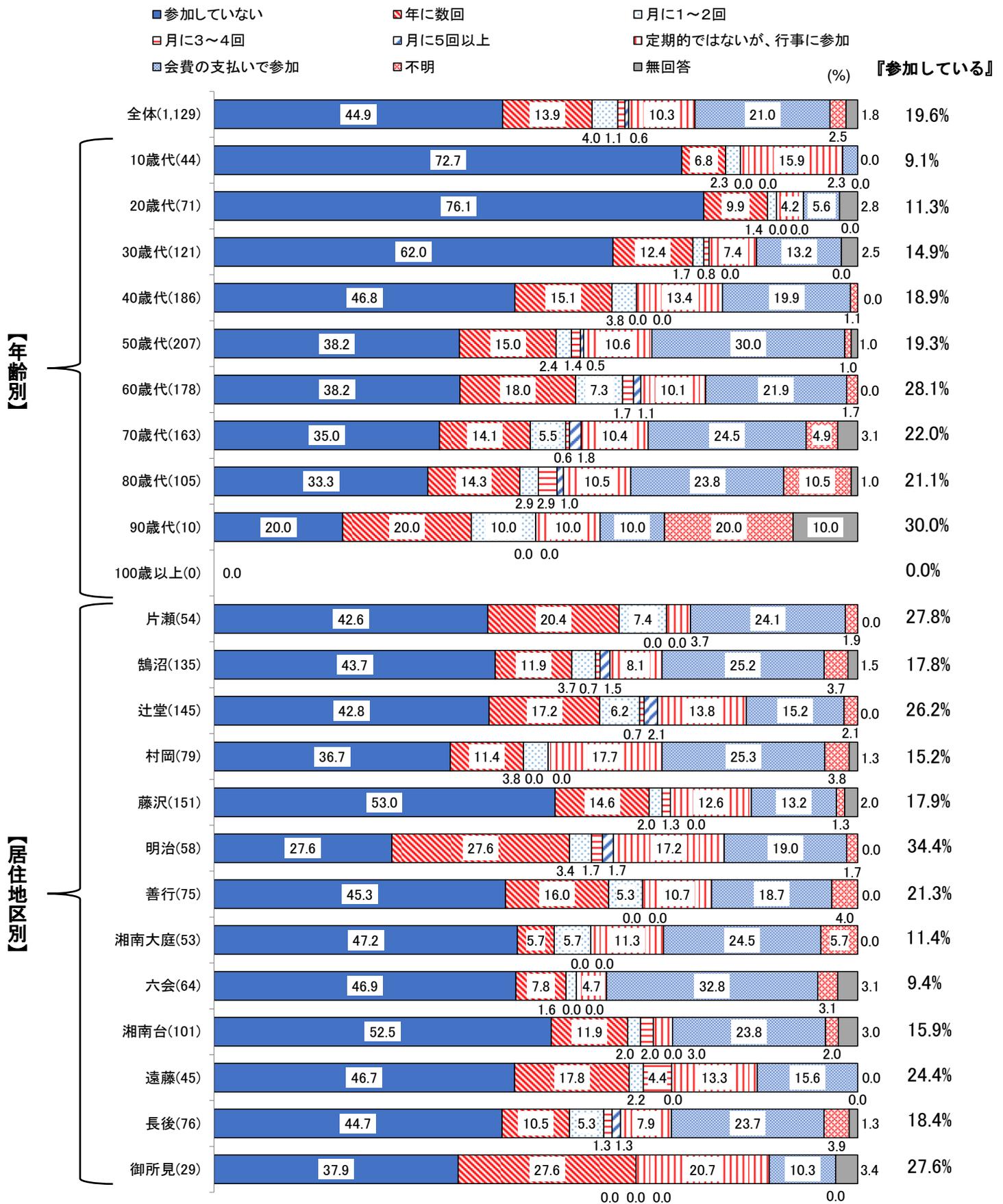
※『参加している』の数値は「年に数回」「月に1~2回」「月に3~4回」「月に5回以上」の合計値である。

地域活動への参加状況について、「月に5回以上」「月に3~4回」「月に1~2回」「年に数回」を合わせた『参加している』割合は「自治会・町内会」が19.6%で最も高く、「参加していない」は44.9%と前回調査を下回っている。

それ以外の活動については「参加していない」割合は8割以上となっており、「老人クラブ」(93.4%)、次いで「市民活動団体」(90.8%)、「地域団体」(84.7%)、「公民館などのサークルや講座」(83.3%)、「学校・PTA・子ども会等」(80.9%)の順となっている。

前回調査(令和3年度)と比較し、『参加している』の割合は減少または微増傾向である。

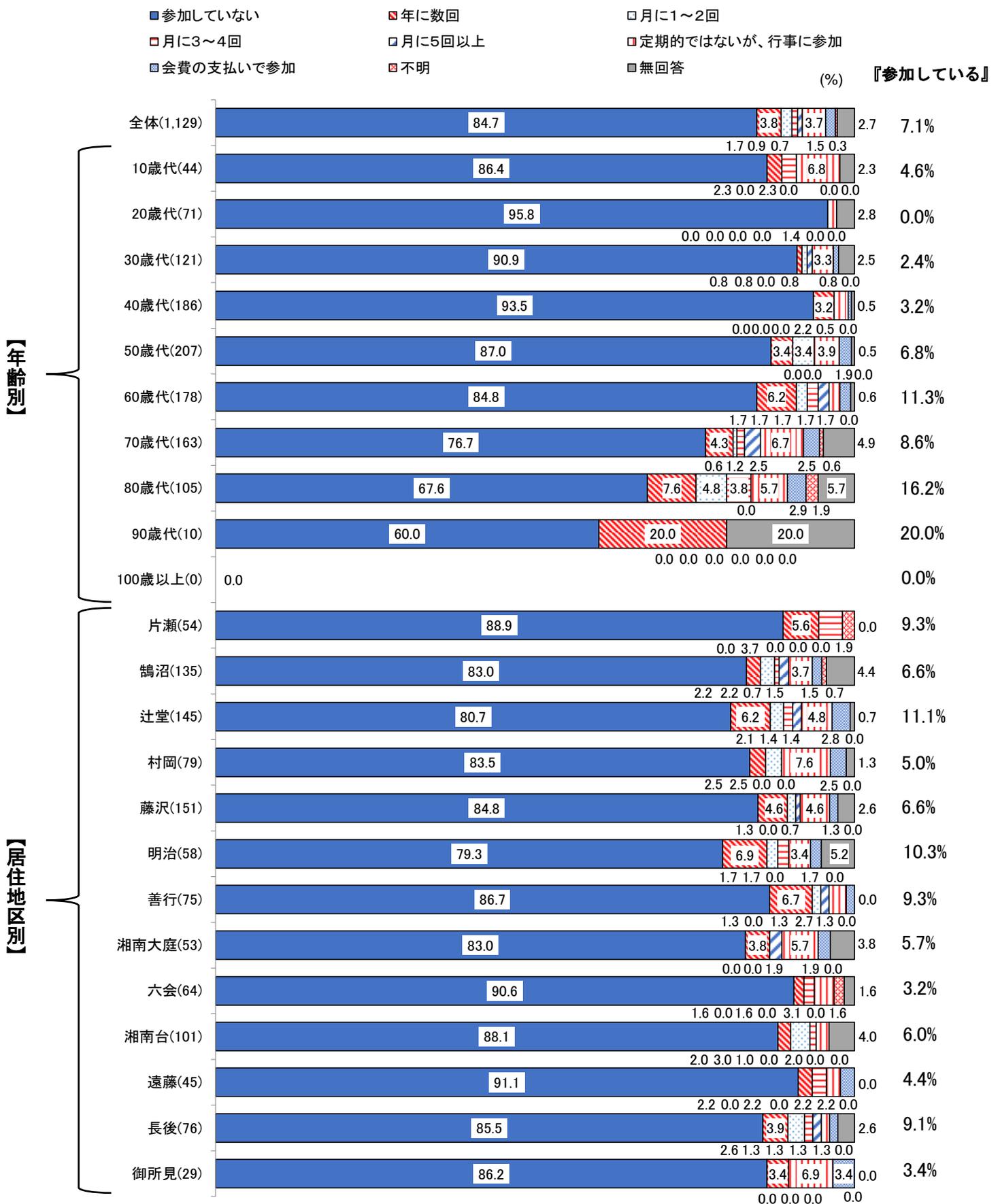
【図表7：年齢別・居住地区別／参加の頻度①】 自治会・町内会



『参加している』割合を年齢別にみると、90歳代（30.0%）や60歳代（28.1%）で割合が高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代（76.1%）や10歳代（72.7%）で高くなっている。

居住地区別に『参加している』割合をみると、明治（34.4%）、片瀬（27.8%）などで高い一方、「参加していない」割合は、藤沢（53.0%）や湘南台（52.5%）などで高くなっている。

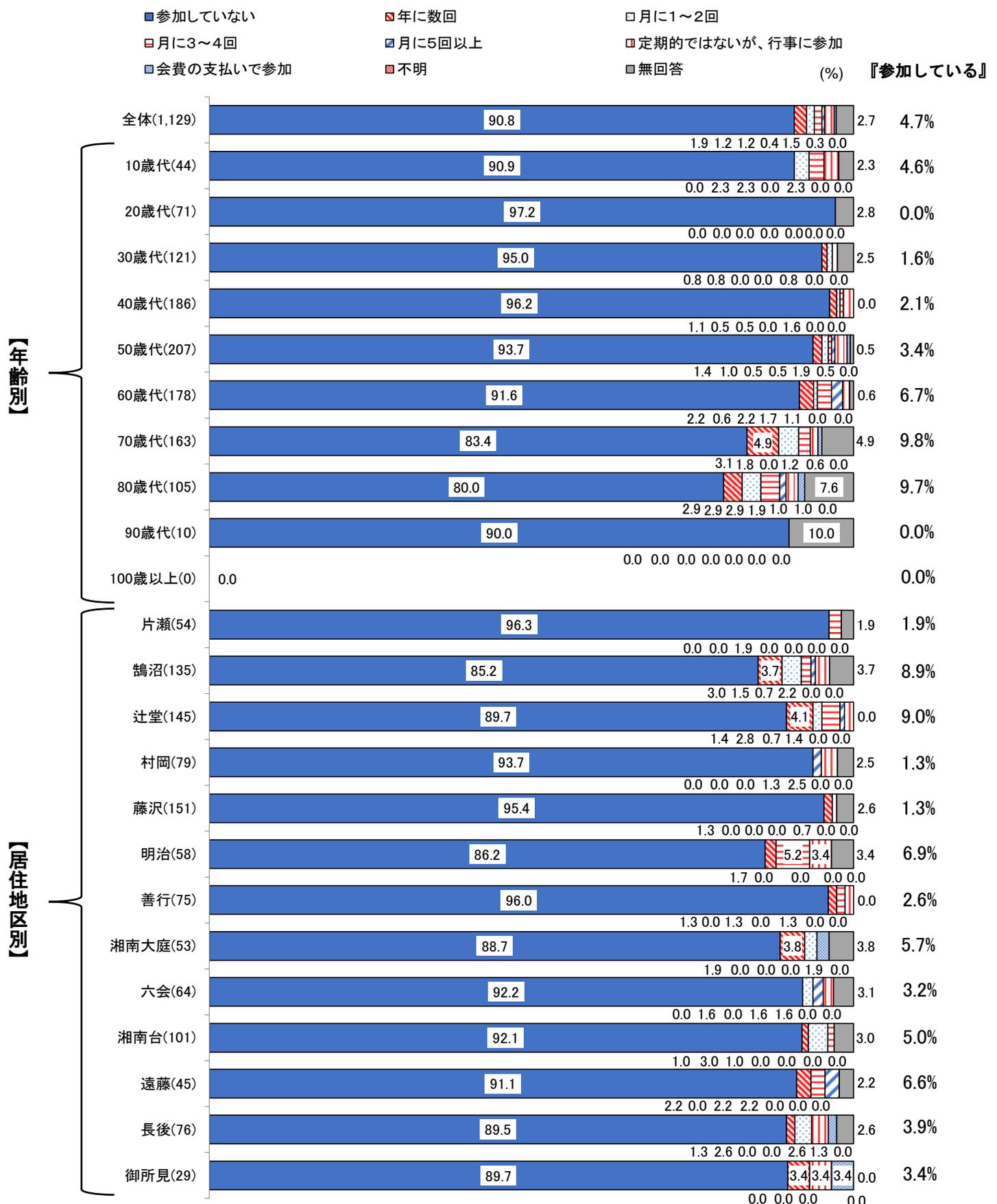
【図表8：年齢別・居住地区別／参加の頻度②】地域団体



『参加している』割合を年齢別にみると、90歳代が20.0%と高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代が95.8%と非常に高くなっている。

居住地区別に『参加している』割合をみると、辻堂(11.1%)が高い一方、「参加していない」割合は、遠藤(91.1%)、六会(90.6%)、片瀬(88.9%)などで高くなっている。

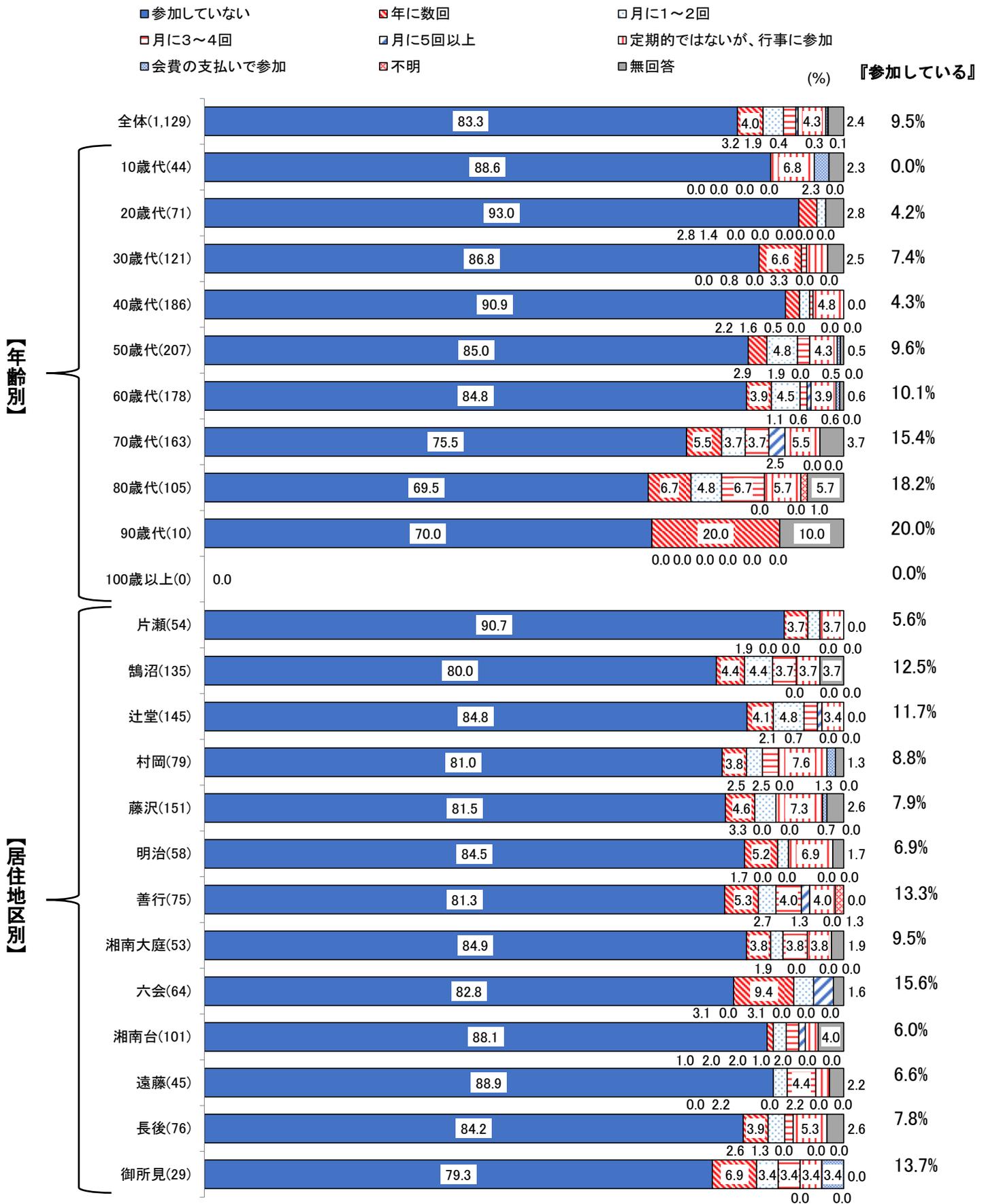
【図表9：年齢別・居住地区別／参加の頻度③】 市民活動団体（NPO含む）



『参加している』割合を年齢別にみると、70歳代（9.8%）や80歳代（9.7%）で高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代（97.2%）、40歳代（96.2%）で高くなっている。

居住地区別に『参加している』割合をみると、辻堂（9.0%）、鶴沼（8.9%）などで高くなっている。

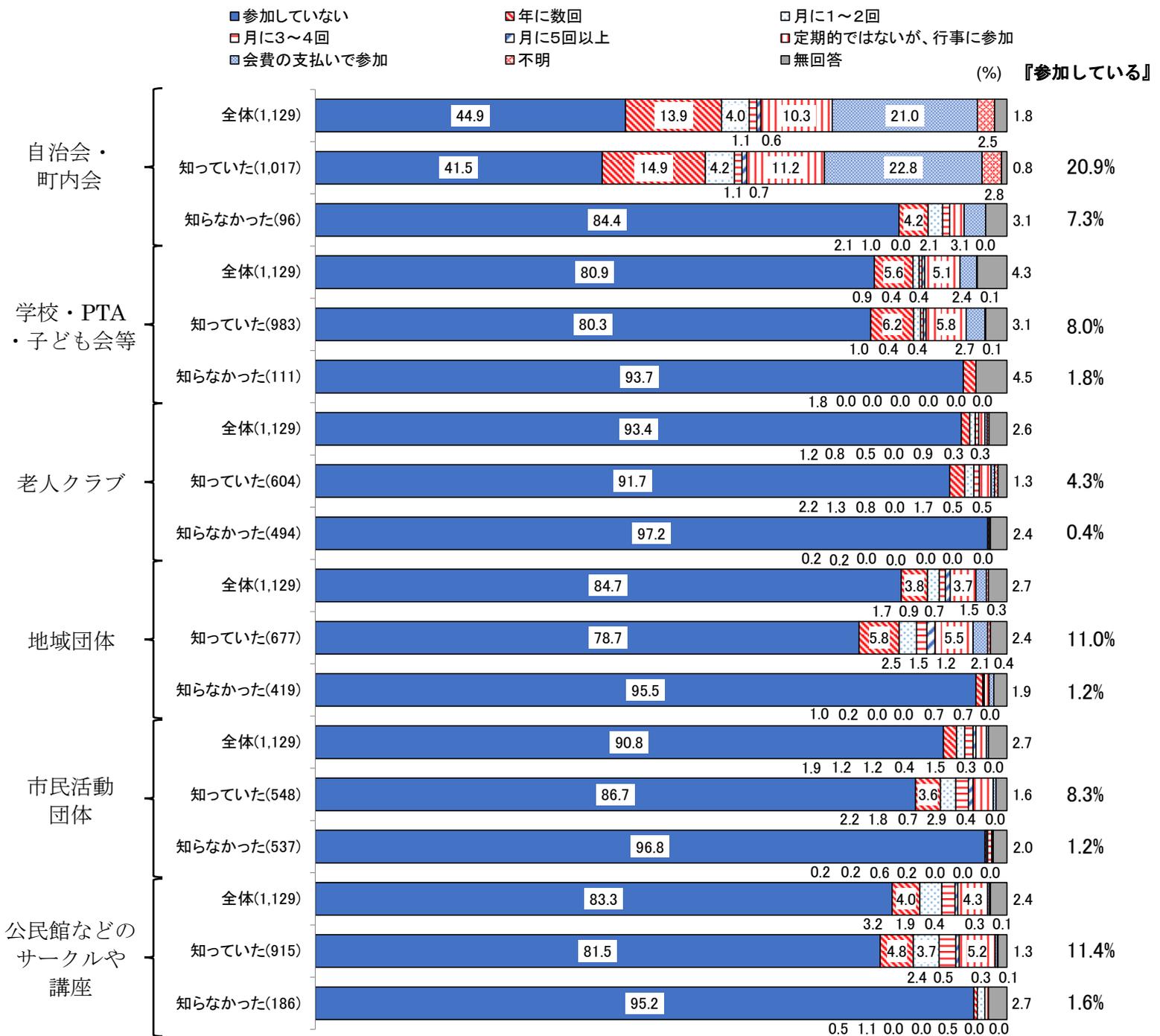
【図表10：年齢別・居住地区別／参加の頻度④】 公民館などのサークルや講座



『参加している』割合を年齢別にみると、90歳代（20.0%）で高くなっている一方、「参加していない」割合は、20歳代（93.0%）や40歳代（90.9%）で高くなっている。

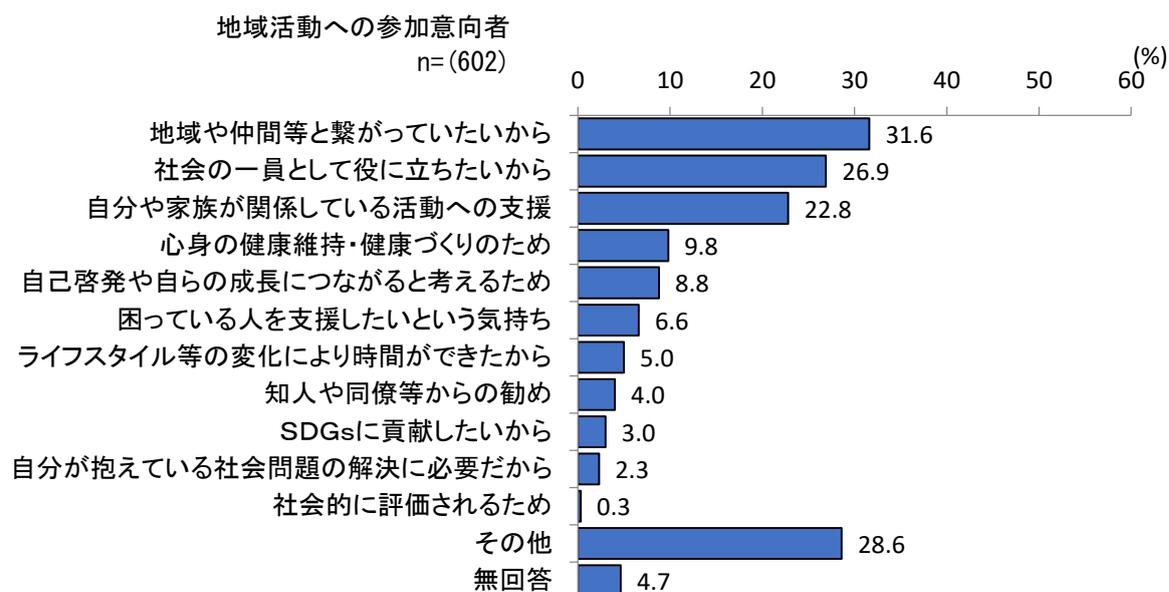
居住地区別に『参加している』割合をみると、六会（15.6%）や御所見（13.7%）などで高い一方、「参加していない」割合は、片瀬（90.7%）や遠藤（88.9%）、湘南台（88.1%）などで高くなっている。

【図表 1 1 : 地域活動の周知状況別／参加の頻度】



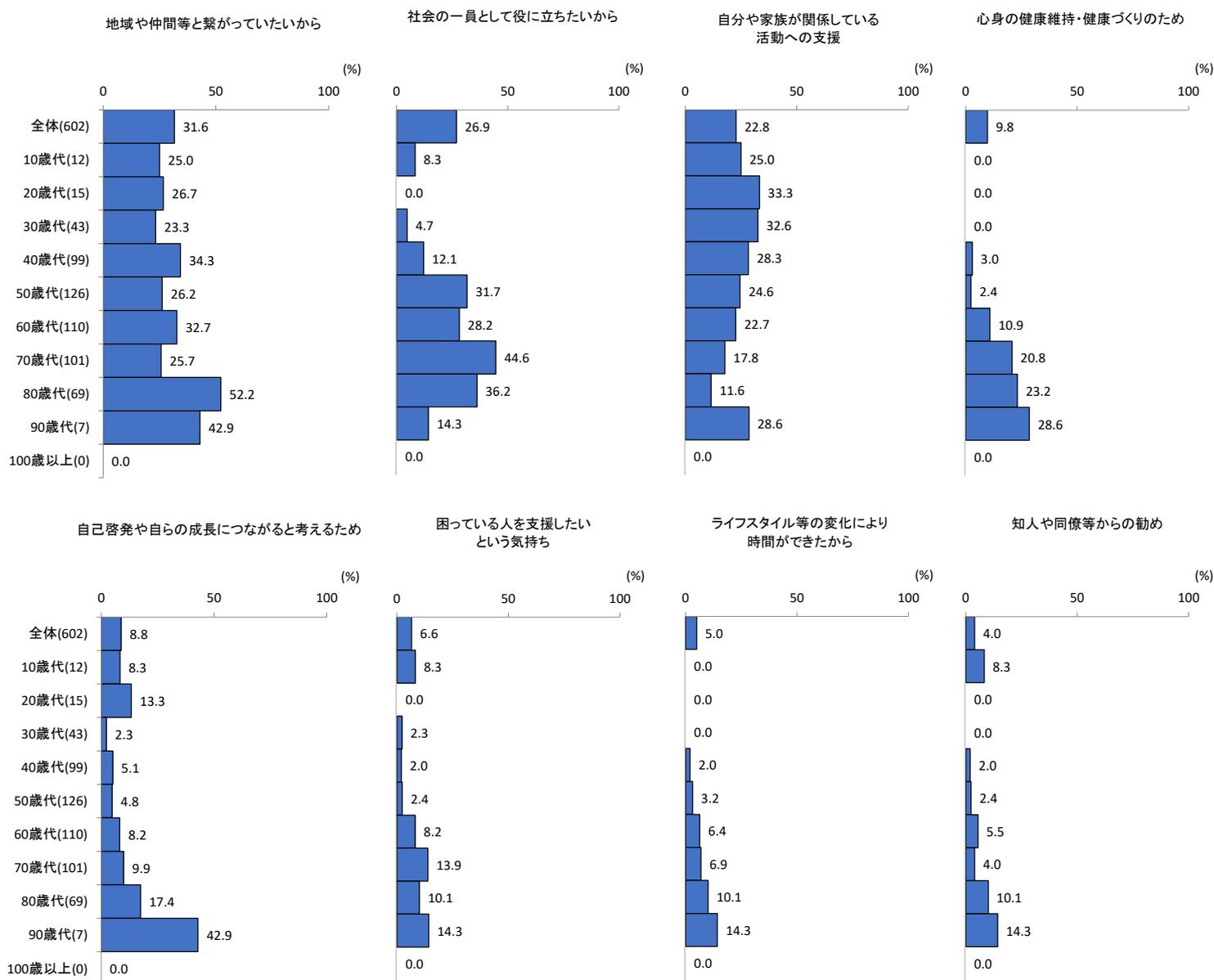
地域活動の周知状況別で見ると、「自治会・町内会」を「知っていた」で『参加している』割合は 20.9%、「学校・PTA・子ども会等」を「知っていた」で『参加している』割合は 8.0%、「老人クラブ」を「知っていた」で『参加している』割合は 4.3%、「地域団体」を「知っていた」で『参加している』割合は 11.0%、「市民活動団体（NPOを含む）」を「知っていた」で『参加している』割合は 8.3%、「公民館などのサークルや講座」を「知っていた」で『参加している』割合は 11.4%となっている。

【図表12：地域活動の参加の理由①】自治会・町内会

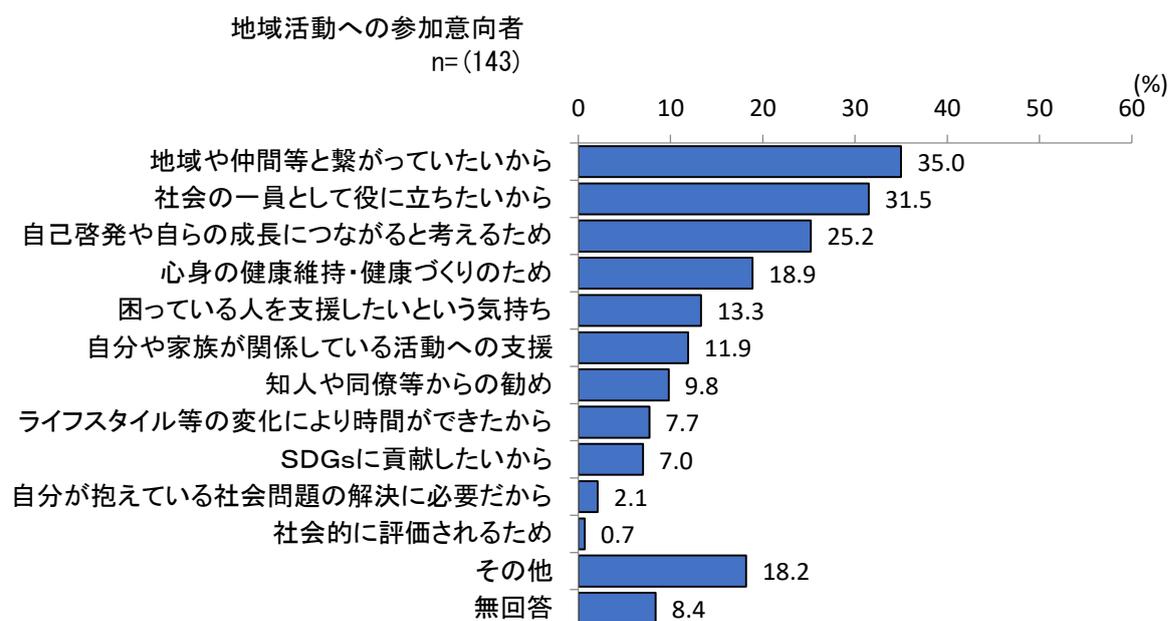


自治会・町内会への参加理由については、「地域や仲間等と繋がってみたいから」が31.6%と最も高く、次いで、「社会の一員として役に立ちたいから」(26.9%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(22.8%)の順となっている。

【図表13：年齢別／参加の理由①】自治会・町内会 上位8項目

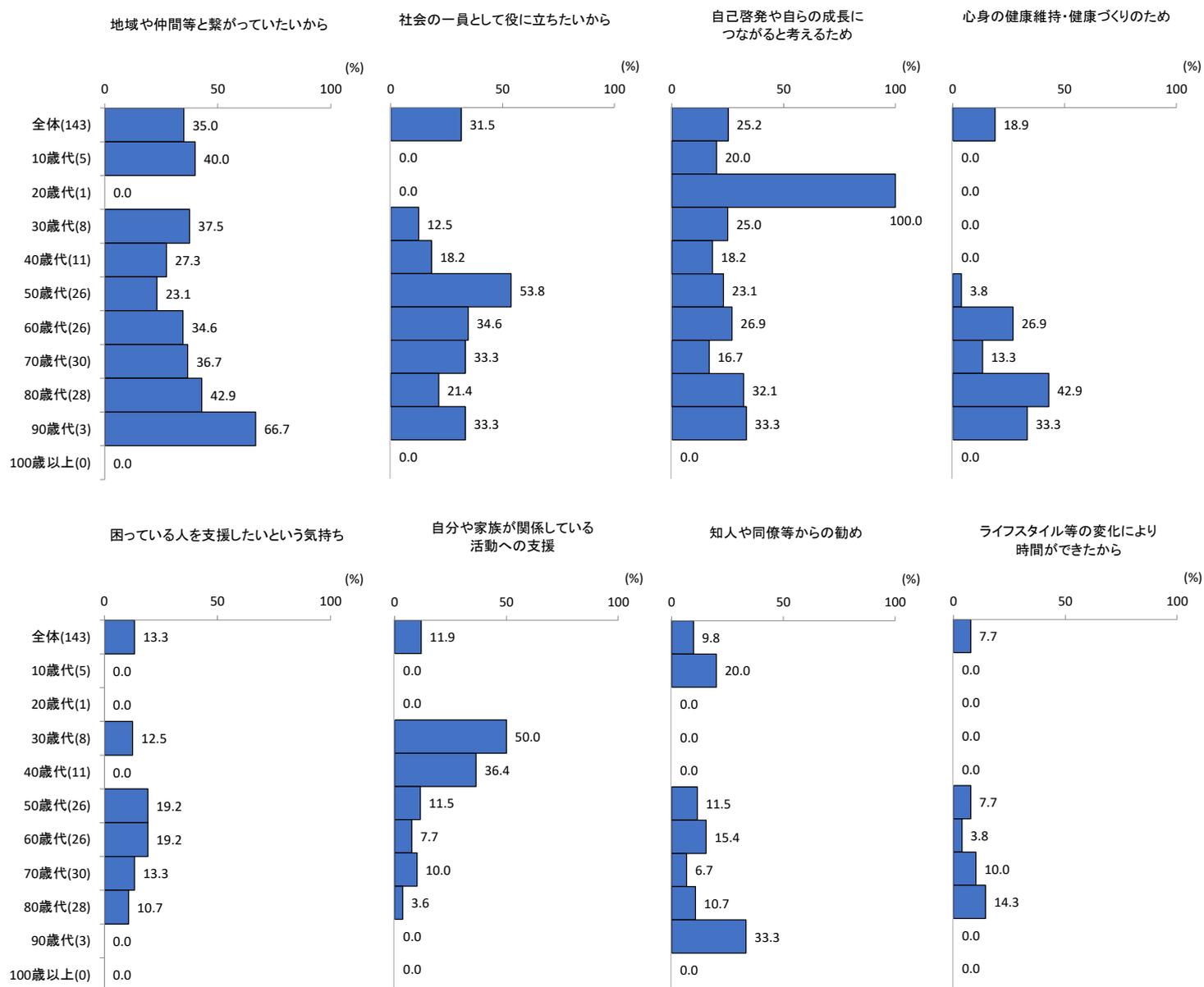


「地域や仲間等と繋がっていたいから」を年齢別で見ると、80歳代が52.2%と最も高くなっている。「社会の一員として役に立ちたいから」は、70歳代(44.6%)や80歳代(36.2%)が他の年代に比べて割合が高くなっている。

【図表14：地域活動の参加の理由②】**地域団体**

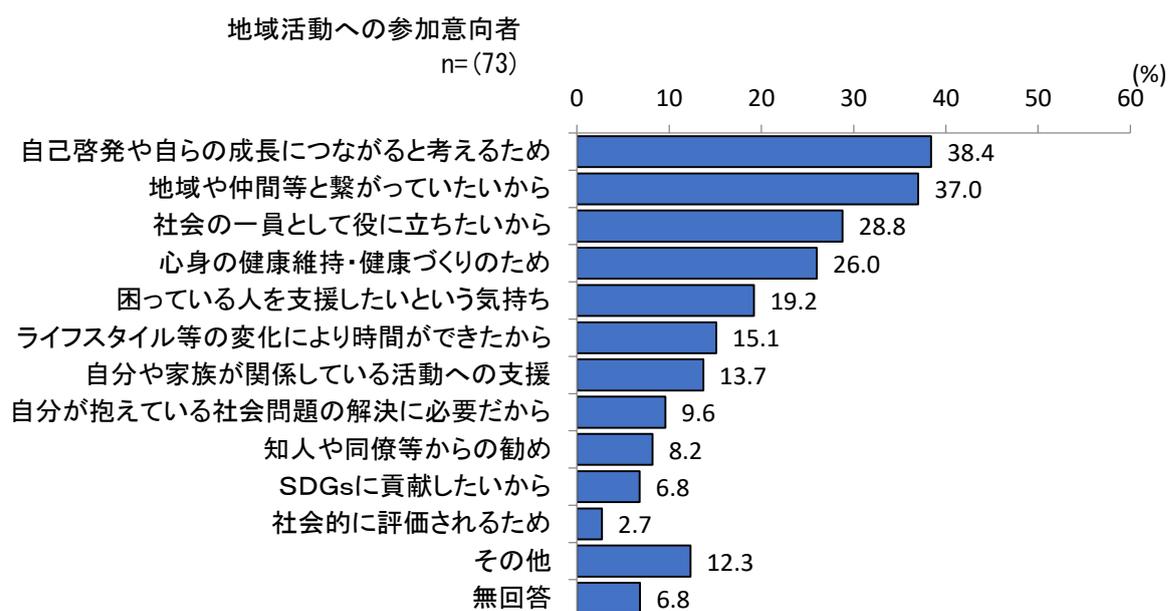
地域団体への参加理由については、「地域や仲間等と繋がってみたいから」が 35.0%と最も高く、次いで、「社会の一員として役に立ちたいから」(31.5%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(25.2%)の順となっている。

【図表15：年齢別／参加の理由②】**地域団体** 上位8項目



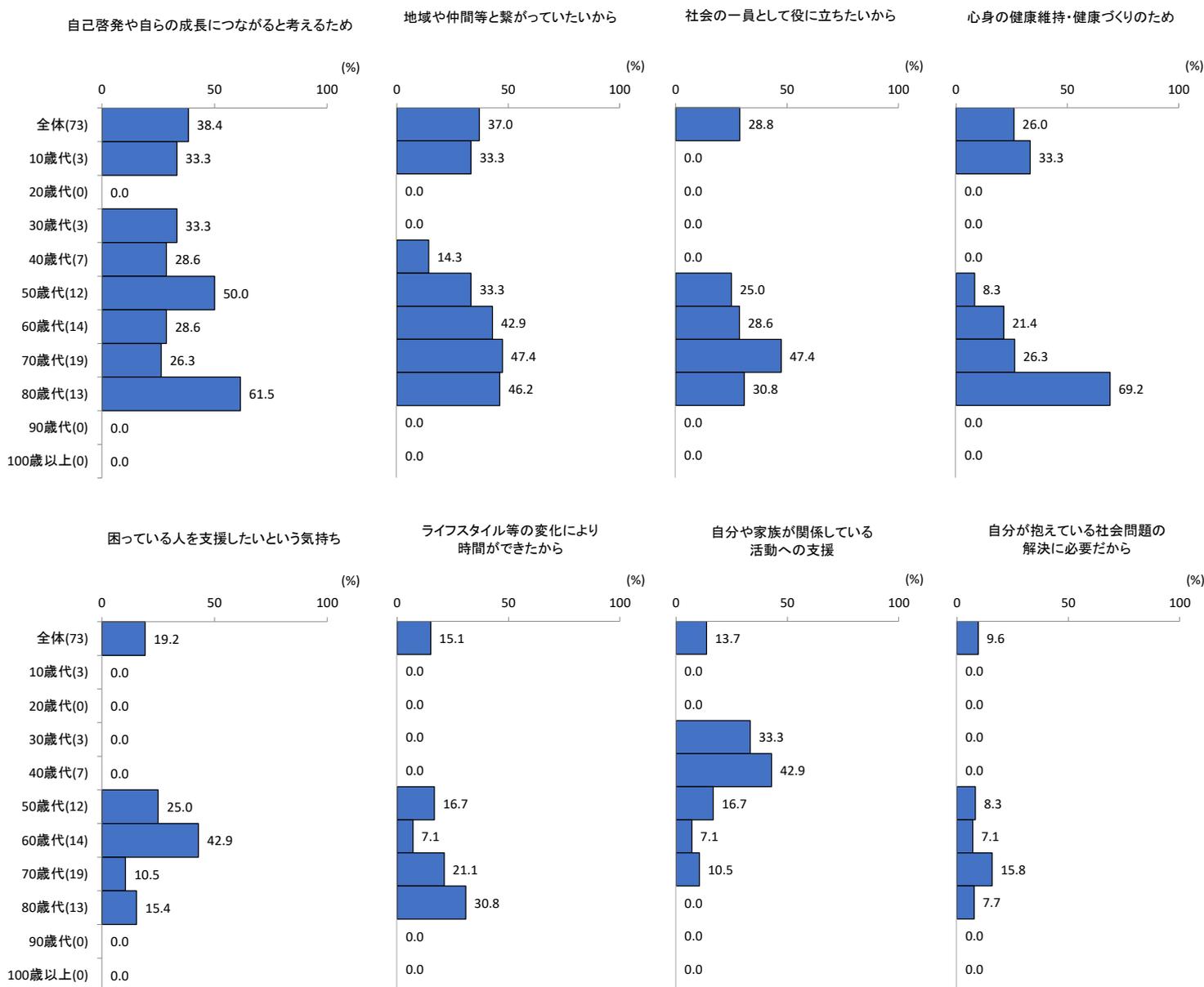
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表16：地域活動の参加の理由③】 市民活動団体（NPOを含む）



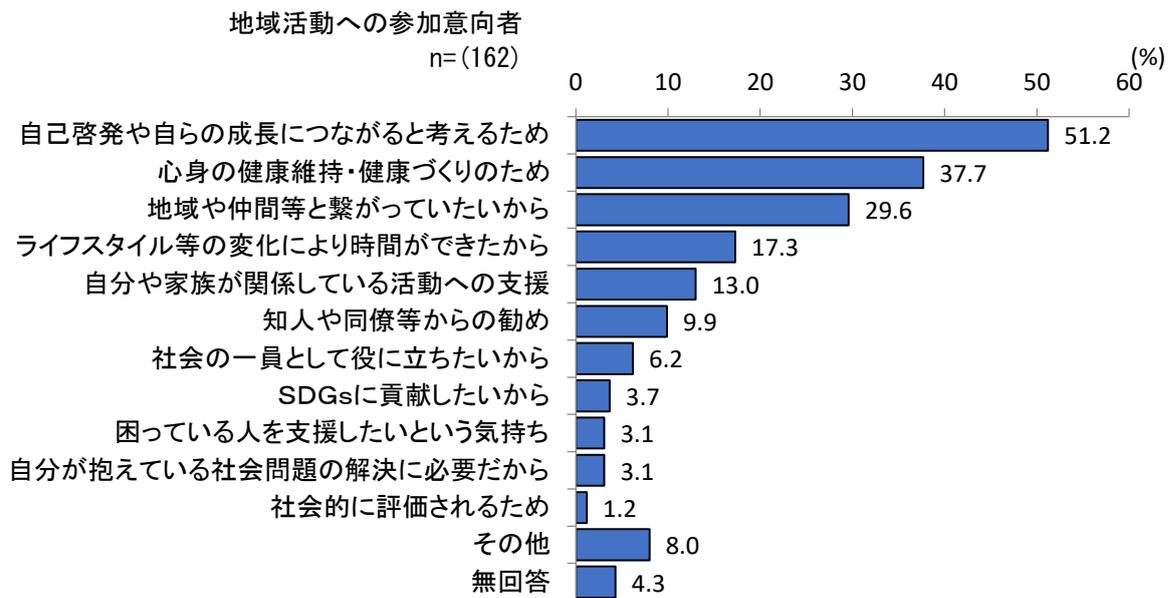
市民活動団体（NPOを含む）への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が38.4%と最も高く、次いで、「地域や仲間等と繋がっていたいから」（37.0%）、「社会の一員として役に立ちたいから」（28.8%）の順となっている。

【図表17：年齢別／参加の理由③】市民活動団体（NPOを含む） 上位8項目



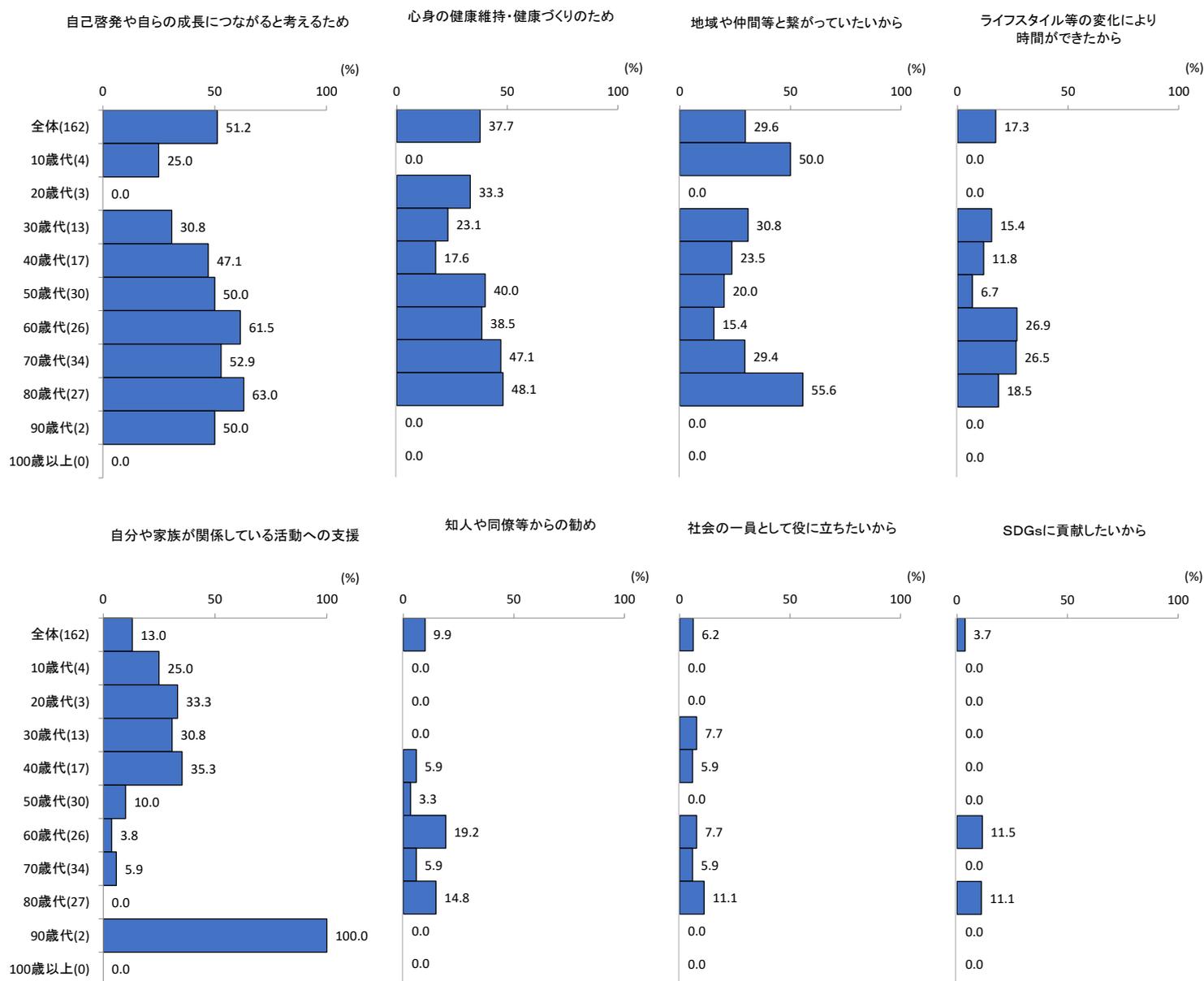
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表18：地域活動の参加の理由④】 公民館などのサークルや講座



公民館などのサークルや講座への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が 51.2%と最も高く、次いで、「心身の健康維持・健康づくりのため」（37.7%）、「地域や仲間等と繋がっていたいから」（29.6%）の順となっている。

【図表19：地域活動の参加の理由④】 **公民館などのサークルや講座** 上位8項目



年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

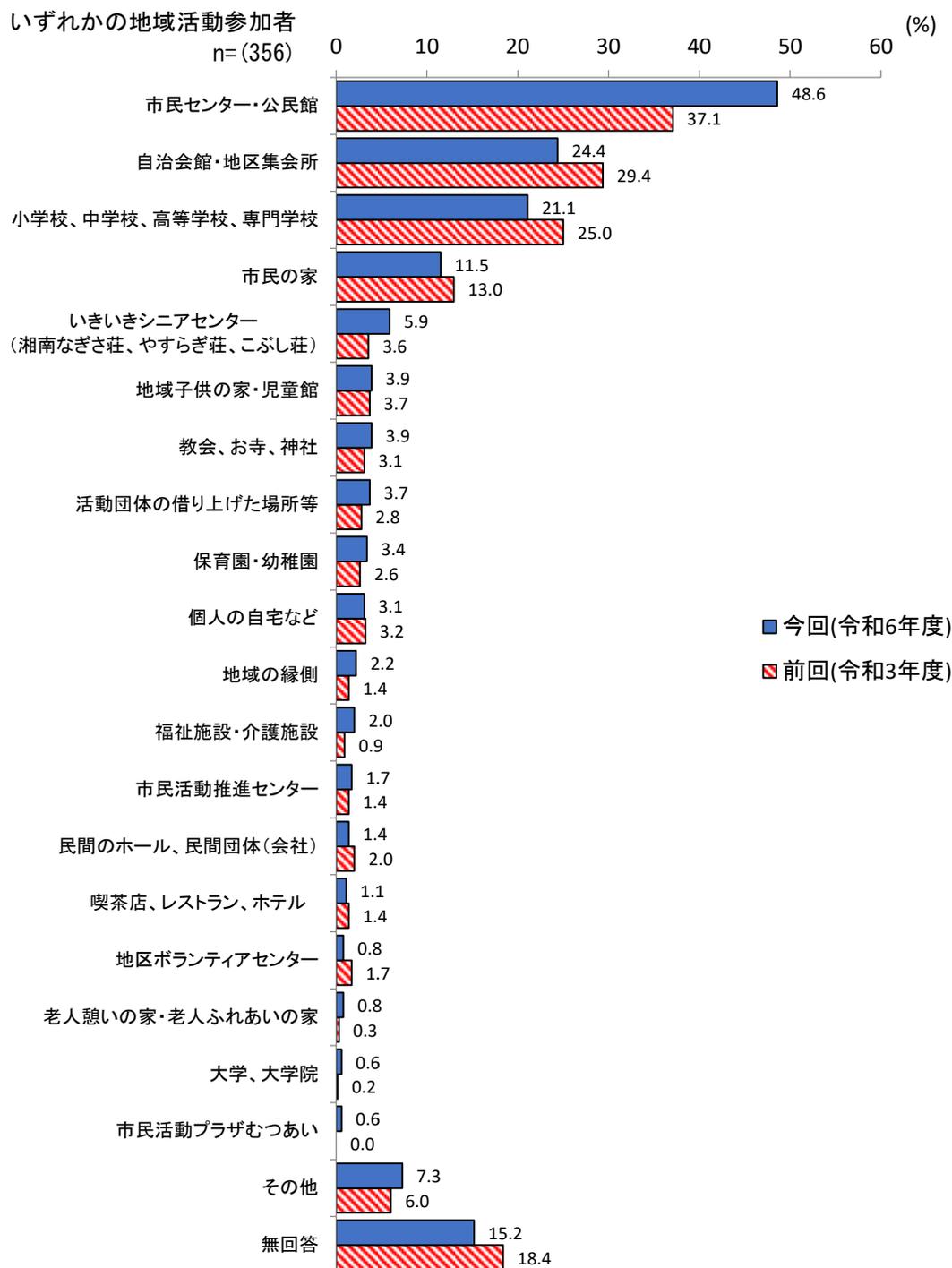
(3) 地域活動を行う場として利用している施設

【問1-2、「①参加の頻度」で2~5に○を一つでもつけた方にお聞きします】

問1-3 あなたが地域活動を行う場として利用している施設（場所）はどこですか。

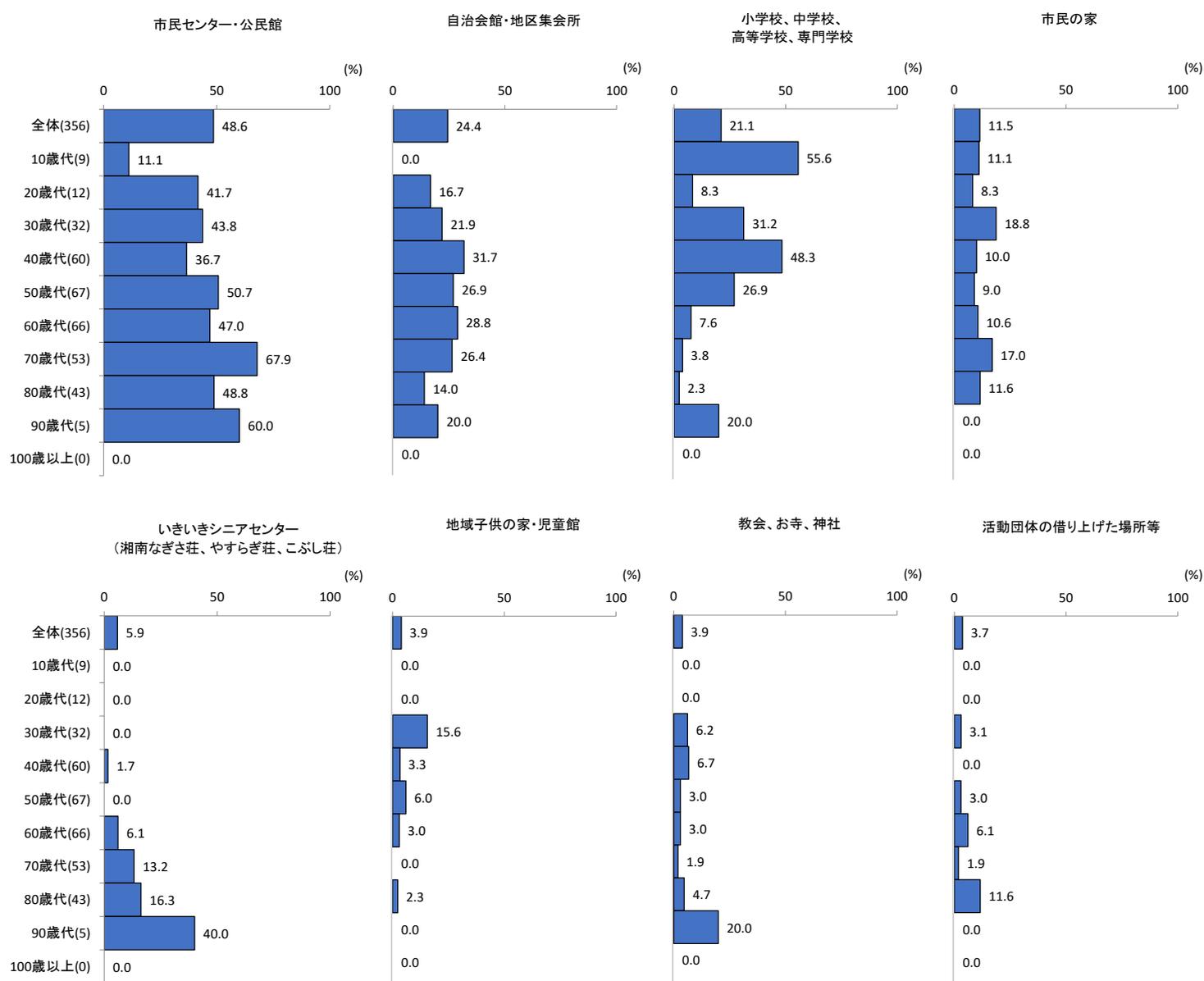
（あてはまるものすべてに○）

【図表20：地域活動を行う場として利用している施設】



地域活動を行う場としては、「市民センター・公民館」を利用している割合が48.6%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」(24.4%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(21.1%)、「市民の家」(11.5%)の順となっている。また、上位4項目は前回調査と変動は無いが、「市民センター・公民館」以外は数値としては減少傾向にある。

【図表21：年齢別／地域活動を行う場として利用している施設】上位8項目



「市民センター・公民館」の利用割合を年齢別で見ると、70歳代(67.9%)や90歳代(60.0%)が高い。「自治会館・地区集会所」は、40歳代(31.7%)や60歳代(28.8%)の割合が高く、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」は、10歳代の利用割合が55.6%と高くなっている。

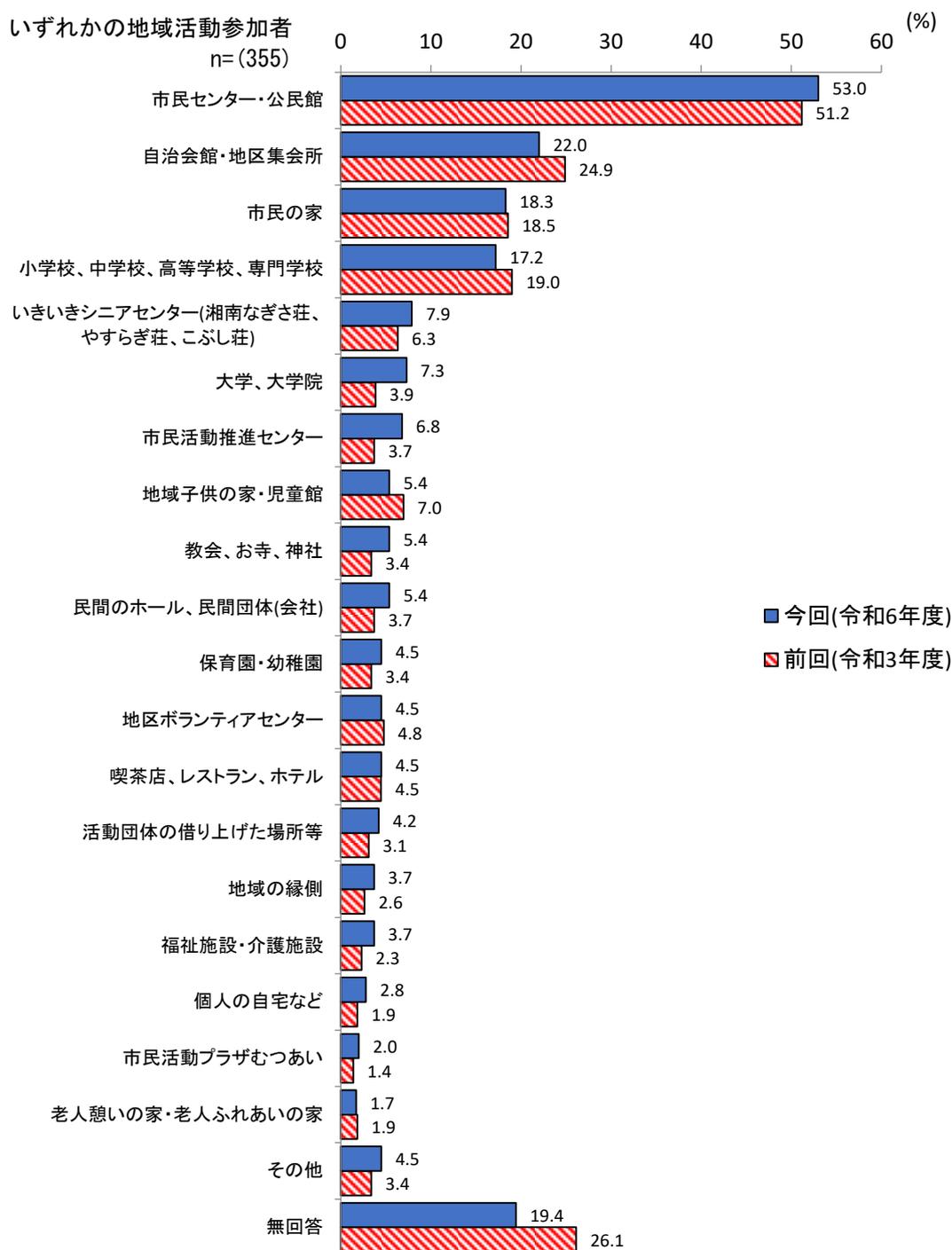
(4) 地域活動を行う場として今後利用したい施設

【問1-2、「①参加の頻度」で2~5に一つでも○をつけた方にお聞きします】

問1-4 あなたが地域活動を行う場として今後利用したい施設（場所）はどこですか。

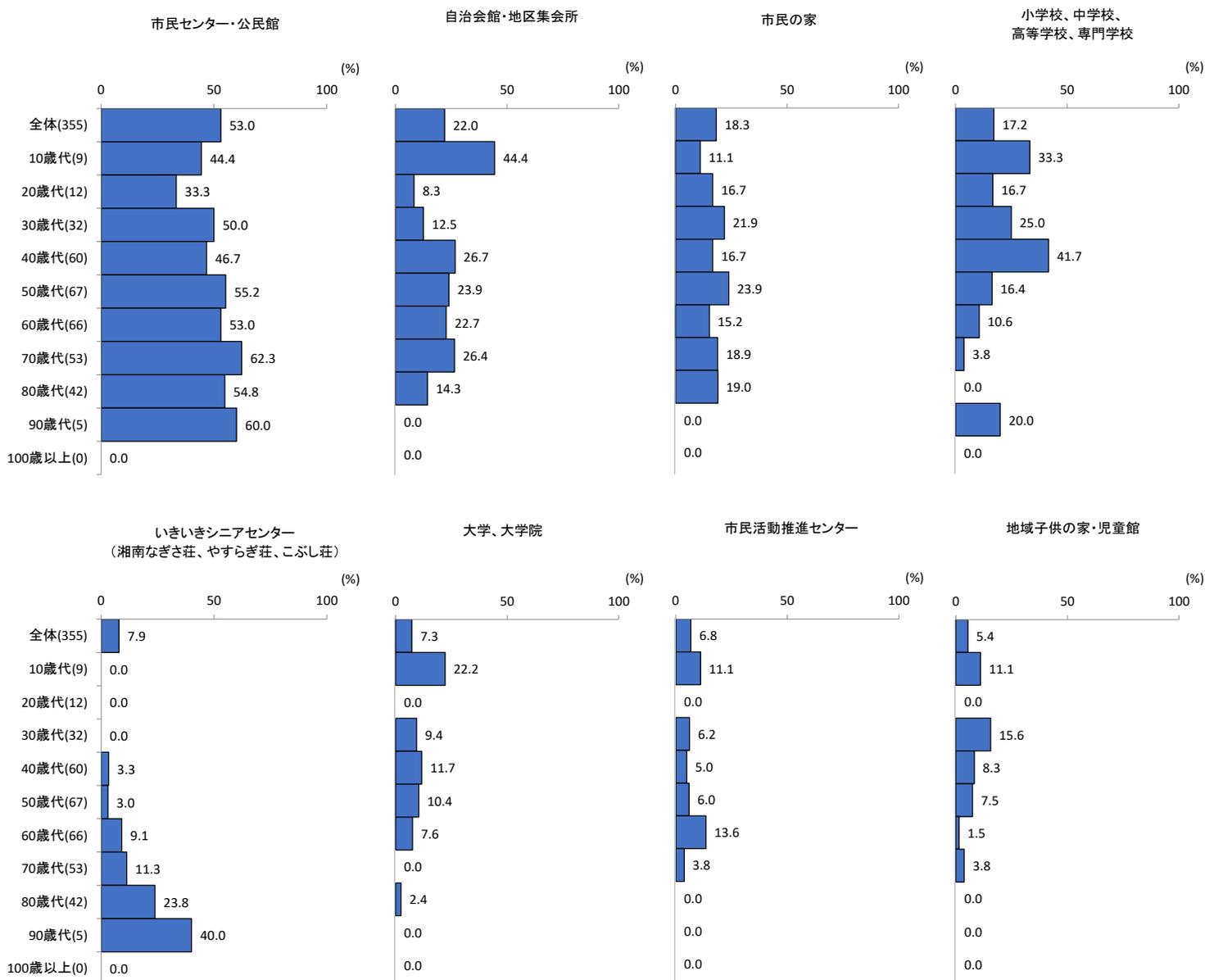
(あてはまるものすべてに○)

【図表2-2：地域活動を行う場として今後利用したい施設】



地域活動を行う場として今後利用したい施設については、「市民センター・公民館」が53.0%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」(22.0%)、「市民の家」(18.3%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(17.2%)の順となっている。

【図表23：年齢別／地域活動を行う場として今後利用したい施設】上位8項目

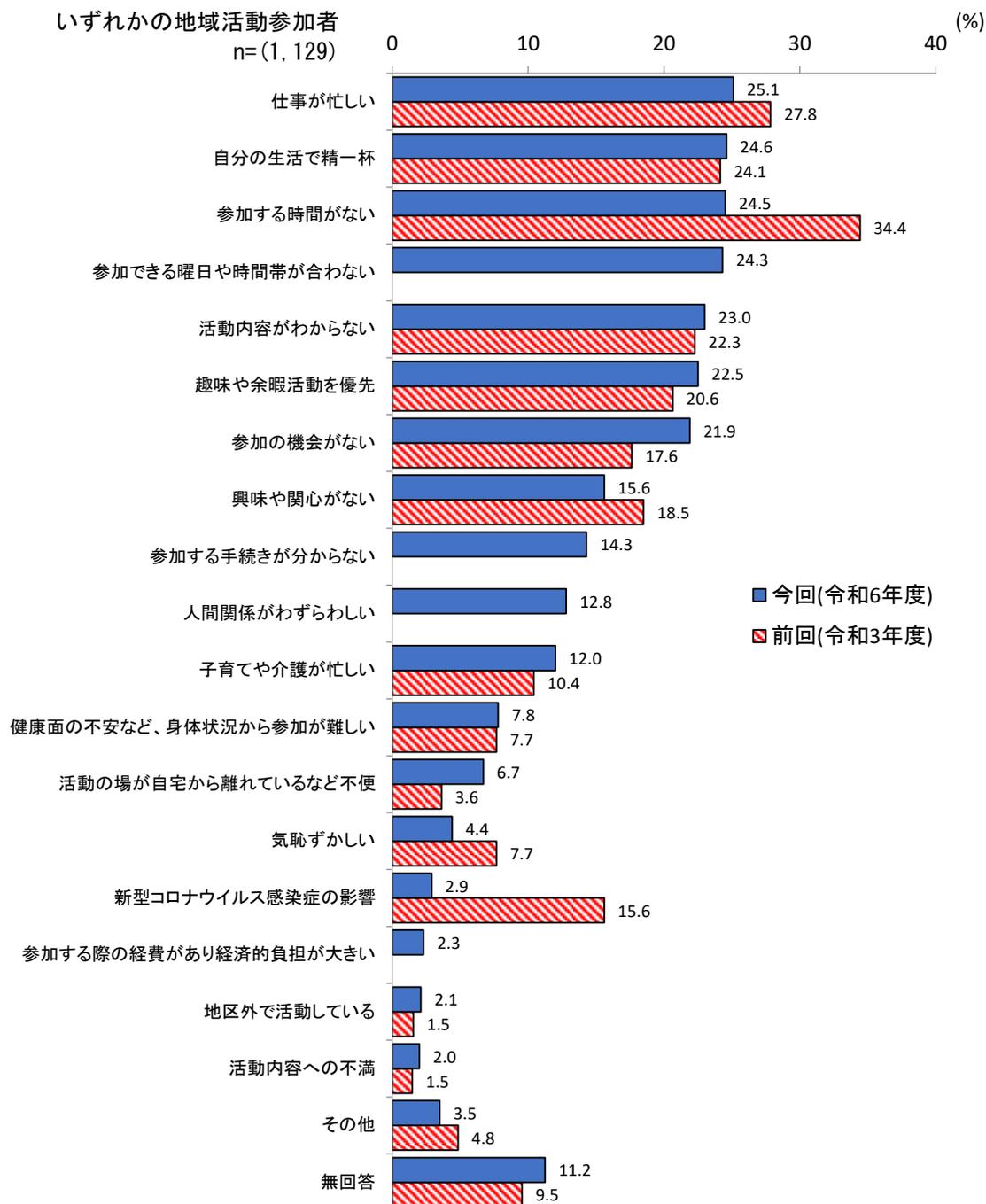


「市民センター・公民館」を年齢別で見ると、70歳代（62.3%）が最も高い。「自治会館・地区集会所」は、10歳代（44.4%）の割合が最も高く、「市民の家」は、50歳代（23.9%）が高くなっている。

(5) 地域活動に参加することに妨げとなること

問1-5 地域活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

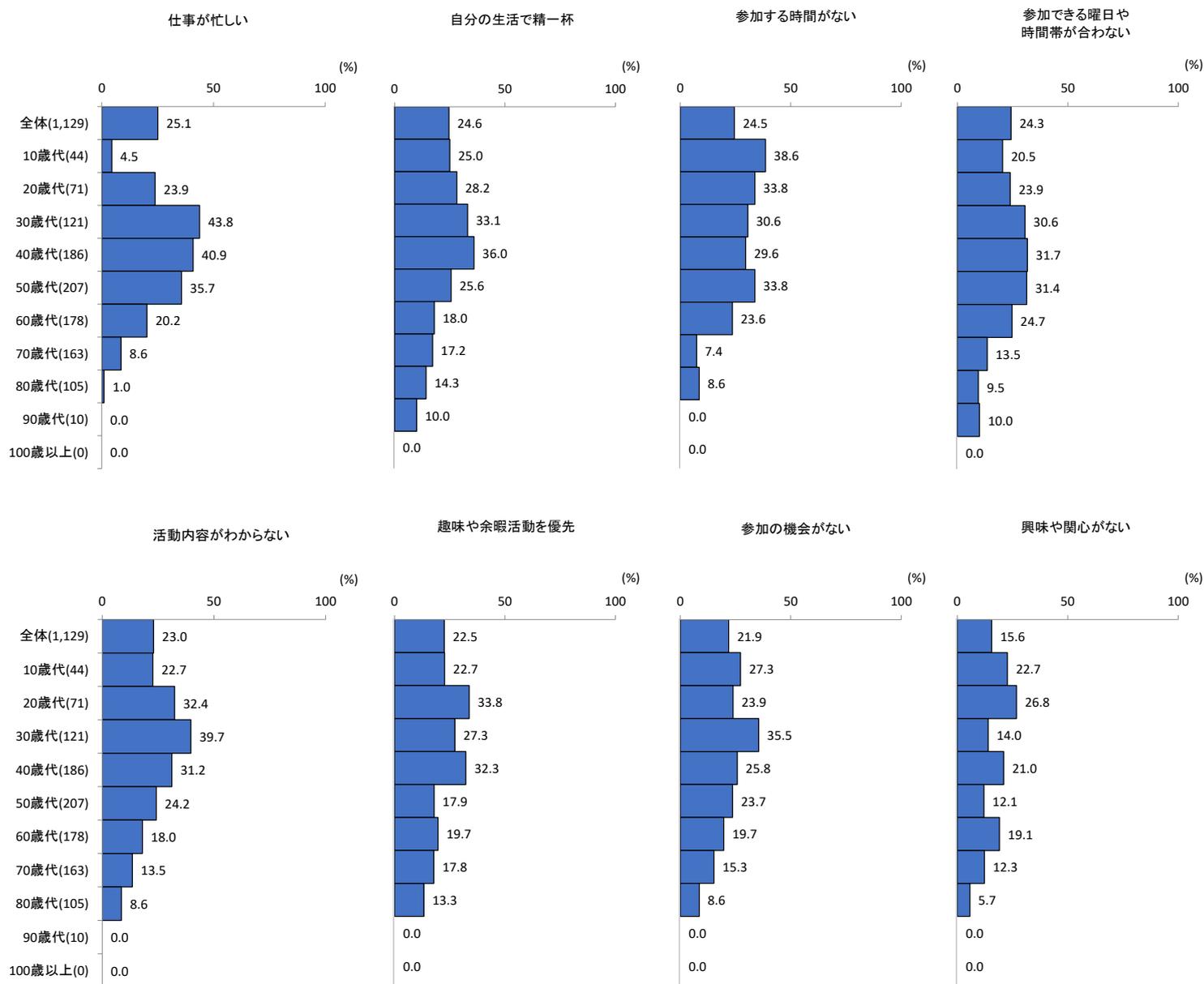
【図表2-4：地域活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安】



※「参加できる曜日や時間帯が合わない」「参加する手続きが分からない」「人間関係がわずらわしい」「参加する際の経費があり経済的負担が大きい」は今回より新設。

地域活動に参加することに妨げとなることについては、「仕事が忙しい」が25.1%と最も高く、次いで「自分の生活で精一杯」(24.6%)、「参加する時間がない」(24.5%)、「参加できる曜日や時間帯が合わない」(24.3%)、「活動内容がわからない」(23.0%)の順となっている。

【図表25：年齢別／地域活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安】上位8項目



「仕事が忙しい」では30歳代が43.8%と最も高く、次いで40歳代が40.9%となっている。「自分の生活で精一杯」は、40歳代が36.0%で最も高く、次いで30歳代が33.1%となっている。

【図表26：参加頻度「参加していない」別／地域活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安】上位5項目

参加頻度 「参加していない」	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
自治会・町内会 (n=507)	活動内容がわからない 27.6%	参加の機会がない 26.6%	自分の生活で精一杯 26.4%	仕事が忙しい 26.2%	趣味や余暇活動を優先 25.4%
学校・PTA・子ども会等 (n=913)	自分の生活で精一杯 24.9%	* 趣味や余暇活動を優先 * 仕事が忙しい 24.3%		参加する時間がない 23.9%	活動内容がわからない 23.8%
老人クラブ (n=1055)	仕事が忙しい 26.2%	* 参加する時間がない * 自分の生活で精一杯 25.9%		参加できる曜日や時間帯が合わない 24.7%	活動内容がわからない 24.1%
地域団体 (n=956)	自分の生活で精一杯 26.8%	仕事が忙しい 26.7%	参加する時間がない 26.6%	活動内容がわからない 24.9%	趣味や余暇活動を優先 24.8%
市民活動団体 (NPOを含む) (n=1025)	仕事が忙しい 27.0%	自分の生活で精一杯 26.2%	参加する時間がない 25.8%	活動内容がわからない 24.6%	参加できる曜日や時間帯が合わない 24.0%
公民館などのサークルや講座 (n=941)	自分の生活で精一杯 27.4%	仕事が忙しい 27.3%	参加する時間がない 26.8%	* 活動内容がわからない * 参加の機会がない 24.2%	

※同率の項目には「*」印をつけています

参加頻度「参加していない」別でみると、割合が最も高くなったのは、「自治会・町内会」は「活動内容がわからない」（27.6%）、「学校・PTA・子ども会等」は「自分の生活で精一杯」（24.9%）、「老人クラブ」は「仕事が忙しい」（26.2%）、「地域団体」は「自分の生活で精一杯」（26.8%）、「市民活動団体（NPOを含む）」は「仕事が忙しい」（27.0%）、「公民館などのサークルや講座」は「自分の生活で精一杯」（27.4%）となっている。

【図表27：参加頻度「自治会・町内会に参加していない」年齢別／
地域活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安】上位5項目

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
10歳代 (n=32)	参加する時間がない 34.4%	興味や関心がない 31.3%	* 参加する手続きが分からない * 趣味や余暇活動を優先 * 自分の生活で精一杯 28.1%		
20歳代 (n=54)	活動内容がわからない 37.0%	* 趣味や余暇活動を優先 * 参加する時間がない 35.2%		興味や関心がない 29.6%	* 参加する手続きが分からない * 参加の機会がない 27.8%
30歳代 (n=75)	仕事が忙しい 42.7%	参加の機会がない 40.0%	活動内容がわからない 36.0%	自分の生活で精一杯 34.7%	* 趣味や余暇活動を優先 * 参加する時間がない 30.7%
40歳代 (n=87)	仕事が忙しい 47.1%	自分の生活で精一杯 36.8%	活動内容がわからない 34.5%	趣味や余暇活動を優先 29.9%	参加の機会がない 28.7%
50歳代 (n=79)	仕事が忙しい 32.9%	参加する時間がない 29.1%	参加の機会がない 27.8%	* 活動内容がわからない * 自分の生活で精一杯 25.3%	
60歳代 (n=68)	* 活動内容がわからない * 興味や関心がない 25.0%		* 趣味や余暇活動を優先 * 参加の機会がない 22.1%		* 参加する時間がない * 仕事が忙しい 20.6%
70歳代 (n=57)	趣味や余暇活動を優先 21.1%	参加の機会がない 19.3%	自分の生活で精一杯 17.5%	興味や関心がない 15.8%	活動内容がわからない 14.0%
80歳代 (n=35)	健康面の不安など、身体状況から参加が難しい 37.1%	* 参加する手続きが分からない * 趣味や余暇活動を優先 * 自分の生活で精一杯 11.4%			* 活動内容がわからない * 参加の機会がない 8.6%

※同率の項目には「*」印をつけています

※「90歳代」は回答者数が2件のため、表からは省略しています

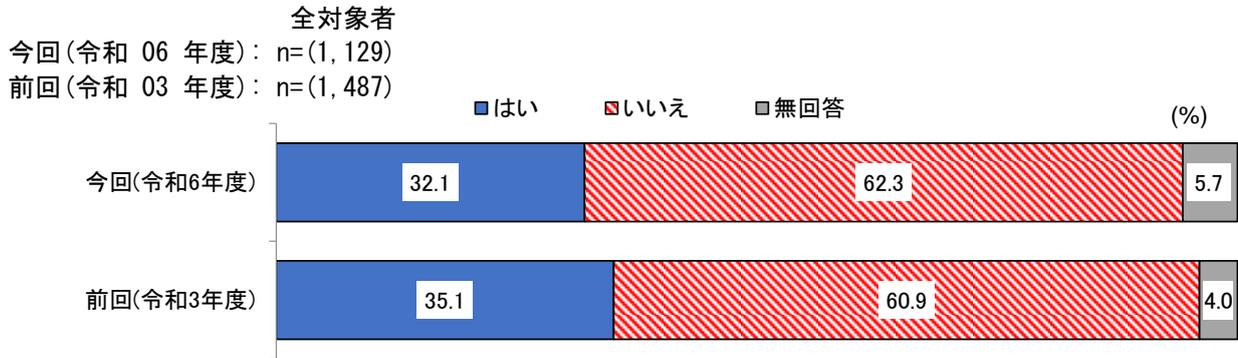
参加頻度「自治会・町内会に参加していない」年齢別でみると、割合が最も高くなったのは、10歳代では「参加する時間がない」、20歳代では「活動内容がわからない」、30～50歳代では「仕事が忙しい」、60歳代では「活動内容がわからない」と「興味や関心がない」、70歳代では「趣味や余暇活動を優先」、80歳代では「健康面の不安など、身体状況から参加が難しい」となっている。

3. 市民活動について

(1) 市民活動への参加意向

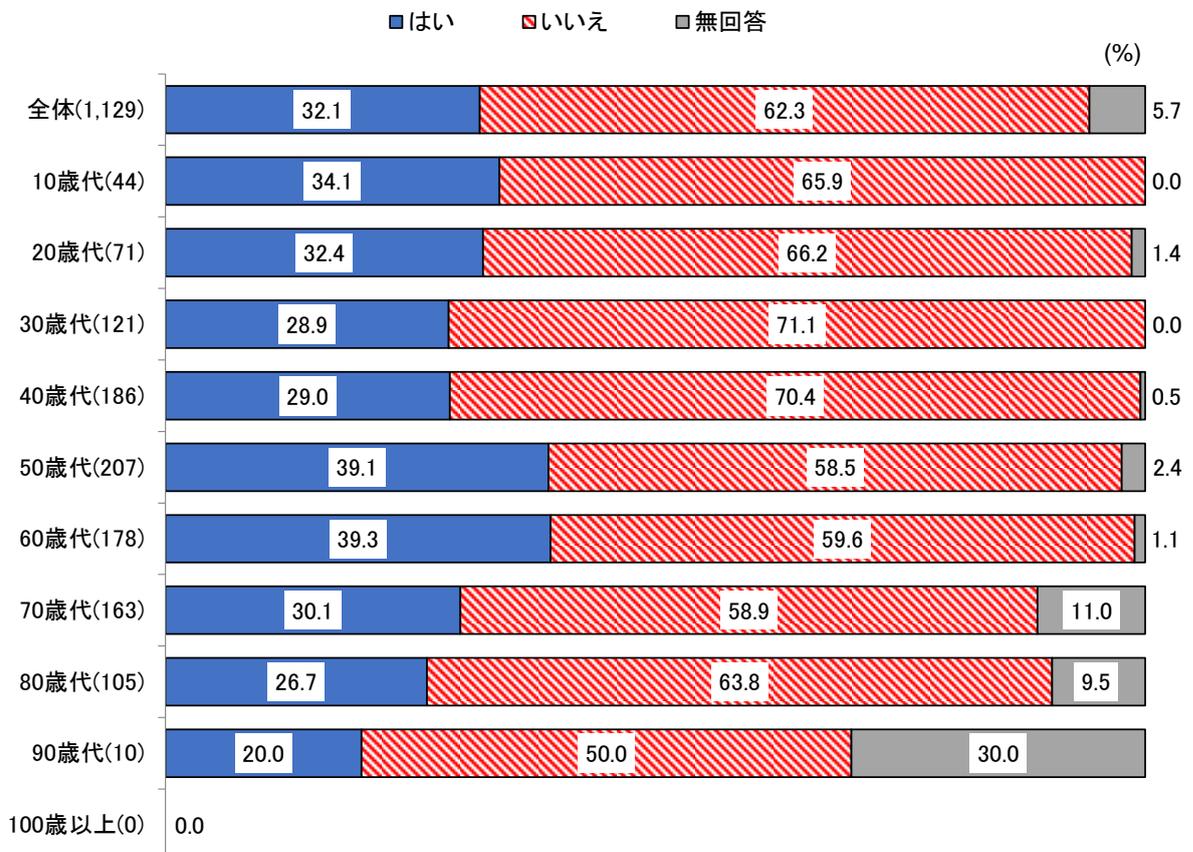
問2-1 今後、市民活動（市民活動団体（NPOを含む）の活動）に参加したいですか。
（いずれか一つに○）

【図表28：市民活動への参加意向】



市民活動への参加意向については、「はい」が32.1%と、前回調査（令和3年度）の35.1%より低くなっている。

【図表29：年齢別／市民活動への参加意向】



年齢別にみると、60歳代で「はい」の割合が39.3%と最も高く、「いいえ」の割合は30歳代が71.1%で最高値となっている。

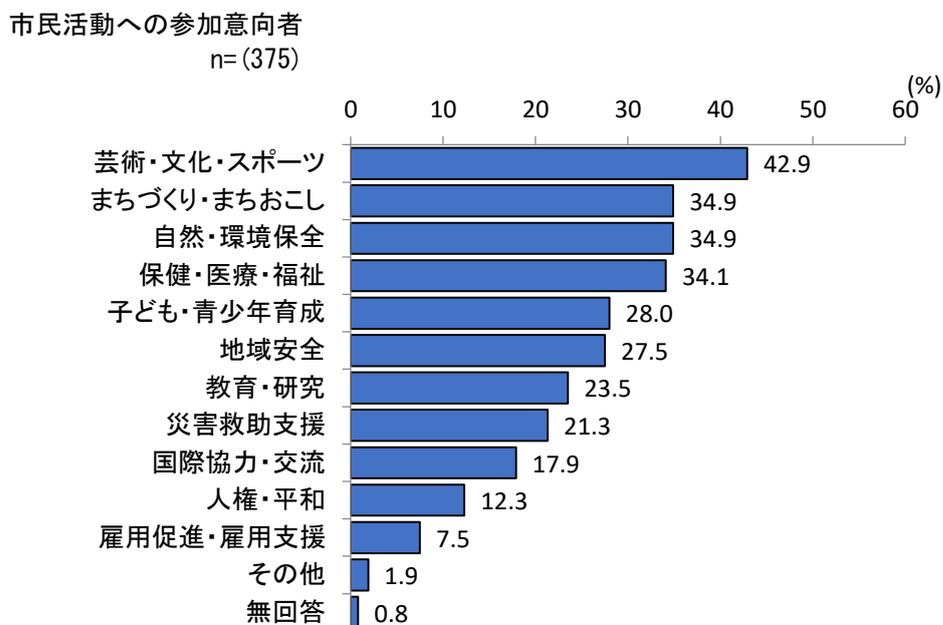
(2) 参加したい市民活動の分野

【問2-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問2-2 次のうち、参加したい市民活動の分野をお選びください。

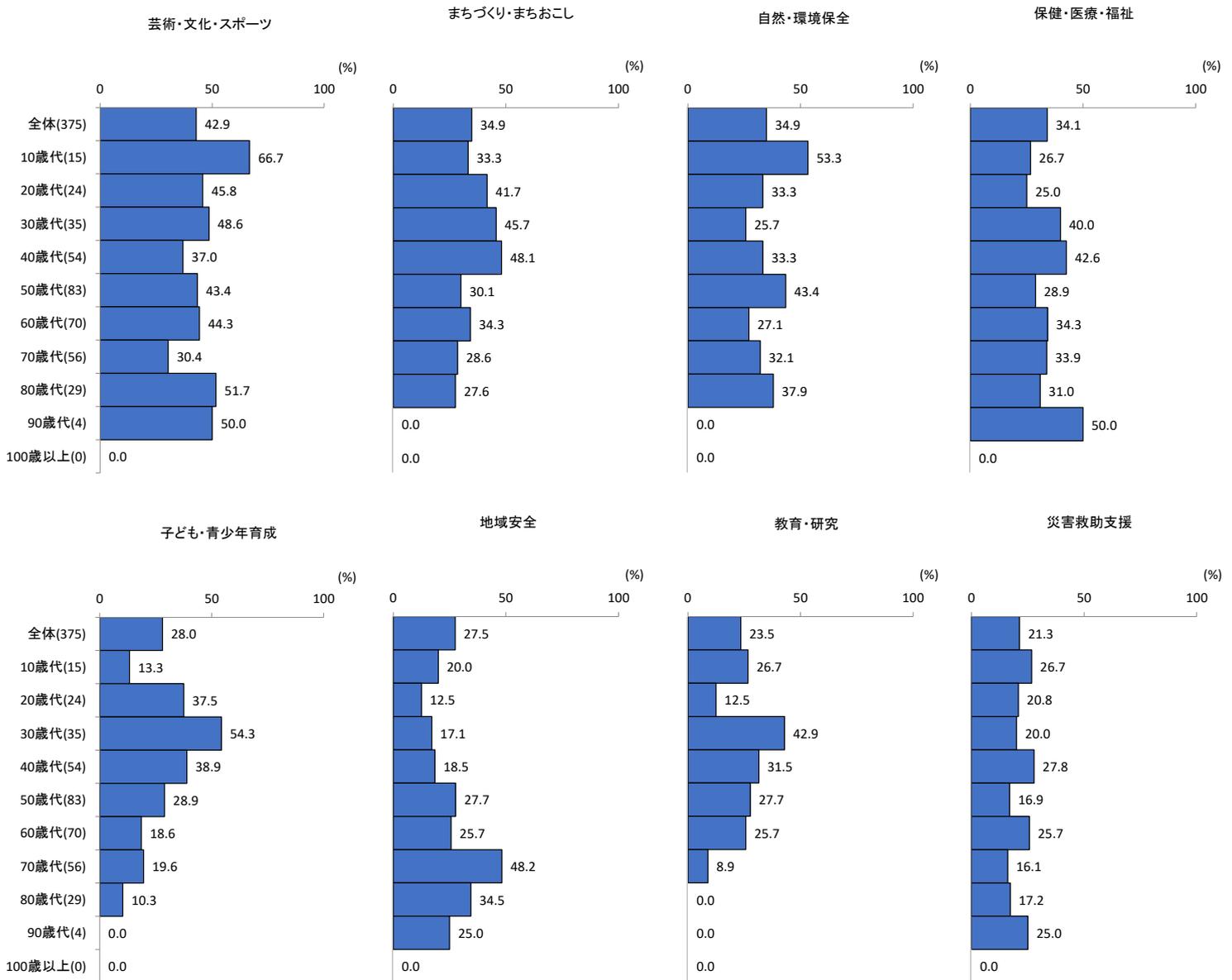
(あてはまるものすべてに○)

【図表30：参加したい市民活動の分野】



参加したい市民活動については、「芸術・文化・スポーツ」が 42.9%と最も高く、次いで、「まちづくり・まちおこし」(34.9%)、「自然・環境保全」(34.9%)、「保健・医療・福祉」(34.1%)、「子ども・青少年育成」(28.0%)の順となっている。

【図表31：年齢別／参加したい市民活動の分野】上位8項目

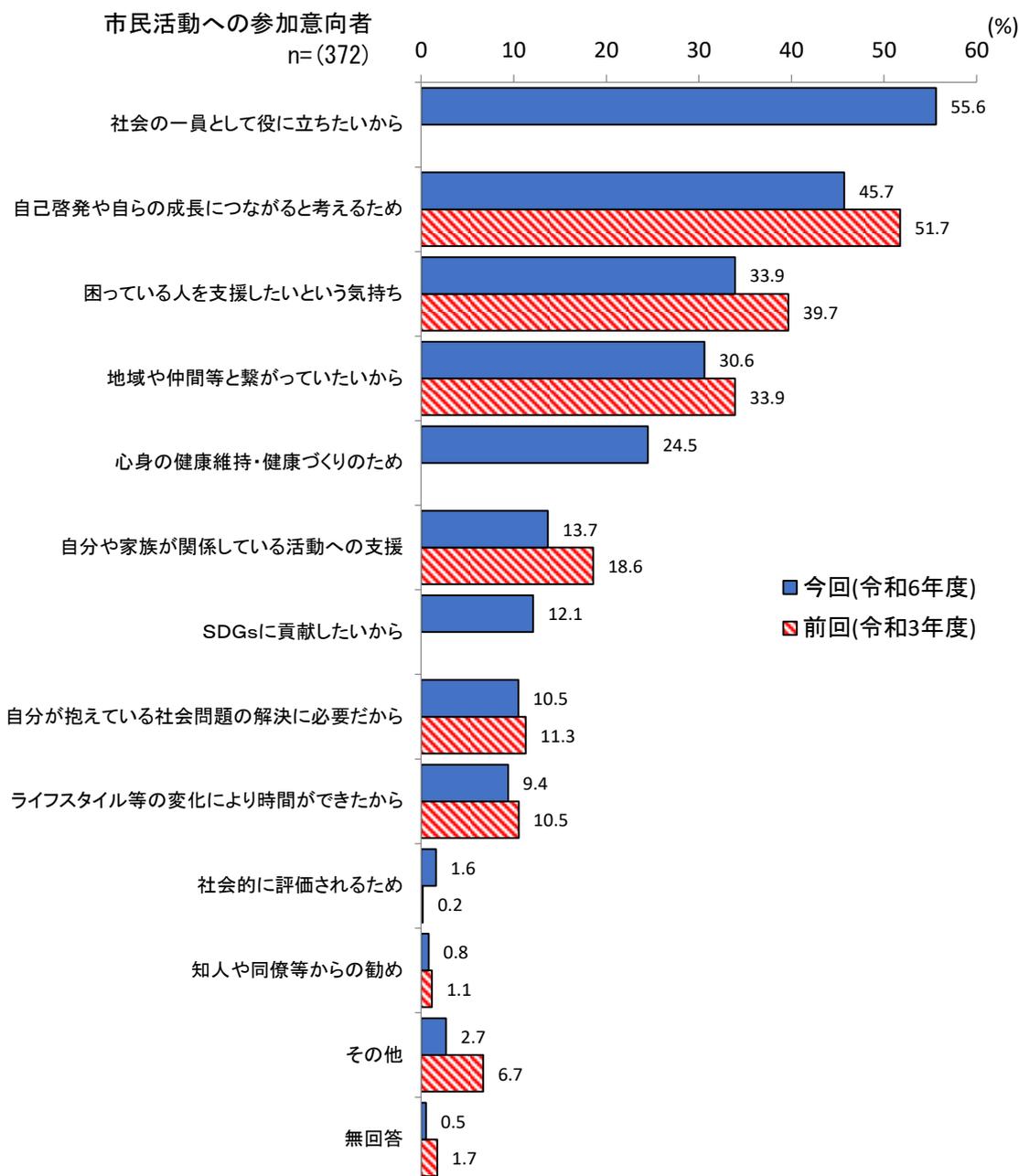


「芸術・文化・スポーツ」を年齢別で見ると、10歳代の割合が66.7%と最も高く、次いで80歳代が51.7%となっている。「まちづくり・まちおこし」は、40歳代の割合が48.1%と最も高く、次いで30歳代が45.7%となっている。

(3) 市民活動に参加したい理由

【問2-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】
 問2-3 市民活動に参加したい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

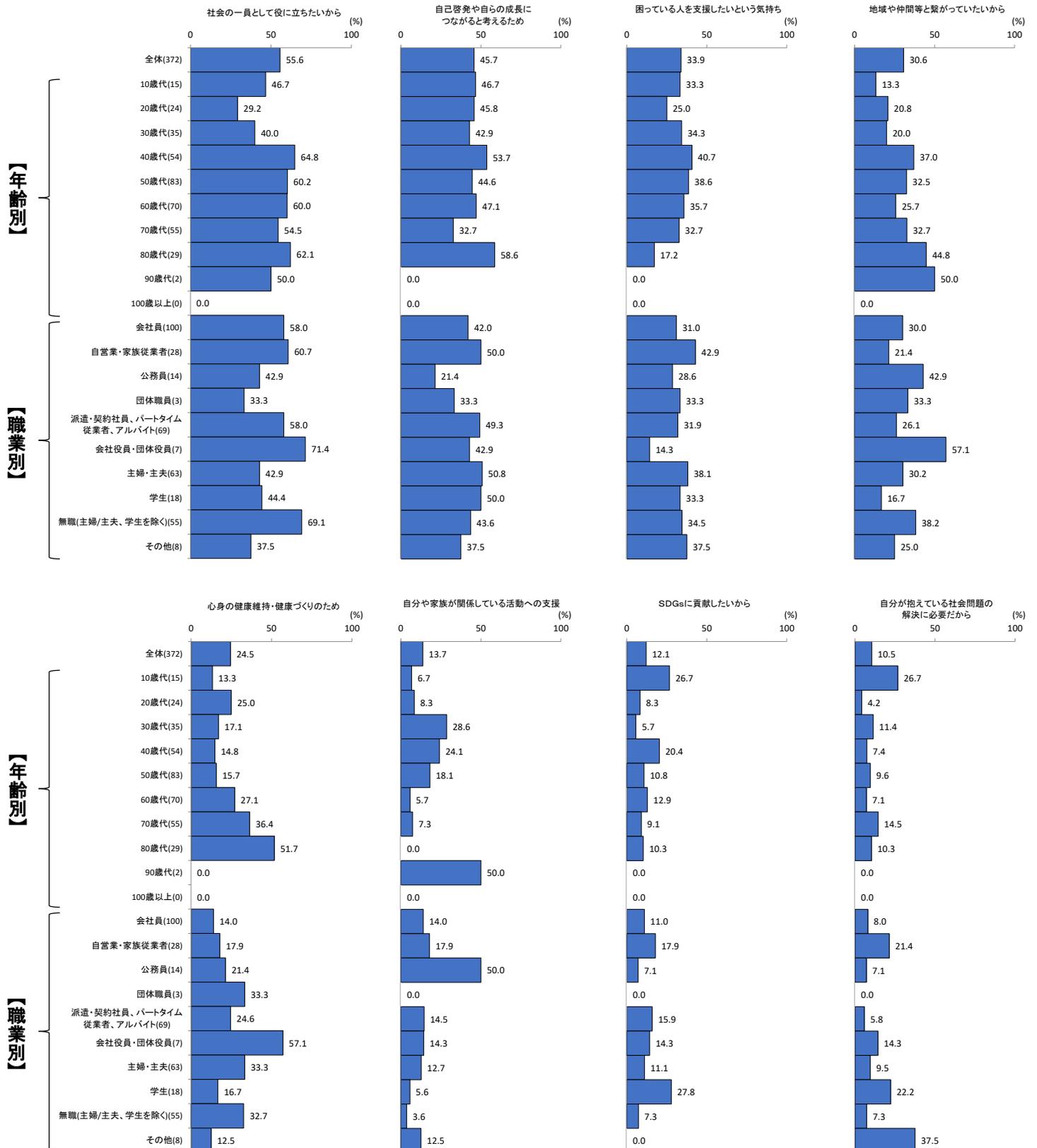
【図表32：市民活動に参加したい理由】



※「社会の一員として役に立ちたいから」「心身の健康維持・健康づくりのため」「SDGsに貢献したいから」は今回より新設。

市民活動に参加したい理由については、「社会の一員として役に立ちたいから」が55.6%と最も高く、次いで、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(45.7%)、「困っている人を支援したいという気持ち」(33.9%)「地域や仲間等と繋がっていたいから」(30.6%)の順となっている。

【図表 3 3 : 年齢別・職業別／市民活動に参加したい理由】上位 8 項目



「社会の一員として役に立ちたいから」を年齢別にみると、40 歳代 (64.8%) が最も高く、50 歳代以上も概ね 6 割前後となっている。「自己啓発や自らの成長につながると思えるため」は、80 歳代 (58.6%) が最も高くなっている。

「社会の一員として役に立ちたいから」を職業別に見た場合、会社役員・団体役員 (71.4%) が最も高く、次いで、無職(主婦/主夫、学生を除く)が 69.1%となっている。

【図表34：市民活動団体への期待の有無別／市民活動に参加したい理由】上位5項目

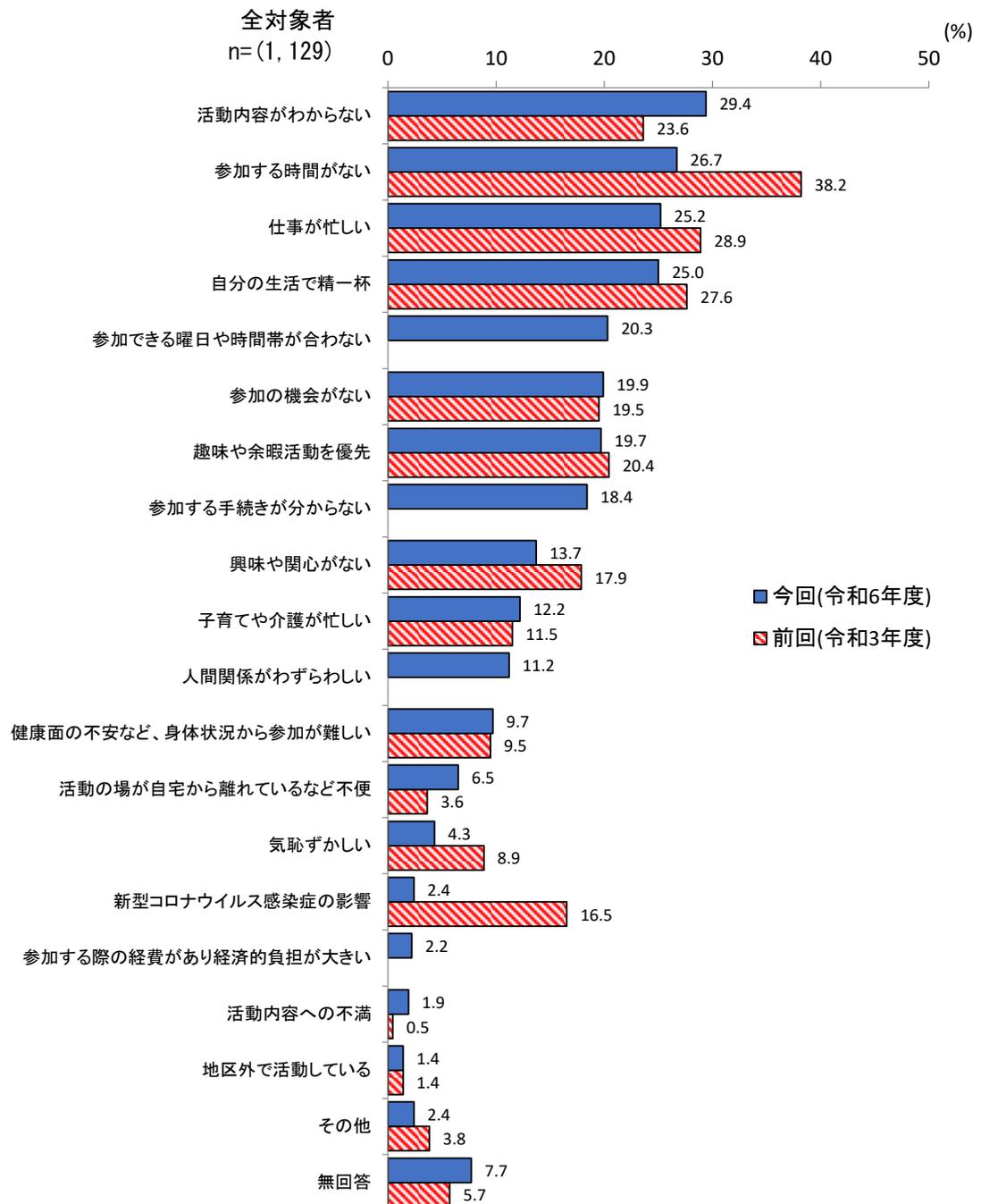
市民活動団体への期待の有無	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
はい (n=221)	社会の一員として役に立ちたいから 62.9%	自己啓発や自らの成長につながると考えるため 49.3%	困っている人を支援したいという気持ち 37.6%	地域や仲間等と繋がっていたいから 34.8%	心身の健康維持・健康づくりのため 25.3%
いいえ (n=140)	社会の一員として役に立ちたいから 44.3%	自己啓発や自らの成長につながると考えるため 40.0%	困っている人を支援したいという気持ち 28.6%	地域や仲間等と繋がっていたいから 23.6%	心身の健康維持・健康づくりのため 22.1%

市民活動団体への期待の有無別にみると、「はい」「いいえ」共に「社会の一員として役に立ちたいから」が最も割合が高くなっている。「はい」は62.9%、「いいえ」は44.3%となっている。

(4) 市民活動に参加することに妨げとなること

問2-4 市民活動に参加することに妨げや参加にあたっての不安はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表35：市民活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安】



※「参加できる曜日や時間帯が合わない」「参加する手続きが分からない」「人間関係がわずらわしい」「参加する際の経費があり経済的負担が大きい」は今回より新設。

市民活動に参加することに妨げとなることについては、「活動内容がわからない」が29.4%と最も高く、次いで、「参加する時間がない」(26.7%)、「仕事が忙しい」(25.2%)、「自分の生活で精一杯」(25.0%)、「参加できる曜日や時間帯が合わない」(20.3%)の順となっている。

【図表37：市民活動参加意向別／市民活動に参加することに妨げや参加にあたっての不安】上位5項目

市民活動参加意向	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
はい (n=362)	活動内容がわからない 36.5%	参加する手続きがわからない 30.4%	* 参加できる曜日や時間帯が合わない * 参加する時間がない 28.5%		参加の機会がない 27.1%
いいえ (n=703)	自分の生活で精一杯 29.9%	参加する時間がない 28.3%	活動内容がわからない 27.9%	仕事が忙しい 26.9%	趣味や余暇活動を優先 21.5%

※同率の項目には「*」印をつけています

市民活動参加意向別にみると、「はい」は「活動内容がわからない」（36.5%）、「いいえ」は「自分の生活で精一杯」（29.9%）が最も割合が高くなっている。

【図表38：市民活動団体への期待の有無別／市民活動に参加することに妨げや参加にあたっての不安】上位5項目

市民活動団体への期待の有無	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
はい (n=348)	活動内容がわからない 29.9%	参加する時間がない 29.6%	仕事が忙しい 26.1%	参加できる曜日や時間帯が合わない 25.9%	* 参加する手続きがわからない * 参加の機会がない 23.3%
いいえ (n=699)	活動内容がわからない 31.8%	自分の生活で精一杯 29.0%	参加する時間がない 27.3%	仕事が忙しい 26.6%	趣味や余暇活動を優先 22.6%

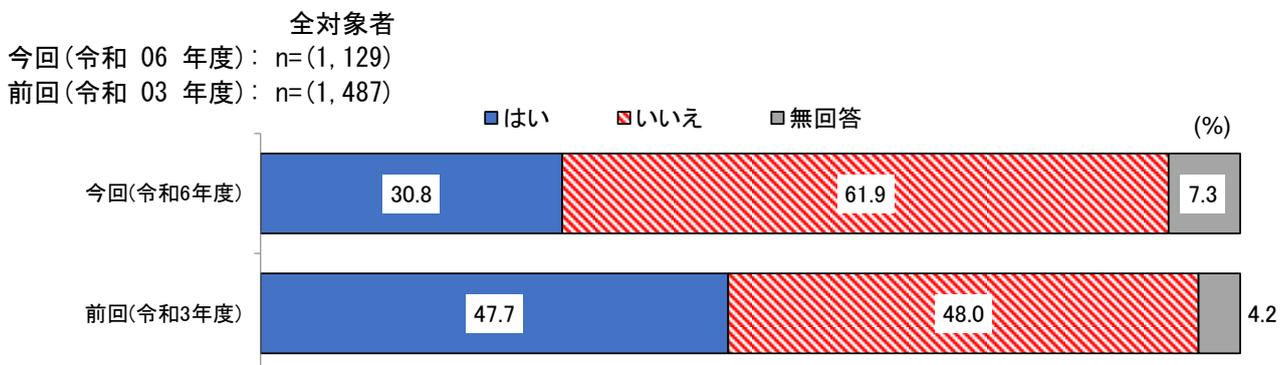
※同率の項目には「*」印をつけています

市民活動団体への期待の有無別にみると、「はい」「いいえ」共に「活動内容がわからない」が最も割合が高くなっている。「はい」は29.9%、「いいえ」は31.8%となっている。

(5) 市民活動団体に期待することの有無

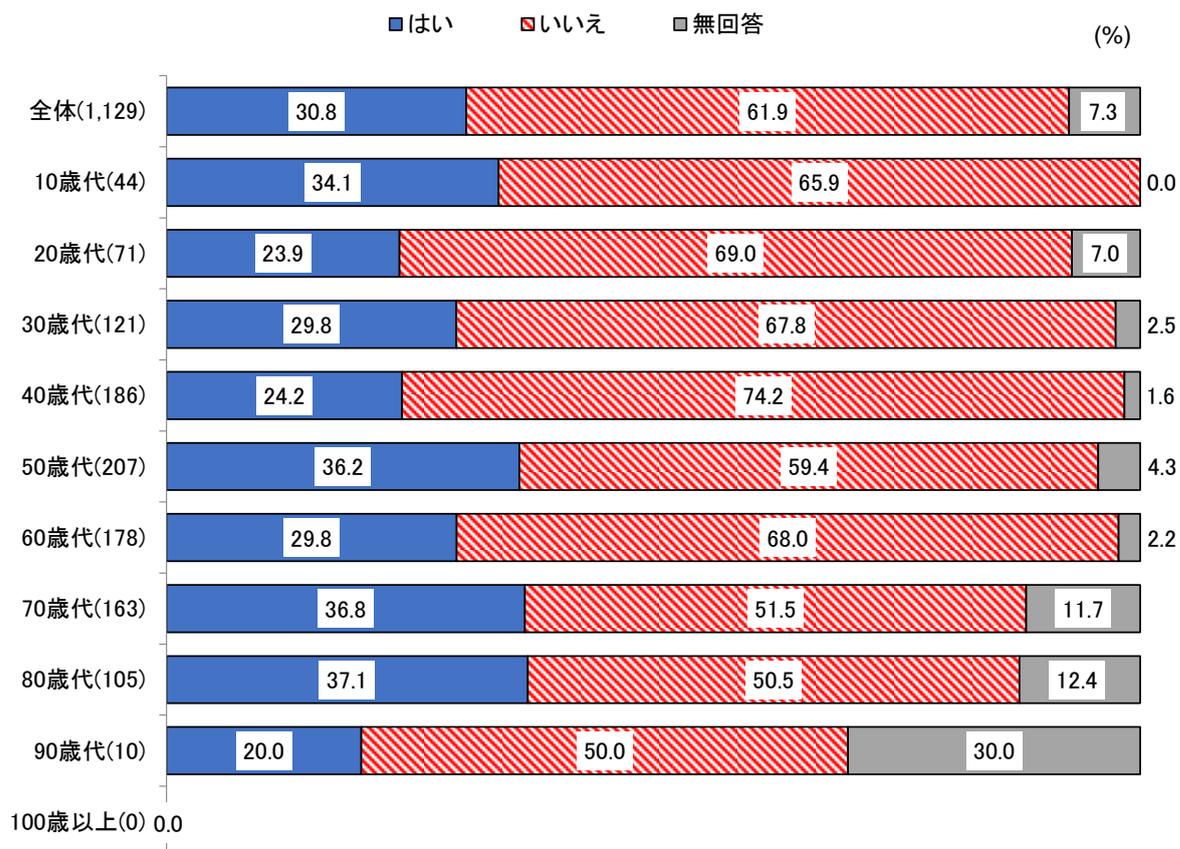
問2-5 あなたは市民活動団体に期待することはありますか。(いずれか一つに○)

【図表39：市民活動団体に期待することの有無】



市民活動団体に期待することの有無については、「はい」が30.8%と、前回調査(令和3年度)の47.7%より低くなっている。

【図表40：年齢別／市民活動団体に期待することの有無】



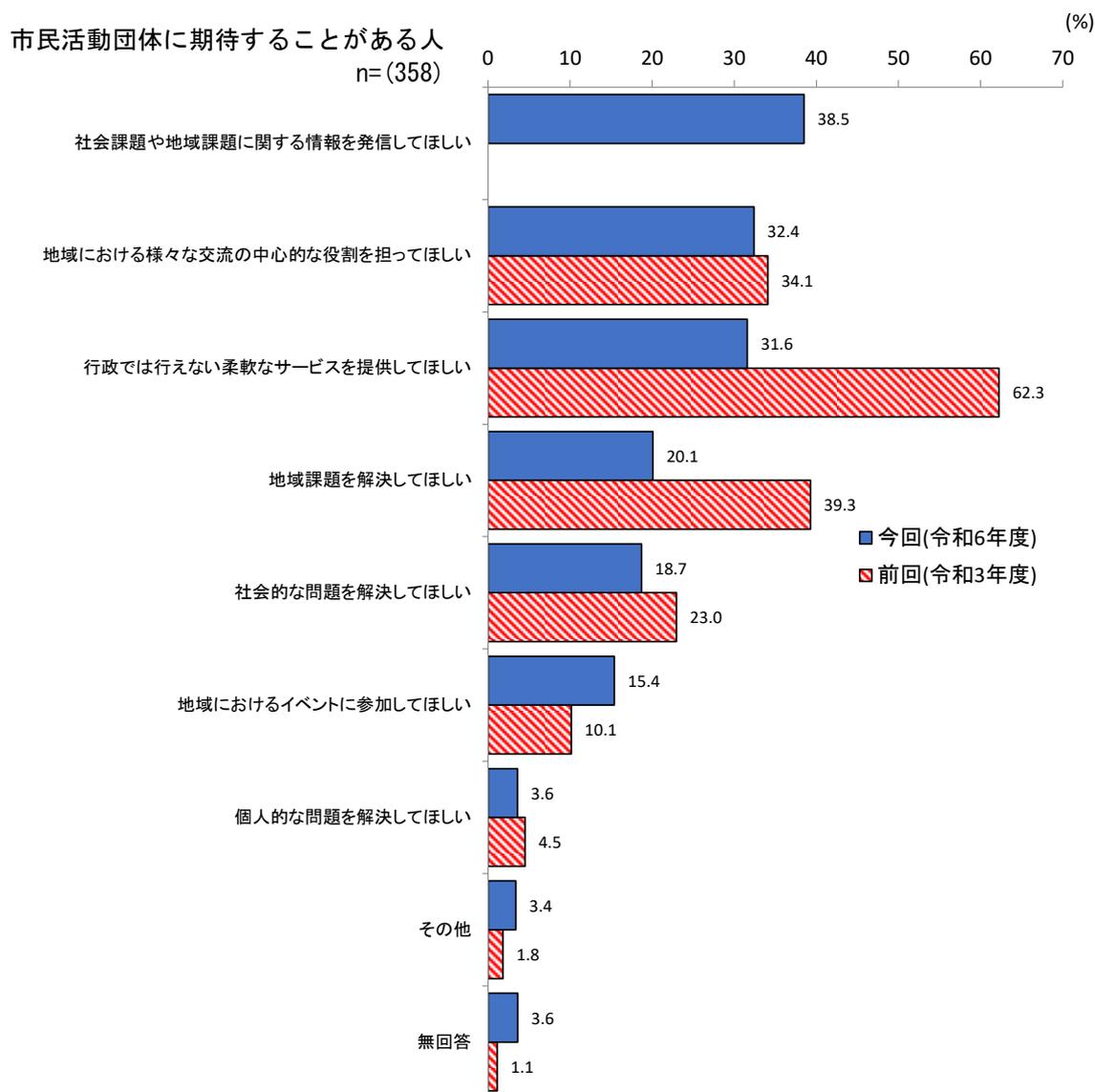
「はい」の割合を年齢別にみると、80歳代(37.1%)と70歳代(36.8%)がほぼ変わらない割合を示している。

(6) 市民活動団体に期待することの内容

【問2-5で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問2-6 あなたが市民活動団体に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

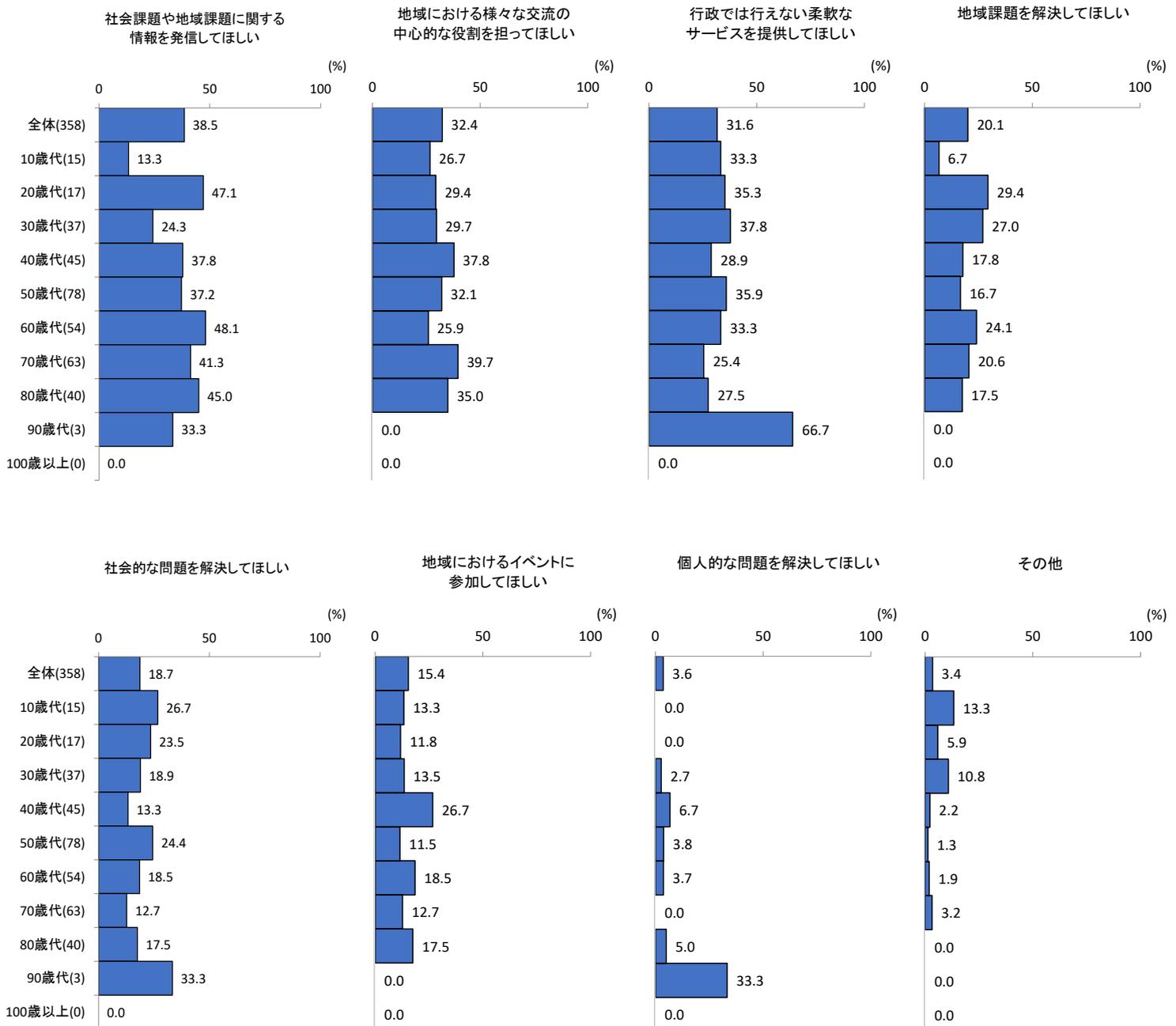
【図表4-1：市民活動団体に期待することの内容】



※「社会課題や地域課題に関する情報を発信してほしい」は今回より新設。

市民活動団体に期待することの内容については、「社会課題や地域課題に関する情報を発信してほしい」が38.5%と最も高く、次いで、「地域における様々な交流の中心的役割を担ってほしい」(32.4%)、「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」(31.6%)の順となっている。

【図表42：年齢別／市民活動団体に期待することの内容】上位8項目



「社会課題や地域課題に関する情報を発信してほしい」を年齢別で見ると、60歳代が48.1%と最も高くなっている。「地域における様々な交流の中心的役割を担ってほしい」では、70歳代が39.7%と最も高くなっている。

【図表4-3：市民活動参加意向別／市民活動団体に期待することの内容】上位5項目

市民活動参加意向	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
はい (n=221)	社会課題や地域課題に関する情報を発信してほしい 42.1%	地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい 32.1%	行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい 30.3%	地域課題を解決してほしい 22.6%	* 社会的な問題を解決してほしい * 地域におけるイベントに参加してほしい 19.5%
いいえ (n=125)	* 行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい * 地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい 33.6%	社会課題や地域課題に関する情報を発信してほしい 32.8%	社会的な問題を解決してほしい 18.4%	地域課題を解決してほしい 16.8%	

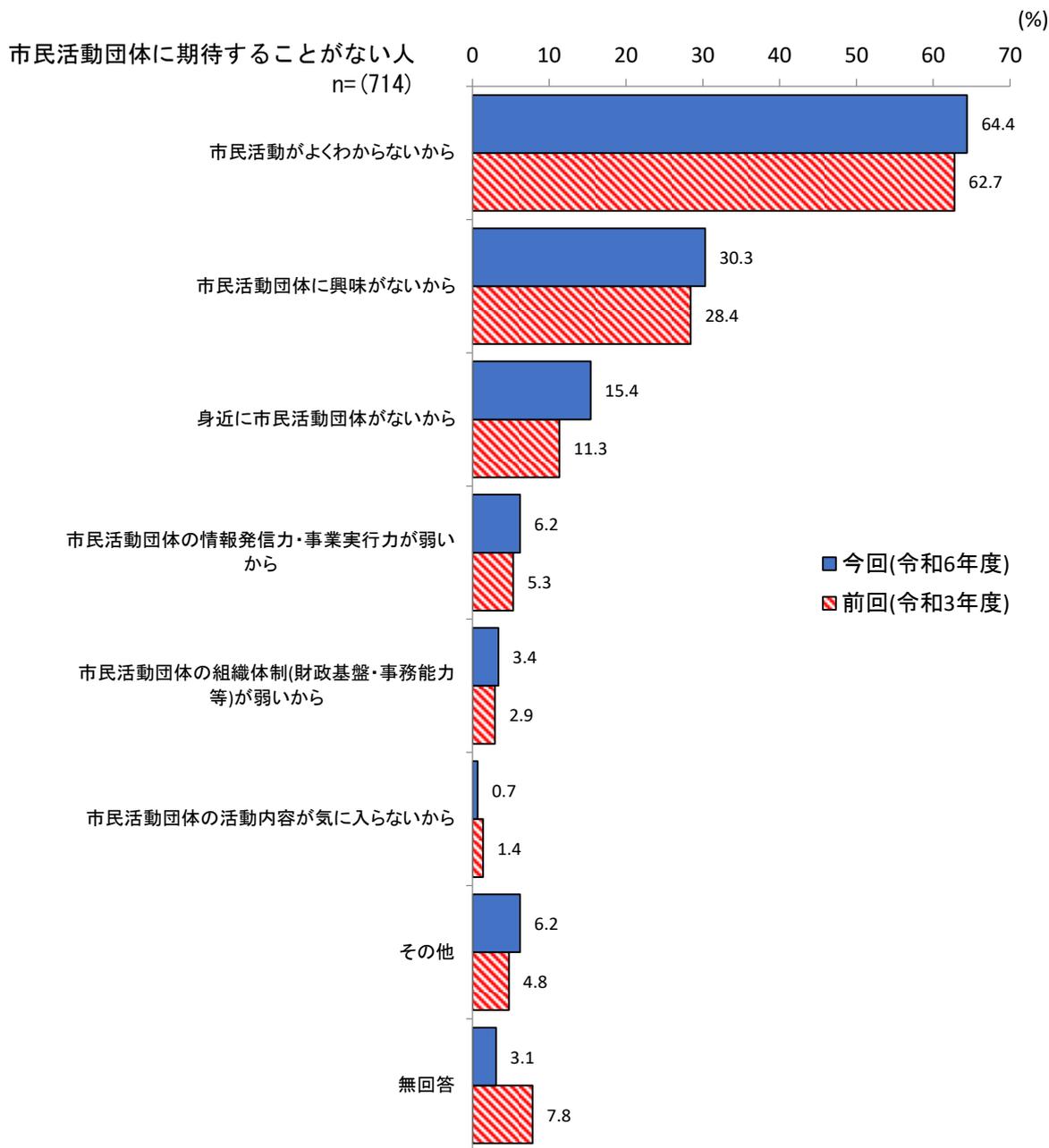
※同率の項目には「*」印をつけています

市民活動参加意向別にみると、「はい」は「社会課題や地域課題に関する情報を発信してほしい」(42.1%)が最も割合が高くなっている。「いいえ」は「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」が33.6%で同率1位となっている。

(7) 市民活動団体に期待することがない理由

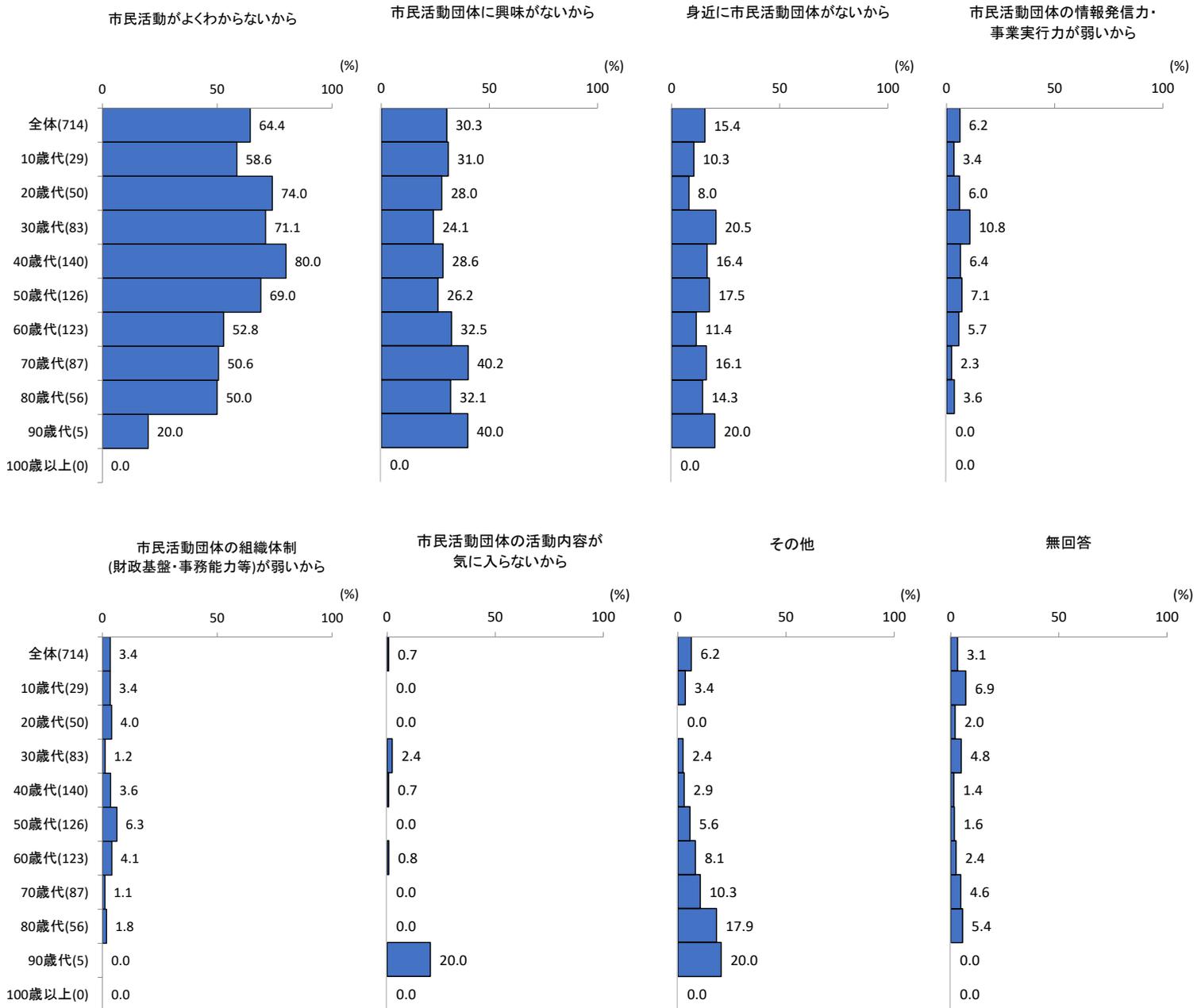
【問2-5で「2. いいえ」に○をつけた方にお聞きします】
 問2-7 あなたが市民活動団体に期待することがないのはなぜですか。
 (あてはまるものすべてに○)

【図表4-4：市民活動団体に期待することがない理由】



市民活動団体に期待することがない理由については、「市民活動がよくわからないから」が64.4%と最も高く、次いで、「市民活動団体に興味がないから」(30.3%)、「身近に市民活動団体がないから」(15.4%)の順となっている。

【図表45：年齢別／市民活動団体に期待することがない理由】上位8項目



「市民活動がよくわからないから」を年齢別で見ると、40歳代が80.0%と最も高くなっている。「市民活動団体に興味がないから」では、70歳代(40.2%)、90歳代(40.0%)の順で高くなっている。

【図表46：市民活動参加意向別／市民活動団体に期待することがない理由】上位5項目

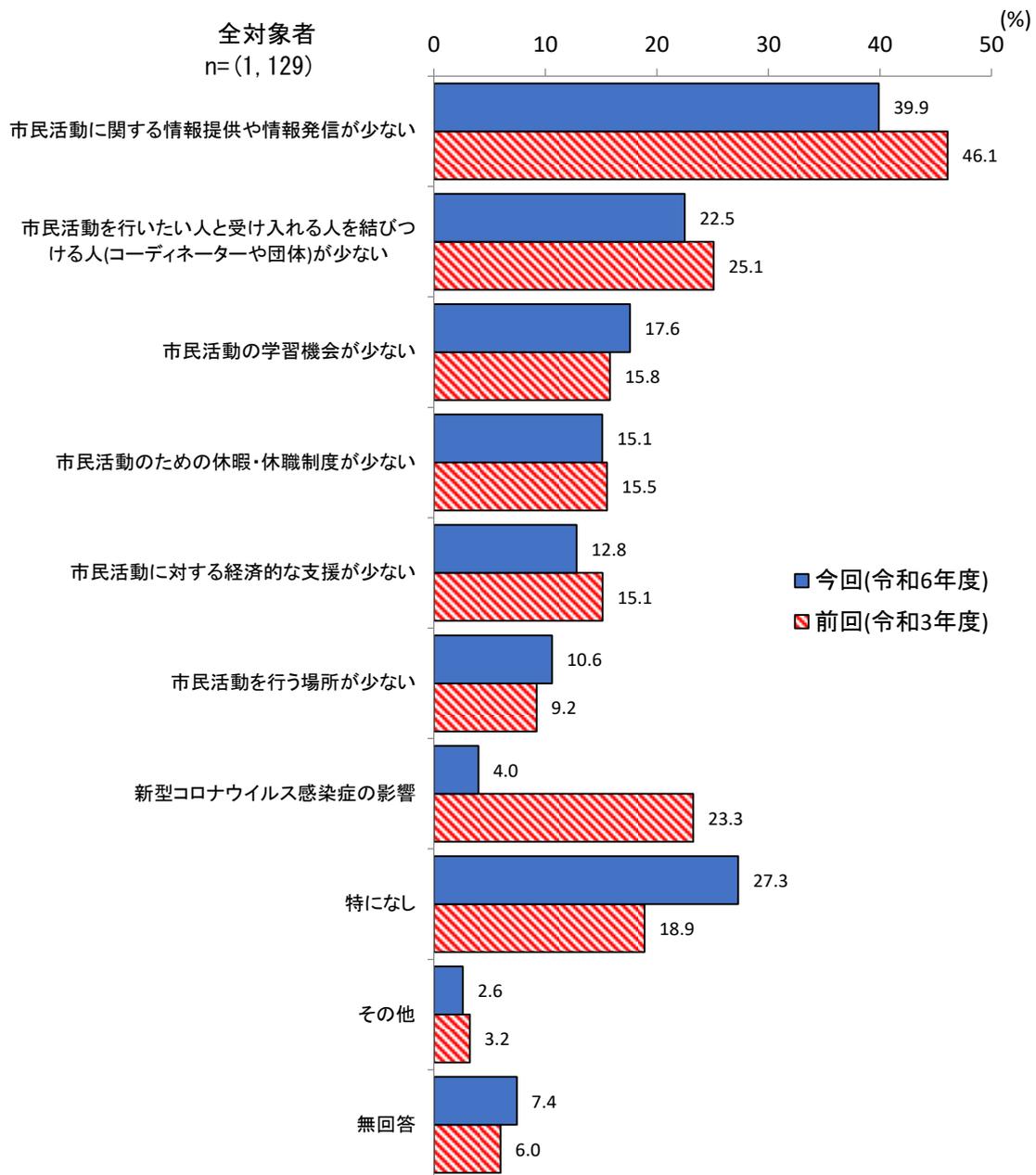
市民活動参加意向	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
はい (n=138)	市民活動がよくわからないから 73.2%	身近に市民活動団体がないから 21.0%	市民活動団体の情報発信力・事業実行力が弱いから 12.3%	市民活動団体に興味がないから 7.2%	その他 5.8%
いいえ (n=561)	市民活動がよくわからないから 62.6%	市民活動団体に興味がないから 35.7%	身近に市民活動団体がないから 14.4%	その他 6.4%	市民活動団体の情報発信力・事業実行力が弱いから 4.8%

市民活動参加意向別にみると、「はい」「いいえ」共に「市民活動がよくわからないから」が最も割合が高くなっている。「はい」は73.2%、「いいえ」は62.6%となっている。

(8) 市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと

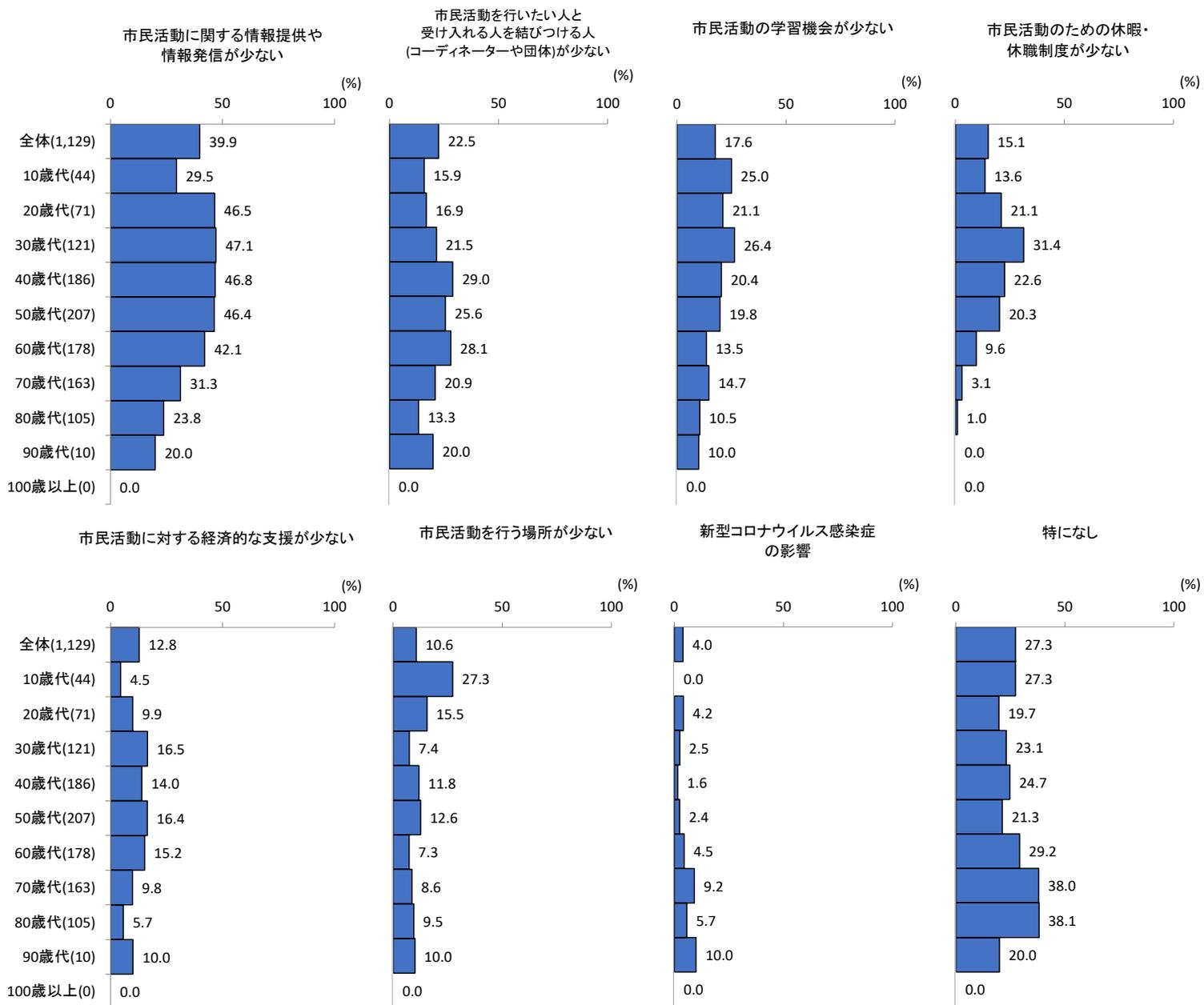
問2-8 市民活動団体が活動するときに、妨げになると思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表4-7：市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと】



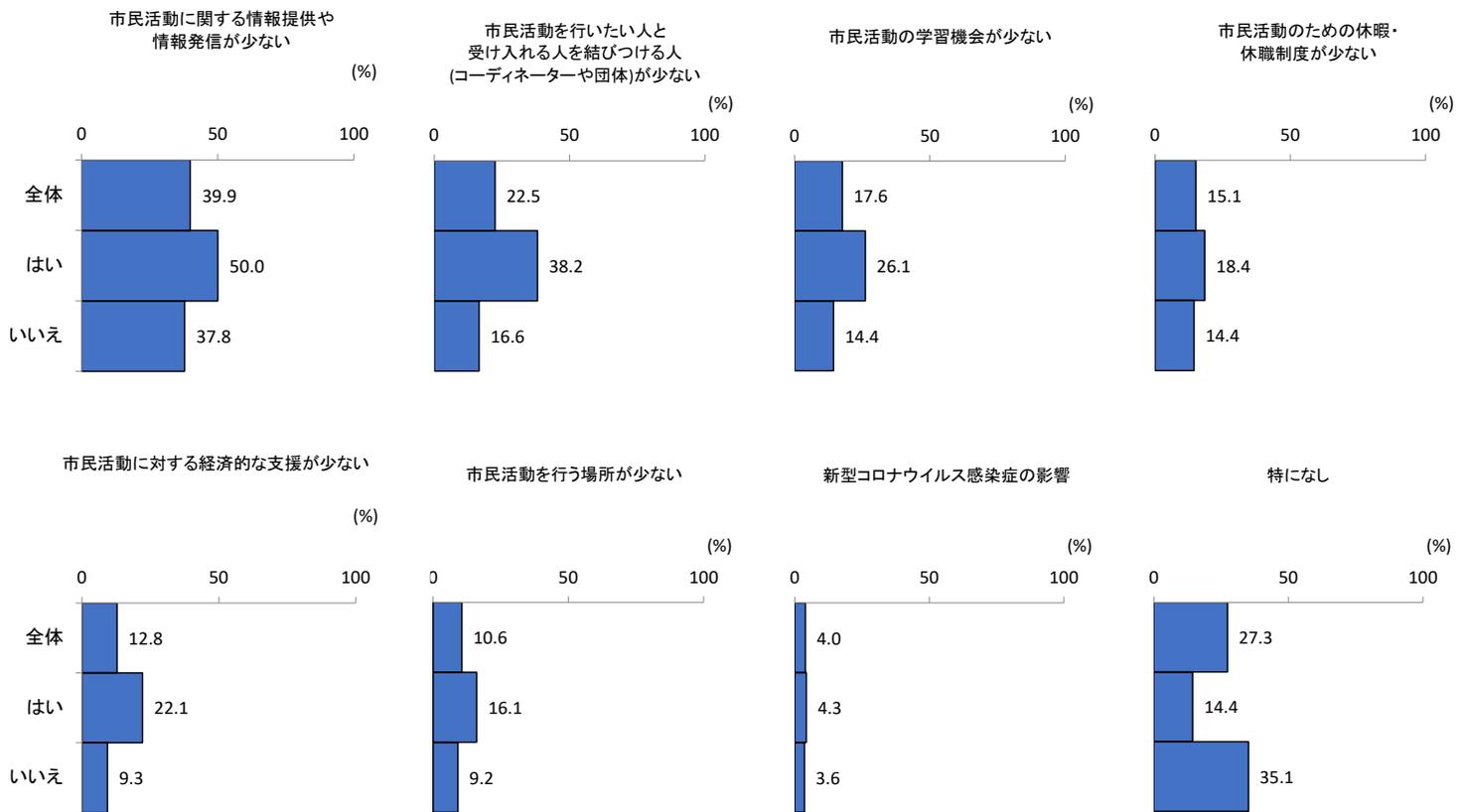
市民活動団体が活動するときに妨げになると思うことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」が39.9%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」(22.5%)、「市民活動の学習機会が少ない」(17.6%)の順となっている。

【図表48：年齢別／市民活動団体が活動するときには妨げになると思うこと】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」を年齢別で見ると、20～60歳代で4割以上となっており、30歳代が47.1%と最も高くなっている。「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」は、40歳代が29.0%と最も高くなっている。

【図表49：市民活動団体に期待することの有無別／市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと】
上位8項目

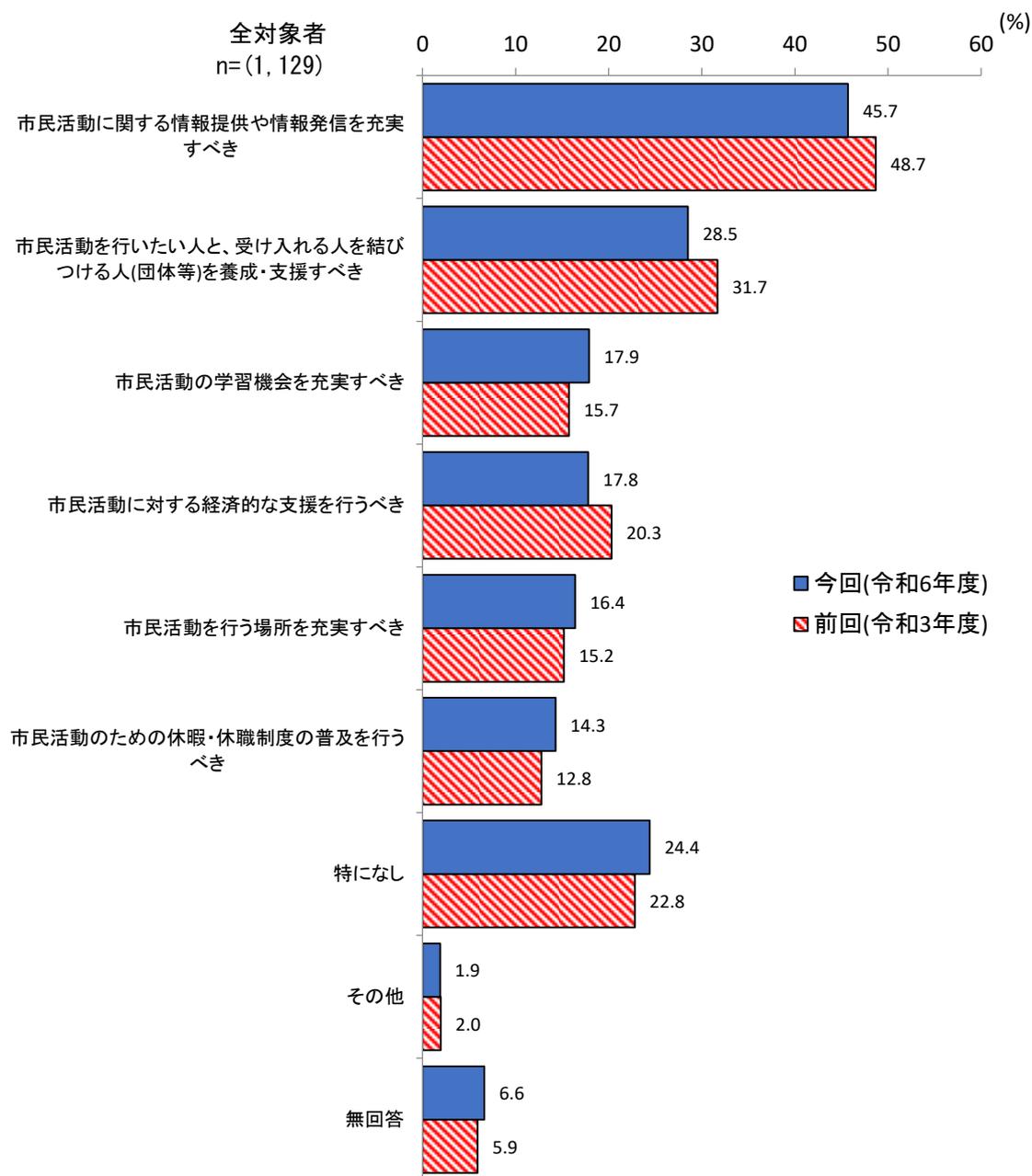


「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」を市民活動に期待することの有無(「はい」/「いいえ」)別にみると、「はい」50.0%、「いいえ」37.8%で、「はい」の方が「いいえ」より12.2ポイント高くなっている。「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」は、「はい」38.2%、「いいえ」16.6%で、「はい」の方が「いいえ」より21.6ポイント高くなっている。

(9) 市民活動について市に望むこと

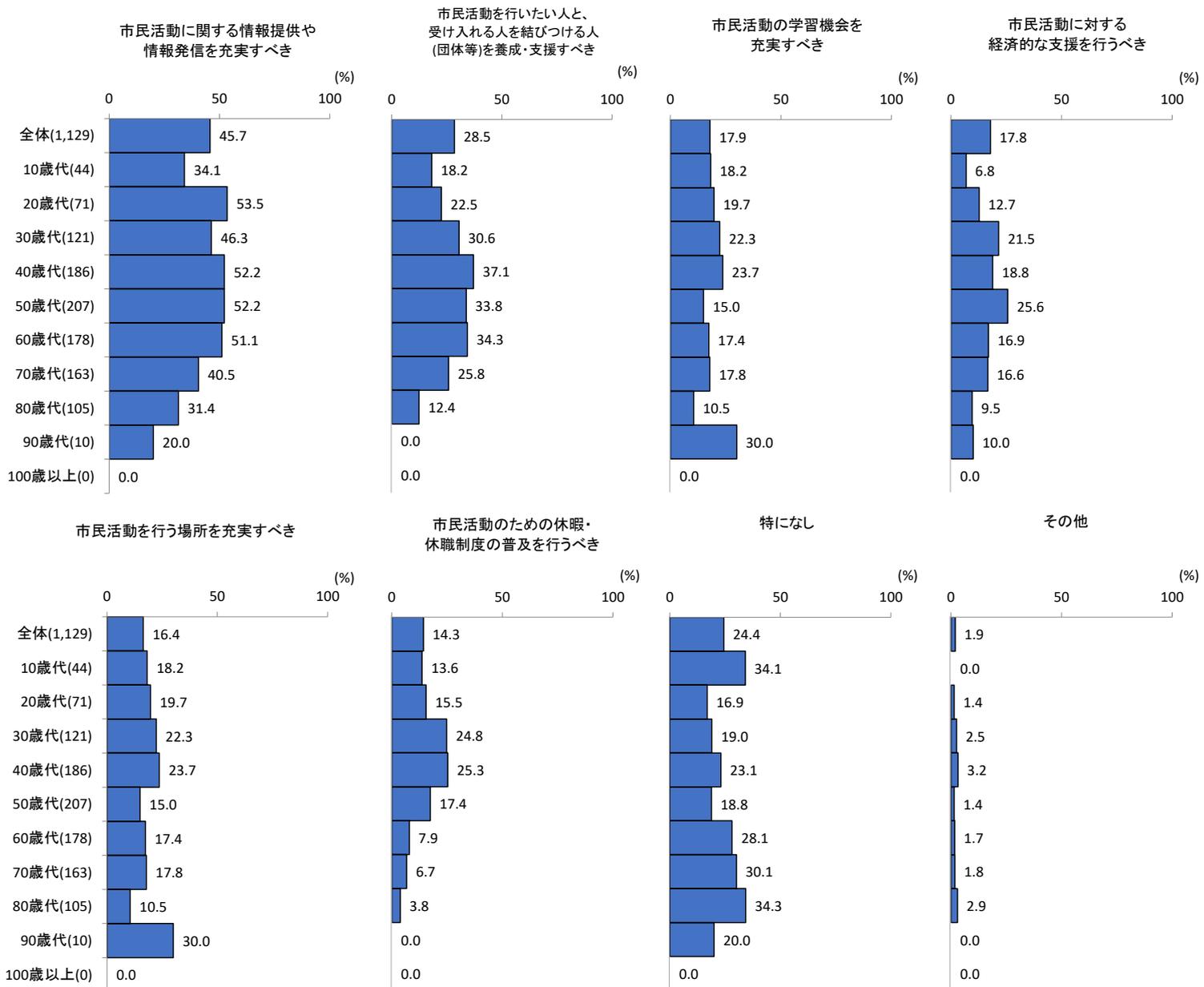
問2-9 市民活動について、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表50：市民活動について市に望むこと】



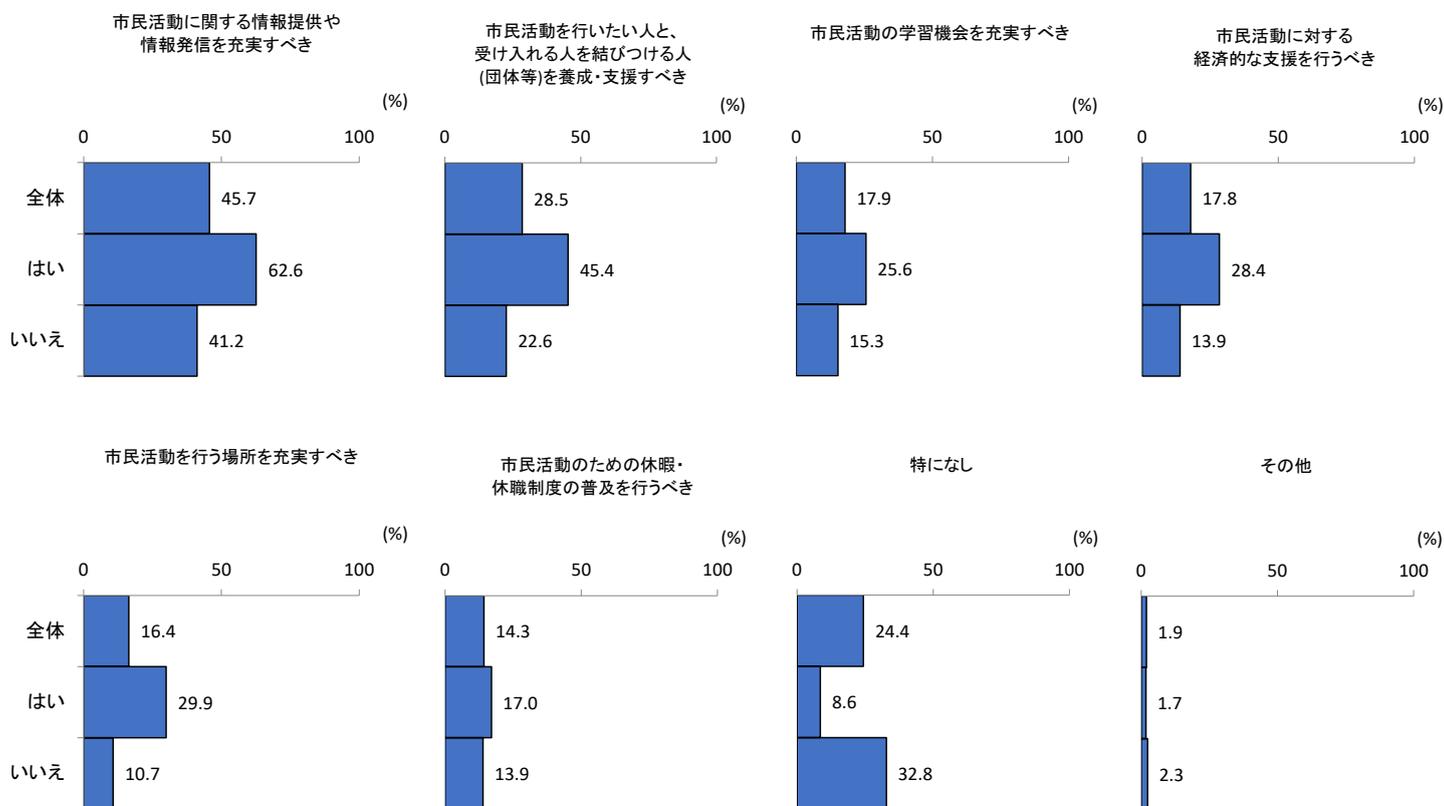
市民活動について市に望むことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が45.7%と最も高い割合となっている。次いで、「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(28.5%)、「市民活動の学習機会を充実すべき」(17.9%)の順となっている。

【図表 5 1 : 年齢別／市民活動について市に望むこと】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別でみると、20～60歳代で5割前後となっており、20歳代が53.5%と最も高くなっている。「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、40歳代が37.1%と一番高くなっている。

【図表52：市民活動団体に期待することの有無別／市民活動について市に望むこと】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を市民活動に期待することの有無(「はい」/「いいえ」)別にみると、「はい」62.6%、「いいえ」41.2%で、「はい」の方が「いいえ」より21.4ポイント高くなっている。「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、「はい」45.4%、「いいえ」22.6%で、「はい」の方が「いいえ」より22.8ポイント高くなっている。

【図表5-3：市民活動参加意向別／市民活動について市に望むこと】上位5項目

市民活動参加意向	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
はい (n=362)	市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき 67.1%	市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき 44.8%	市民活動を行う場所を充実すべき 29.0%	市民活動に対する経済的な支援を行うべき 26.8%	市民活動の学習機会を充実すべき 24.9%
いいえ (n=703)	市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき 37.4%	特になし 33.9%	市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき 21.9%	市民活動の学習機会を充実すべき 15.2%	市民活動のための休暇・休職制度の普及を行うべき 14.9%

市民活動参加意向別にみると、「はい」「いいえ」共に「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が最も割合が高くなっている。「はい」は67.1%、「いいえ」は37.4%となっている。

【図表5-4：市民活動団体への期待の有無別／市民活動について市に望むこと】上位5項目

市民活動団体への期待の有無	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
はい (n=348)	市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき 62.6%	市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき 45.4%	市民活動を行う場所を充実すべき 29.9%	市民活動に対する経済的な支援を行うべき 28.4%	市民活動の学習機会を充実すべき 25.6%
いいえ (n=699)	市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき 41.2%	特になし 32.8%	市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき 22.6%	市民活動の学習機会を充実すべき 15.3%	* 市民活動のための休暇・休職制度の普及を行うべき * 市民活動に対する経済的な支援を行うべき 13.9%

※同率の項目には「*」印をつけています

市民活動団体への期待の有無別にみると、「はい」「いいえ」共に「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が最も割合が高くなっている。「はい」は62.6%、「いいえ」は41.2%となっている。

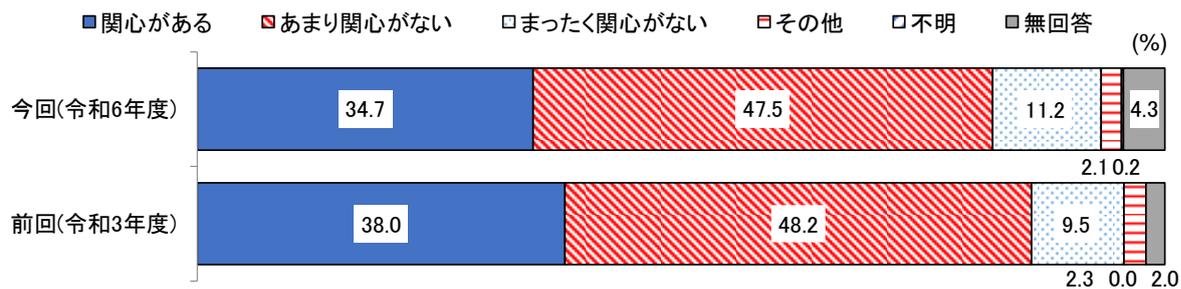
4. ボランティア活動について

(1) ボランティア活動への関心の有無

問3-1 あなたはボランティア活動に関心がありますか。(いずれか一つに○)

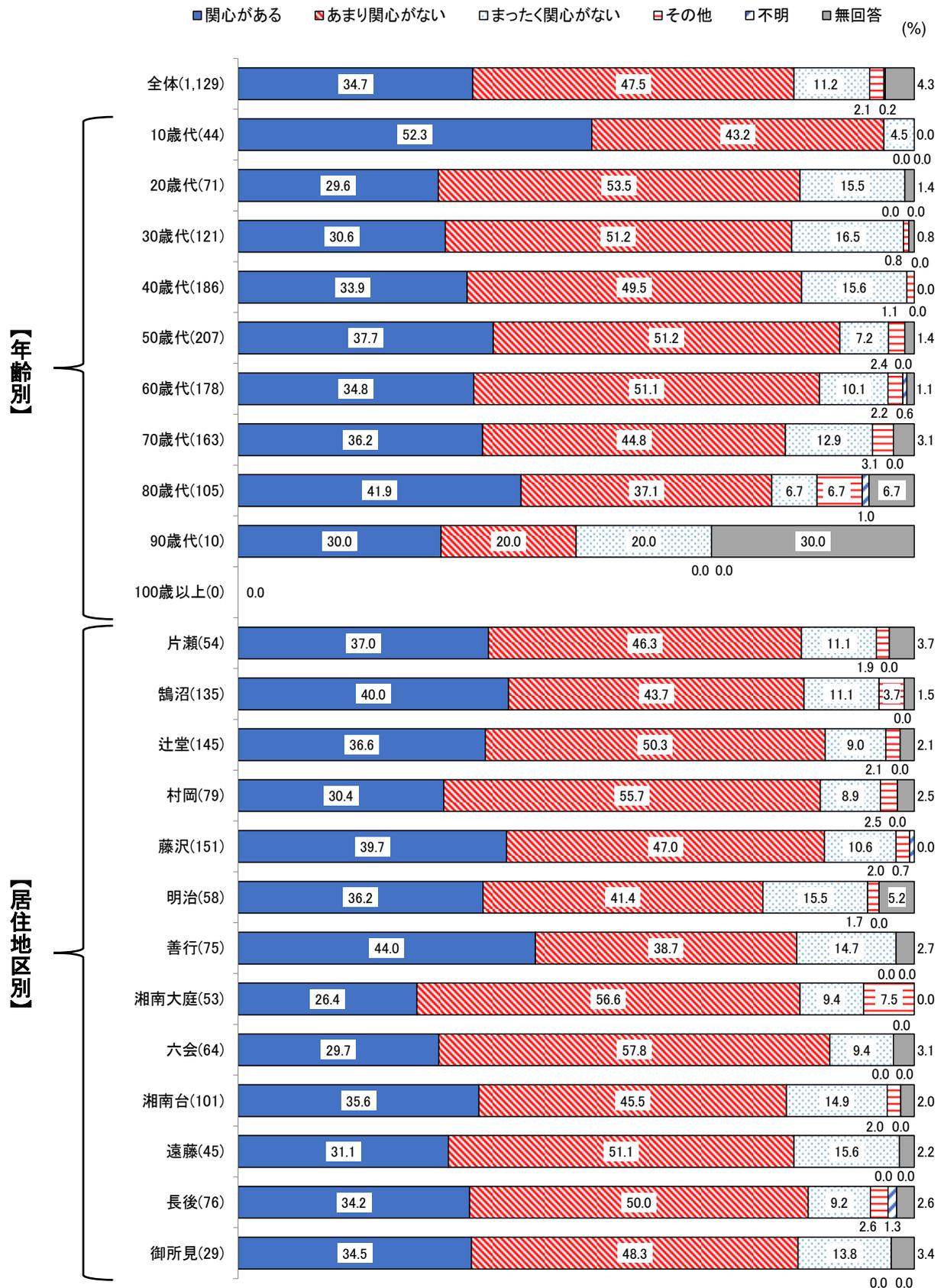
【図表55：ボランティア活動への関心の有無】

全対象者
 今回(令和06年度)：n=(1,129)
 前回(令和03年度)：n=(1,487)



ボランティア活動への関心の有無については、「関心がある」が34.7%、「あまり関心がない」が47.5%、「まったく関心がない」が11.2%となっている。

【図表56：年齢別・居住地区別／ボランティア活動への関心の有無】

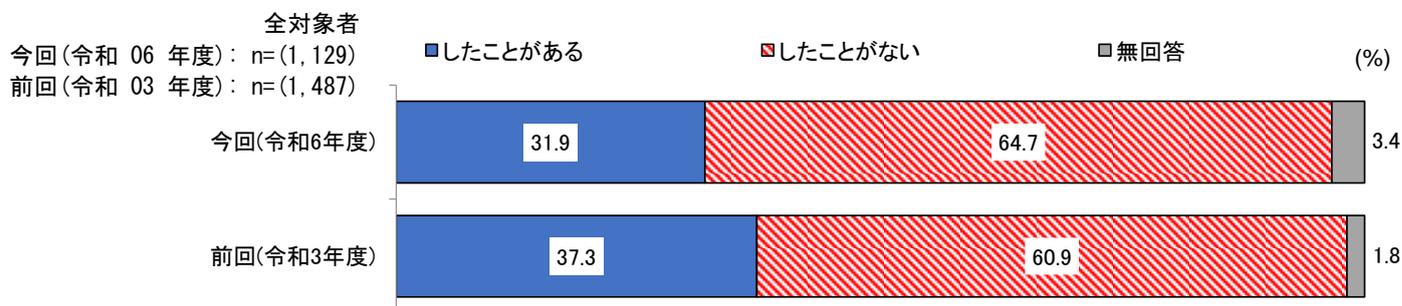


「関心がある」の割合を年齢別にみると、10歳代が52.3%、次いで80歳代(41.9%)となっている。居住地区別では、善行(44.0%)、鶴沼(40.0%)で「関心がある」割合が4割以上となっている。

(2) ボランティア活動の経験

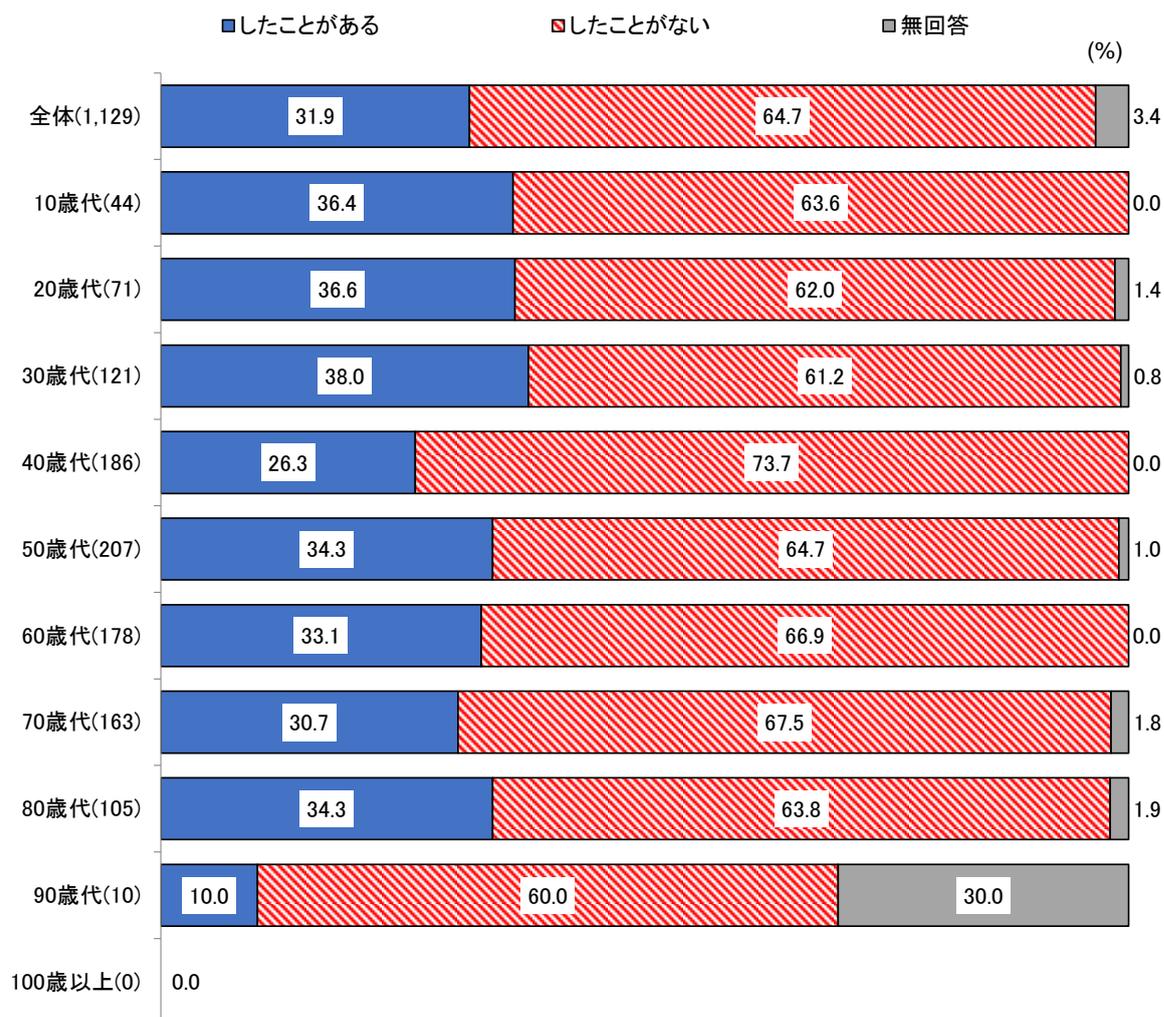
問3-2 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(いずれか一つに○)

【図表57：ボランティア活動の経験】



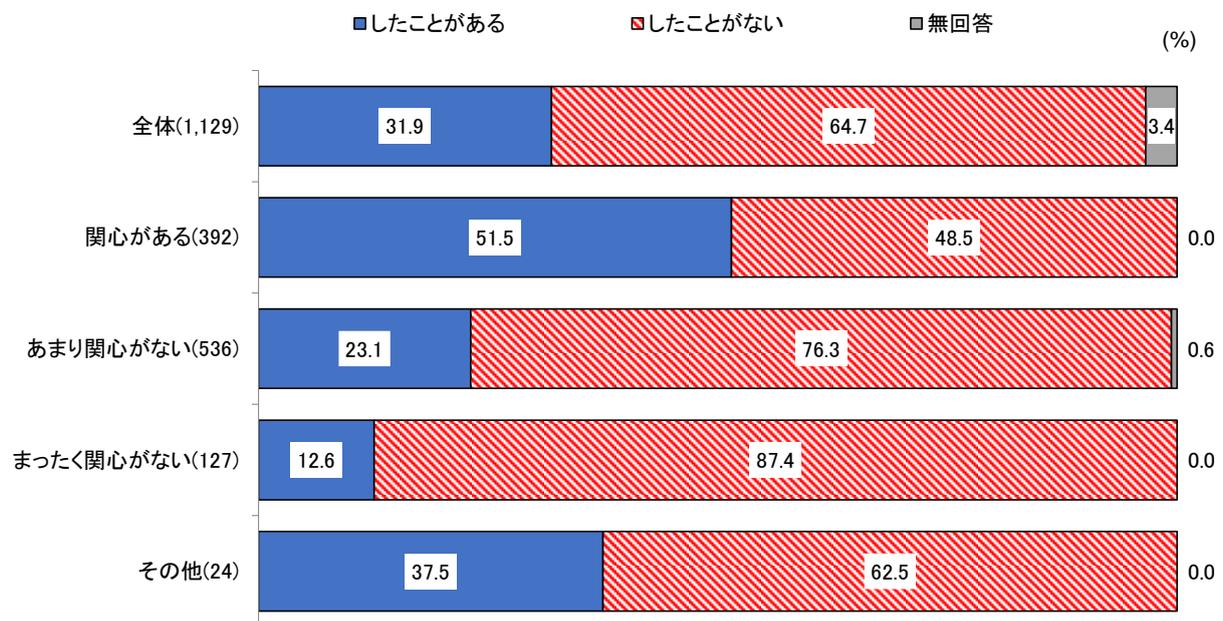
ボランティア活動の経験については、「したことがある」が31.9%、「したことがない」が64.7%となっている。

【図表58：年齢別／ボランティア活動の経験】



ボランティア活動を「したことがある」割合を年齢別にみると、30歳代が38.0%と最も高く、次いで、20歳代(36.6%)、10歳代(36.4%)の順となっている。

【図表59：ボランティア活動への関心の有無別／ボランティア活動の経験】

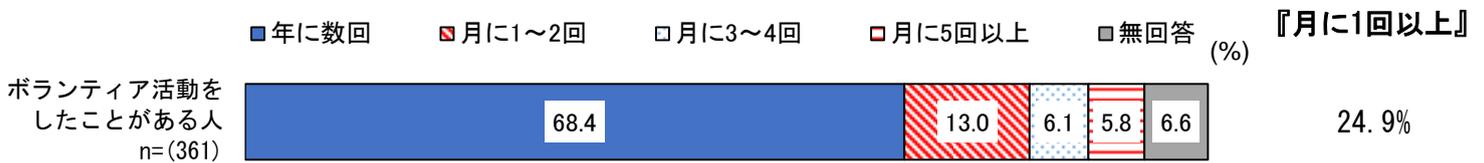


ボランティア活動への関心の有無別にみると、「関心がある」でボランティア活動を「したことがある」のは 51.5%、「あまり関心がない」では 23.1%、「まったく関心がない」では 12.6%となっている。

(3) ボランティア活動への参加の頻度

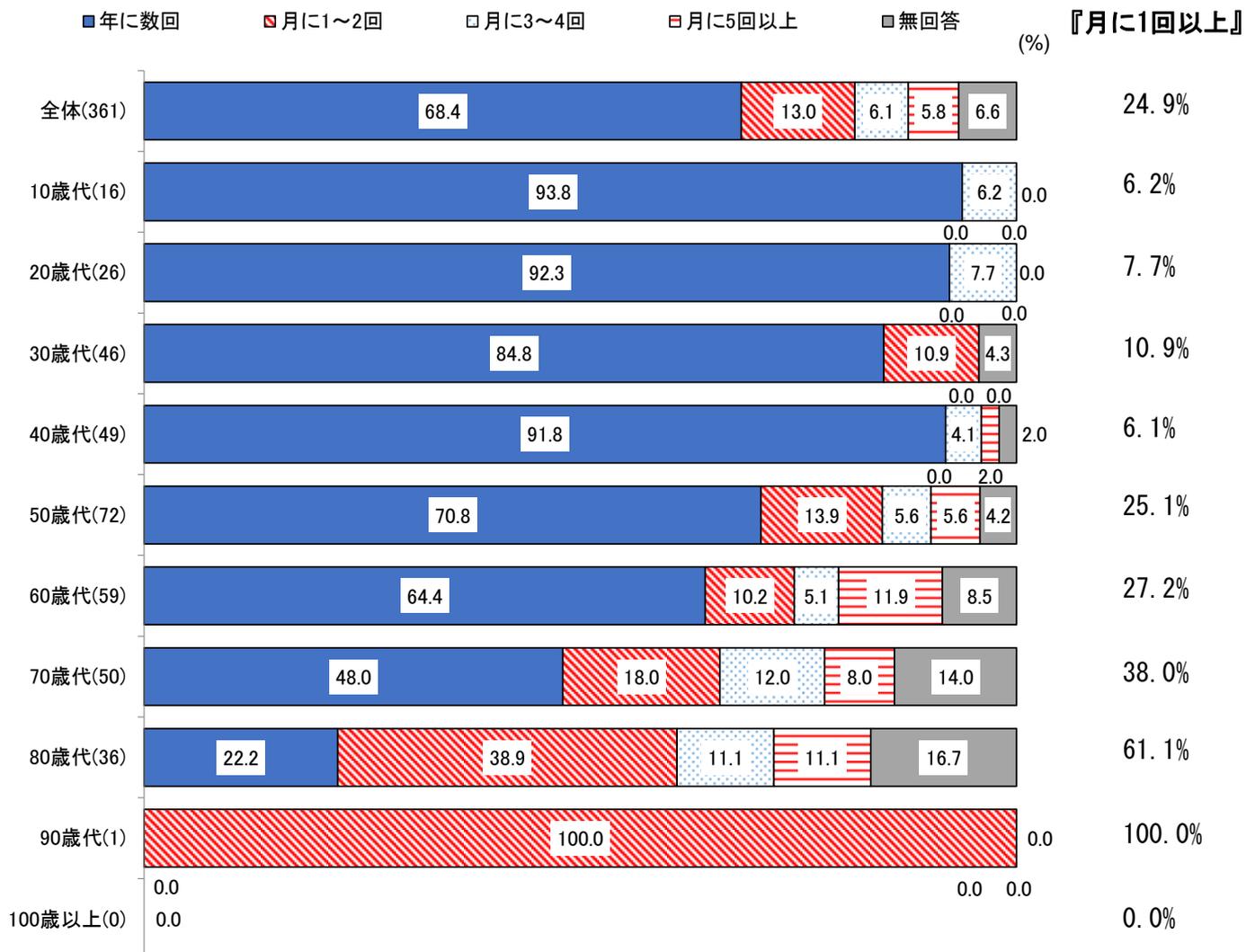
【問3-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問3-3 あなたのボランティア活動への参加の頻度をお選びください。(いずれか一つに○)

【図表60：ボランティア活動への参加の頻度】



ボランティア活動への参加の頻度については、「年に数回」が68.4%と最も高く、「月に1~2回」が13.0%、「月に3~4回」が6.1%、「月に5回以上」が5.8%となっている。

【図表61：年齢別／ボランティア活動への参加の頻度】



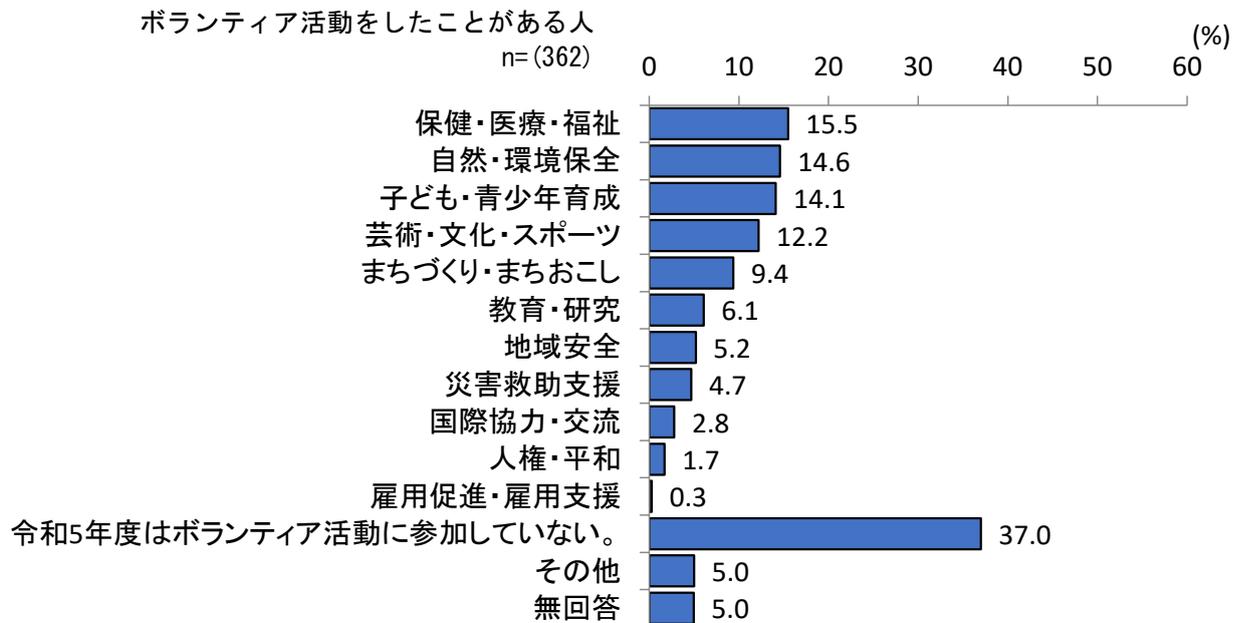
年齢別にみると、年代が上がるにつれボランティア活動への参加頻度が高まる傾向がみられ、80歳代では61.1%が『月に1回以上』参加している。

(4) 令和5年度中に参加したことがあるボランティア活動

【問3-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問3-4 あなたは令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）にどのような分野のボランティア活動に参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

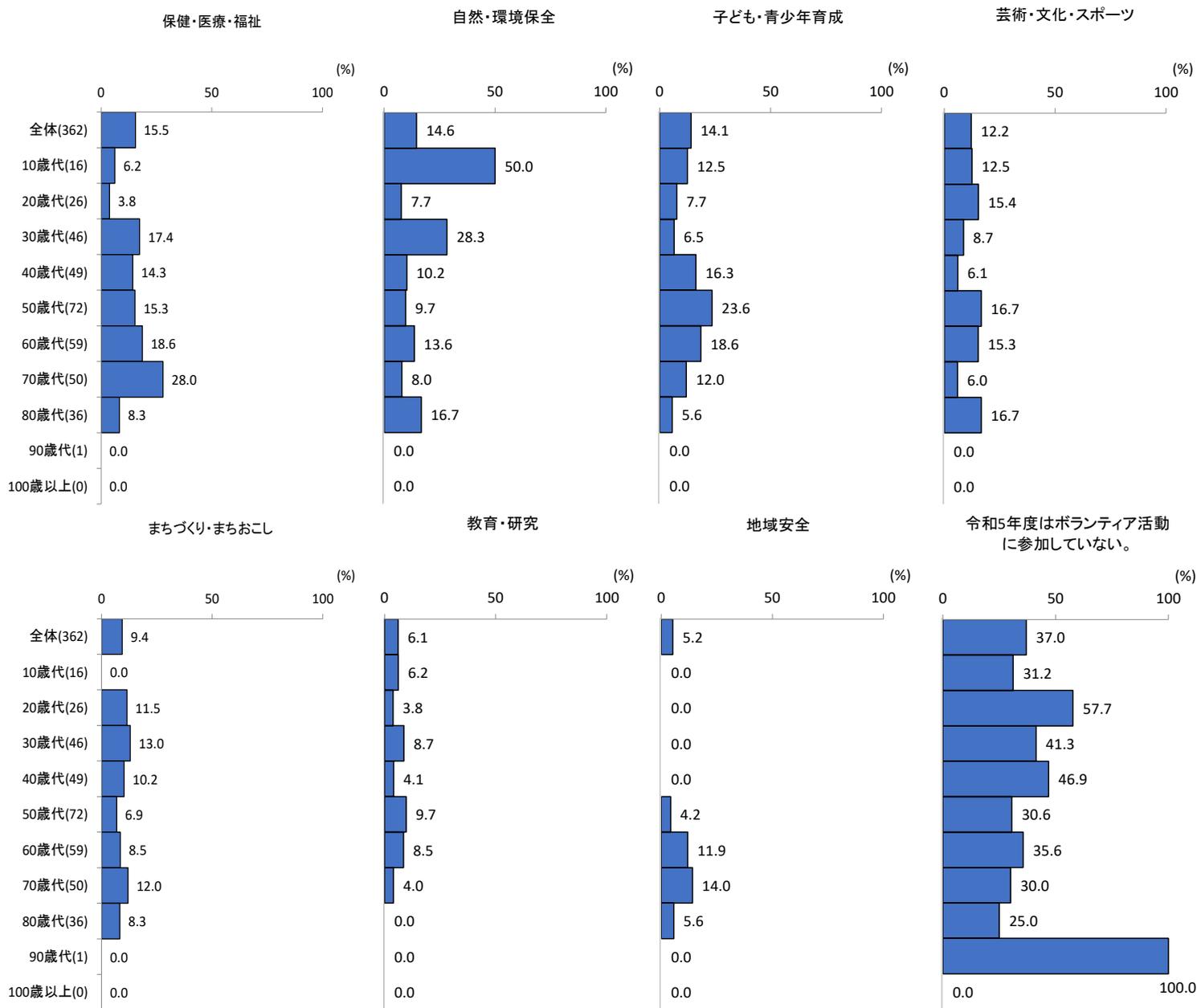
【図表6-2：令和5年度中に参加したことがあるボランティア活動】



令和5年度中に参加したことがあるボランティア活動については、「保健・医療・福祉」が15.5%と最も高く、次いで「自然・環境保全」（14.6%）、「子ども・青少年育成」（14.1%）「芸術・文化・スポーツ」（12.2%）、の順となっている。

なお、「令和5年度はボランティア活動に参加していない」人は37.0%となっている。

【図表63：年齢別／令和5年度中に参加したことがあるボランティア活動】上位8項目



年齢別にみると、「保健・医療・福祉」は70歳代(28.0%)、「自然・環境保全」では10歳代(50.0%)などで割合が高くなっている。一方、「令和5年度はボランティア活動に参加していない」割合は、20歳代(57.7%)や40歳代(46.9%)などで高くなっている。

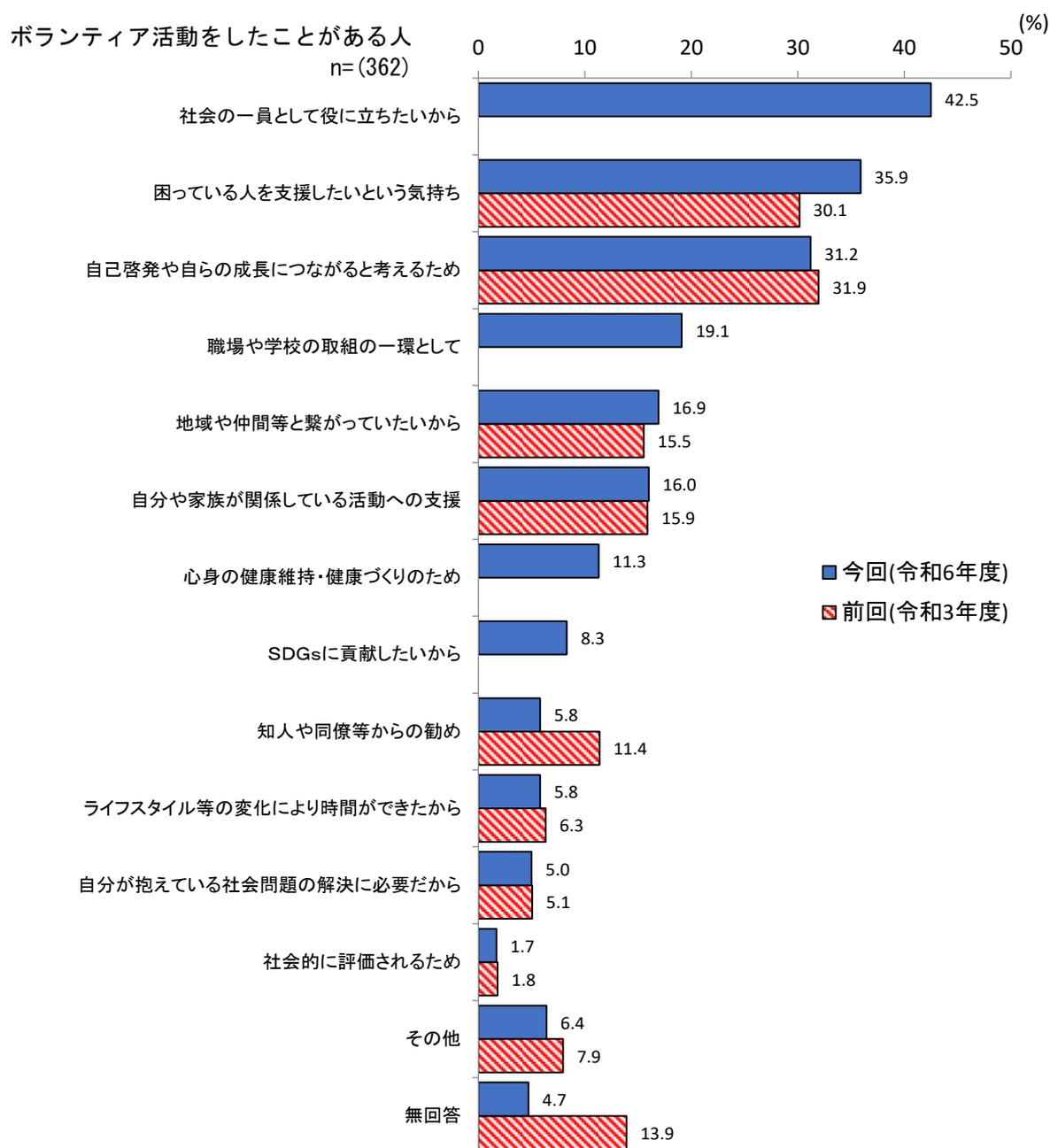
(5) ボランティア活動に参加する理由

【問3-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問3-5 あなたにとって、ボランティア活動に参加する理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

【図表6-4：ボランティア活動に参加する理由】

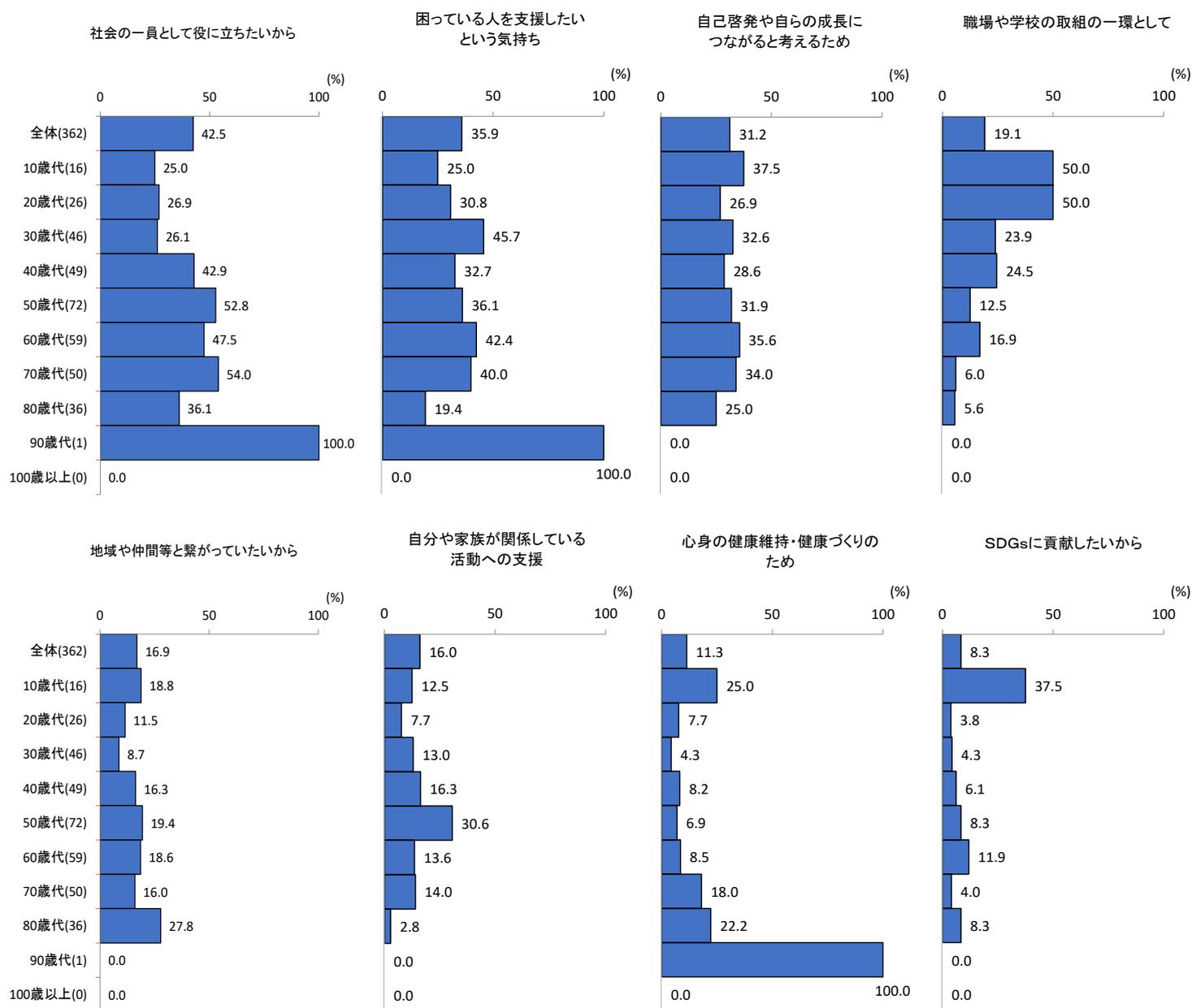


※「社会の一員として役に立ちたいから」「職場や学校の取組の一環として」

「心身の健康維持・健康づくりのため」「SDGsに貢献したいから」は今回より新設。

ボランティア活動に参加する理由については、「社会の一員として役に立ちたいから」が42.5%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(35.9%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(31.2%)の順となっている。

【図表65：年齢別／ボランティア活動に参加する理由】上位8項目

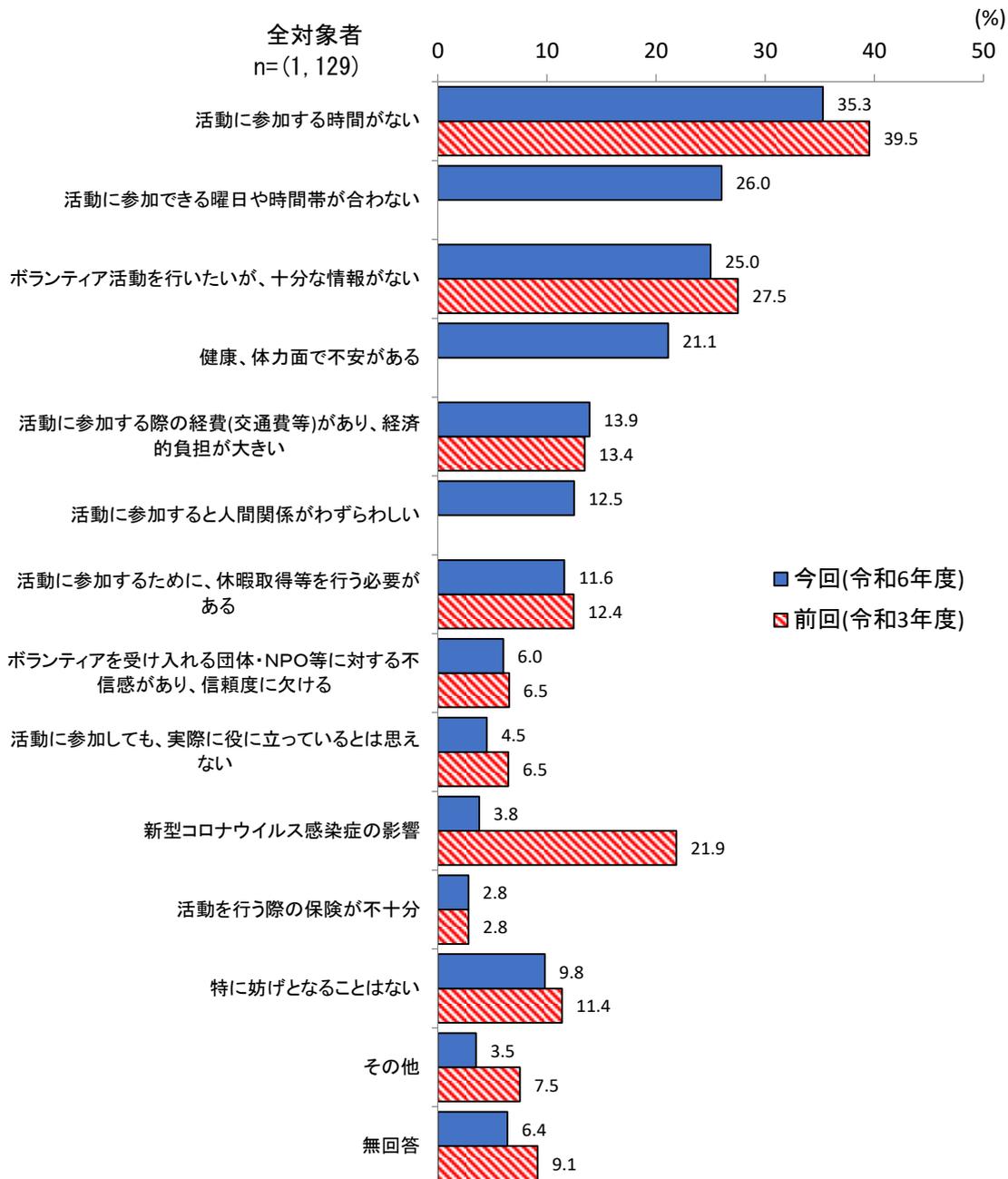


「社会の一員として役に立ちたいから」を年齢別で見ると、70歳代（54.0%）、50歳代（52.8%）などで高くなっている。また、「困っている人を支援したいという気持ち」は、30歳代（45.7%）や60歳代（42.4%）で高く、「自己啓発や自らの成長につながると思えるため」は、10歳代（37.5%）や60歳代（35.6%）などで高くなっている。

(6) ボランティア活動に参加することに妨げとなること

問3-6 ボランティア活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安はありますか。(あてはまるものすべてに○)

【図表6-6：ボランティア活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安】

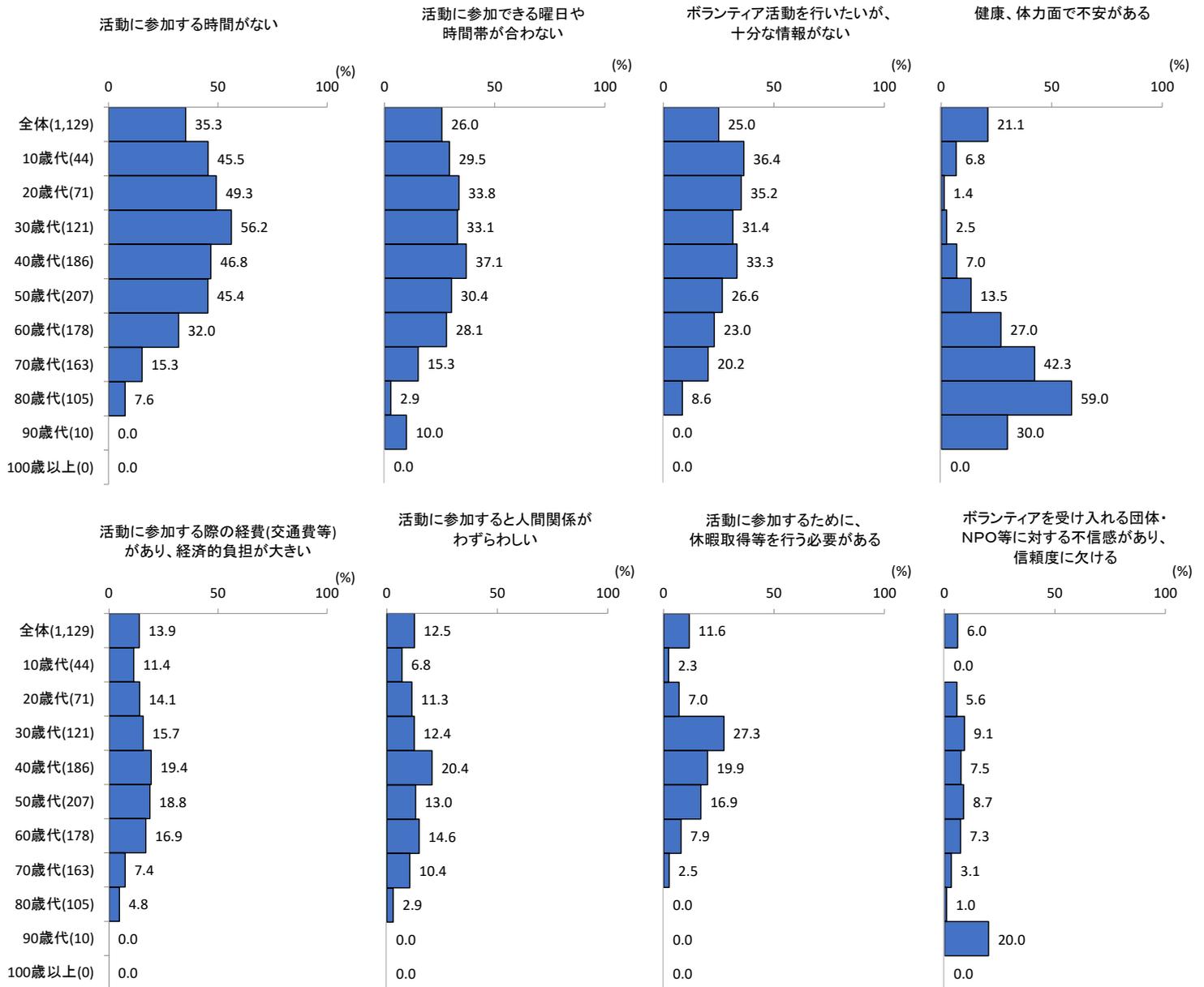


※「活動に参加できる曜日や時間帯が合わない」「健康、体力面で不安がある」

「活動に参加すると人間関係がわずらわしい」は今回より新設。

ボランティア活動に参加することに妨げとなることについては、「活動に参加する時間がない」が35.3%と最も高く、次いで、「活動に参加できる曜日や時間帯が合わない」(26.0%)、「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」(25.0%)の順となっている。

【図表67：年齢別／ボランティア活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安】
上位8項目



「活動に参加する時間がない」を年齢別で見ると、10～50歳代で5割前後となっており、30歳代が56.2%と最も高くなっている。「活動に参加できる曜日や時間帯が合わない」は、10～60歳代で3割前後となっており、40歳代が37.1%と最も高い。「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」は、10歳代が36.4%と最も高くなっている。

【図表68：ボランティア活動への関心・ボランティア活動経験別／

ボランティア活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安】上位5項目

ボランティア活動への関心	ボランティア活動経験	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
関心がある	したことがある (n=202)	活動に参加できる曜日や時間帯が合わない 37.1%	ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない 32.7%	活動に参加する時間がない 29.7%	健康、体力面で不安がある 18.8%	活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい 17.8%
	したことがない (n=190)	ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない 59.5%	活動に参加する時間がない 35.3%	活動に参加できる曜日や時間帯が合わない 29.5%	健康、体力面で不安がある 18.4%	活動に参加するために、休暇取得等を行う必要がある 15.3%
あまり関心がない	したことがある (n=124)	活動に参加する時間がない 39.5%	活動に参加できる曜日や時間帯が合わない 37.1%	ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない 17.7%	健康、体力面で不安がある 16.1%	活動に参加するために、休暇取得等を行う必要がある 15.3%
	したことがない (n=409)	活動に参加する時間がない 42.1%	健康、体力面で不安がある 22.5%	活動に参加できる曜日や時間帯が合わない 22.2%	ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない 17.8%	活動に参加すると人間関係がわずらわしい 15.2%
まったく関心がない	したことがある (n=16)	活動に参加する時間がない 31.3%	特に妨げとなることはない 25.0%	活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい 18.8%	* ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない * 活動に参加できる曜日や時間帯が合わない * 健康、体力面で不安がある * 活動に参加すると人間関係がわずらわしい 12.5%	
	したことがない (n=111)	活動に参加する時間がない 30.6%	健康、体力面で不安がある 29.7%	活動に参加すると人間関係がわずらわしい 25.2%	活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい 15.3%	活動に参加できる曜日や時間帯が合わない 13.5%

※同率の項目には「*」印をつけています

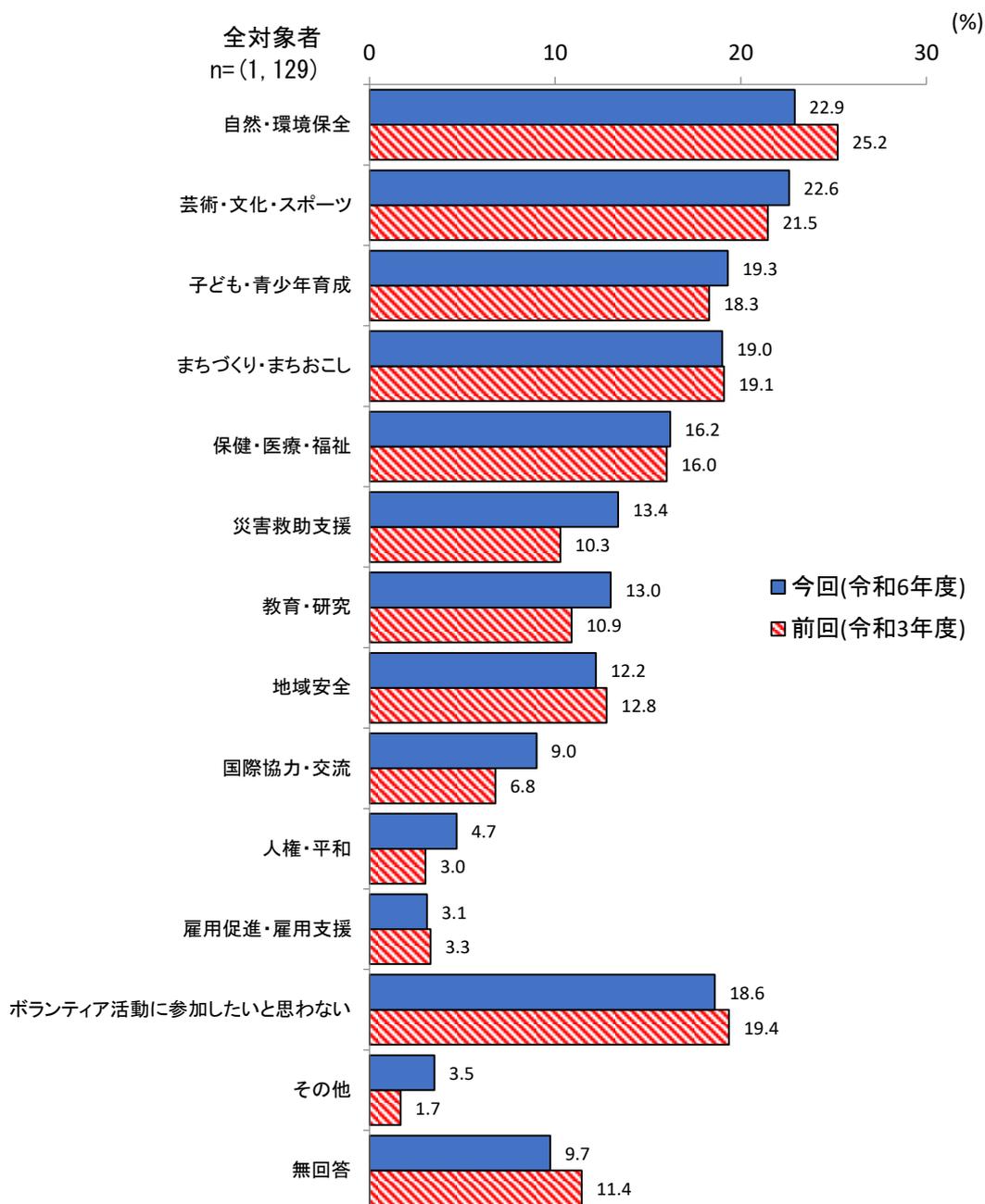
ボランティア活動への関心・ボランティア活動経験別でみると、「関心がある」で「したことがある」は「活動に参加できる曜日や時間帯が合わない」(37.1%)、「したことがない」は「ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない」(59.5%)が最も割合が高くなっている。

「あまり関心がない」、「まったく関心がない」では、「したことがある」「したことがない」共に、「活動に参加する時間がない」が1位となっている。

(7) 今後参加したいボランティア活動の分野

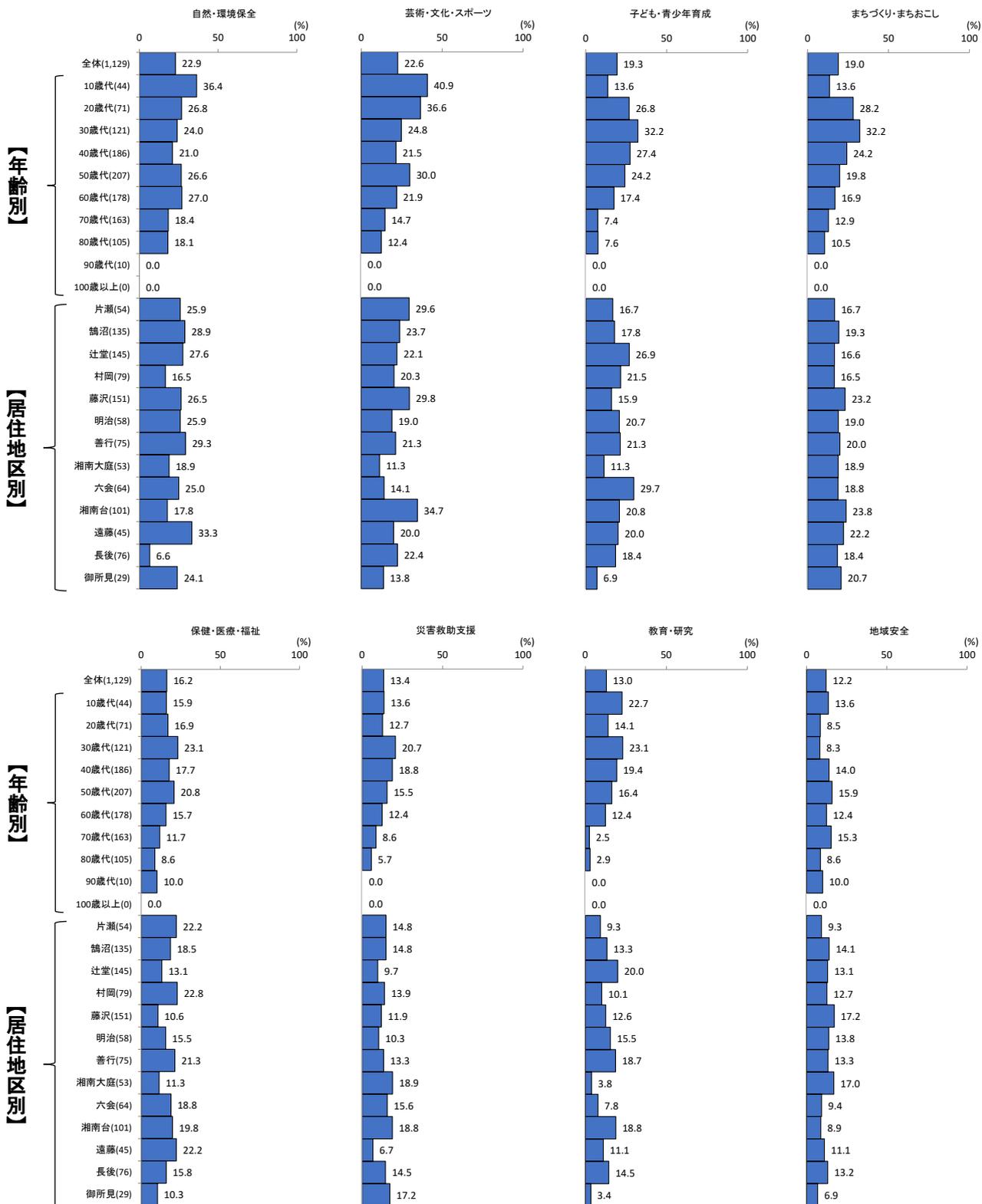
問3-7 あなたが今後参加したいボランティア活動の分野を選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

【図表69：今後参加したいボランティア活動の分野】



今後参加したいボランティア活動については、「自然・環境保全」が22.9%と最も高く、次いで、「芸術・文化・スポーツ」(22.6%)、「子ども・青少年育成」(19.3%)、「まちづくり・まちおこし」(19.0%)、「保健・医療・福祉」(16.2%)の順となっている。

【図表70：年齢別・居住地区別／今後参加したいボランティア活動の分野】上位8項目



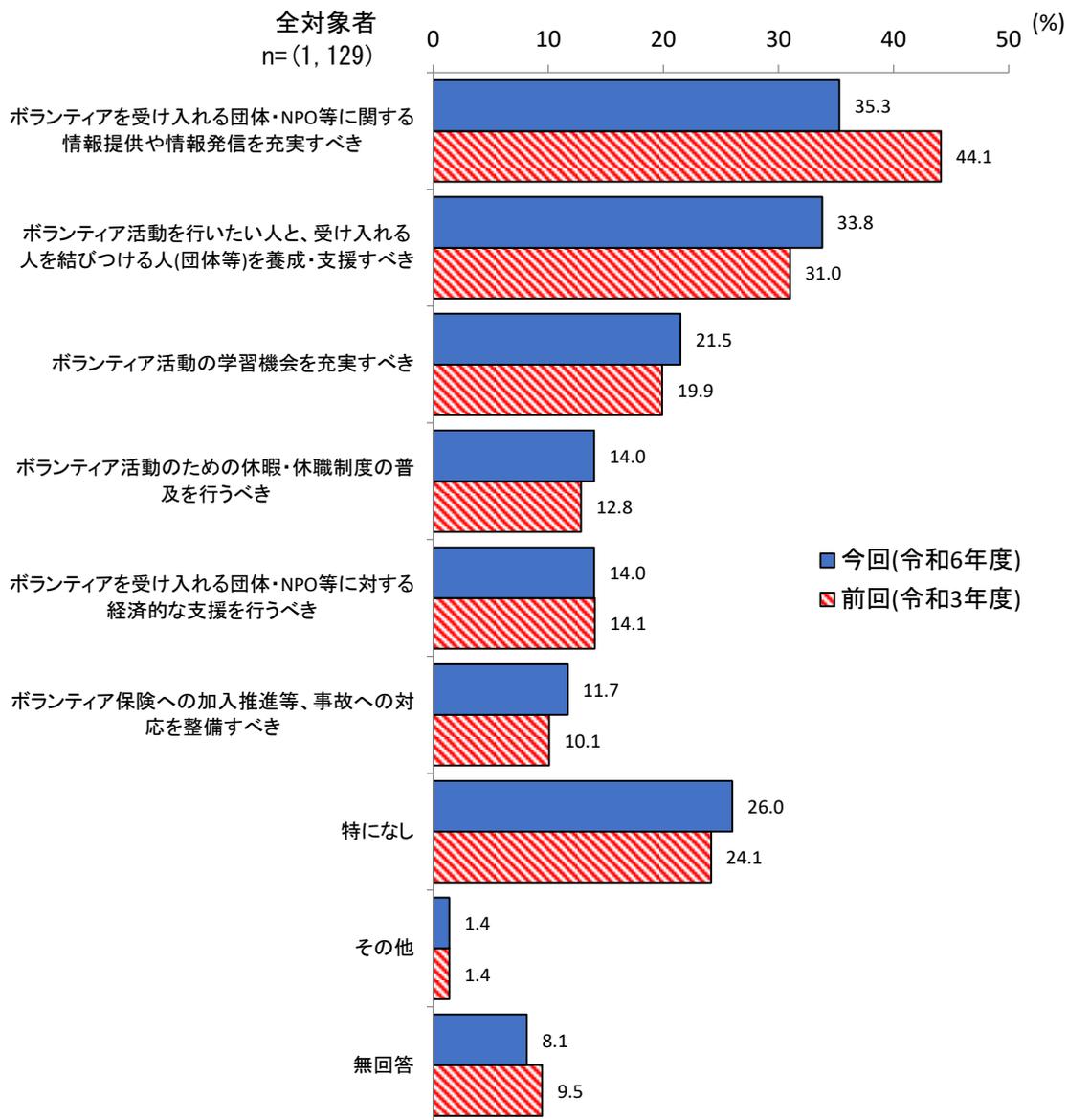
「自然・環境保全」を年齢別で見ると、10歳代（36.4%）が最も高く、次いで、60歳代（27.0%）、20歳代（26.8%）の順で高くなっている。「芸術・文化・スポーツ」は、10歳代（40.9%）が最も高く、次いで20歳代（36.6%）の割合が高くなっている。

「自然・環境保全」を居住地区別にみると、遠藤（33.3%）、善行（29.3%）、鶴沼（28.9%）の割合が高くなっている。「芸術・文化・スポーツ」では湘南台（34.7%）、藤沢（29.8%）、片瀬（29.6%）の順となっている。

(8) ボランティア活動について市に望むこと

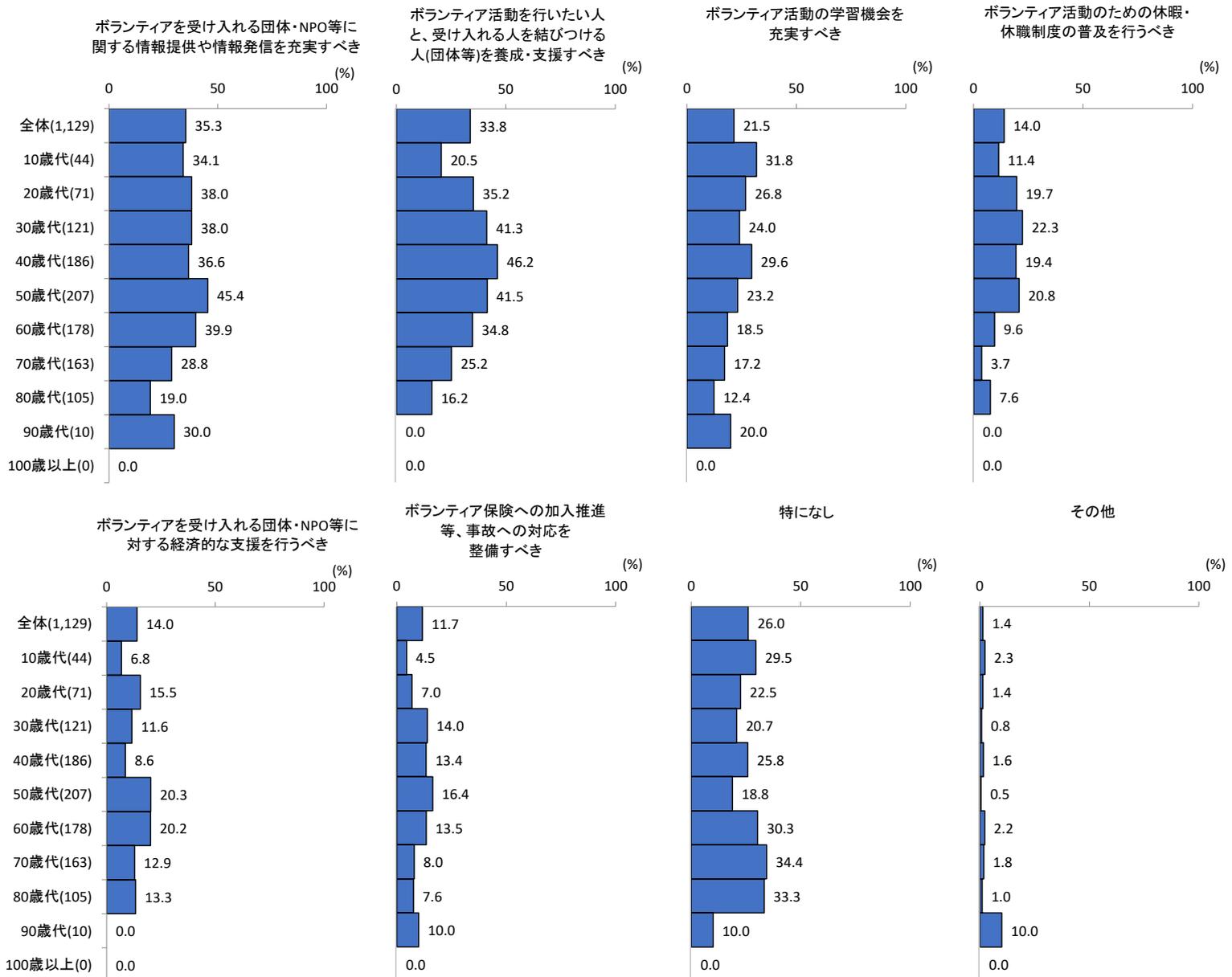
問3-8 ボランティア活動について、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表71：ボランティア活動について市に望むこと】



ボランティア活動について市に望むことについては、「ボランティアを受け入れる団体・NPO 等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が 35.3%と最も高くなっている。次いで、「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(33.8%)、「ボランティア活動の学習機会を充実すべき」(21.5%)の順となっている。

【図表72：年齢別／ボランティア活動について市に望むこと】上位8項目



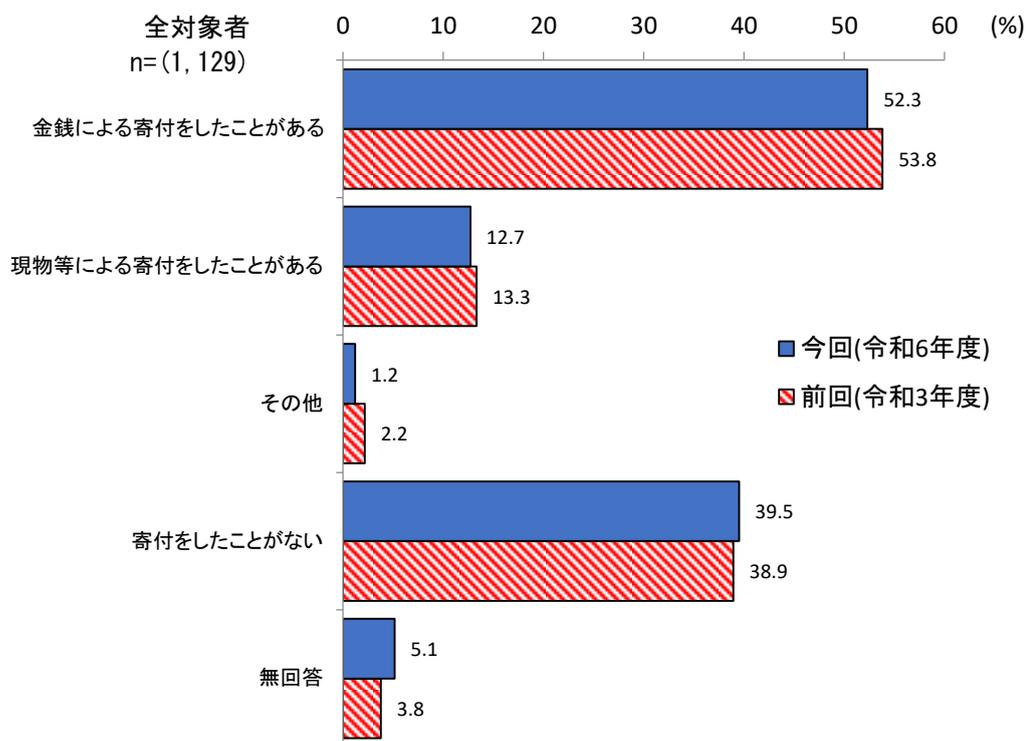
「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別で見ると、50歳代が45.4%と最も高く、次いで、60歳代(39.9%)、20歳代(38.0%)、30歳代(38.0%)の割合が高くなっている。「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、40歳代が46.2%と最も高く、50歳代(41.5%)と30歳代(41.3%)も4割以上となっている。

5. 寄付について

(1) 寄付経験の有無

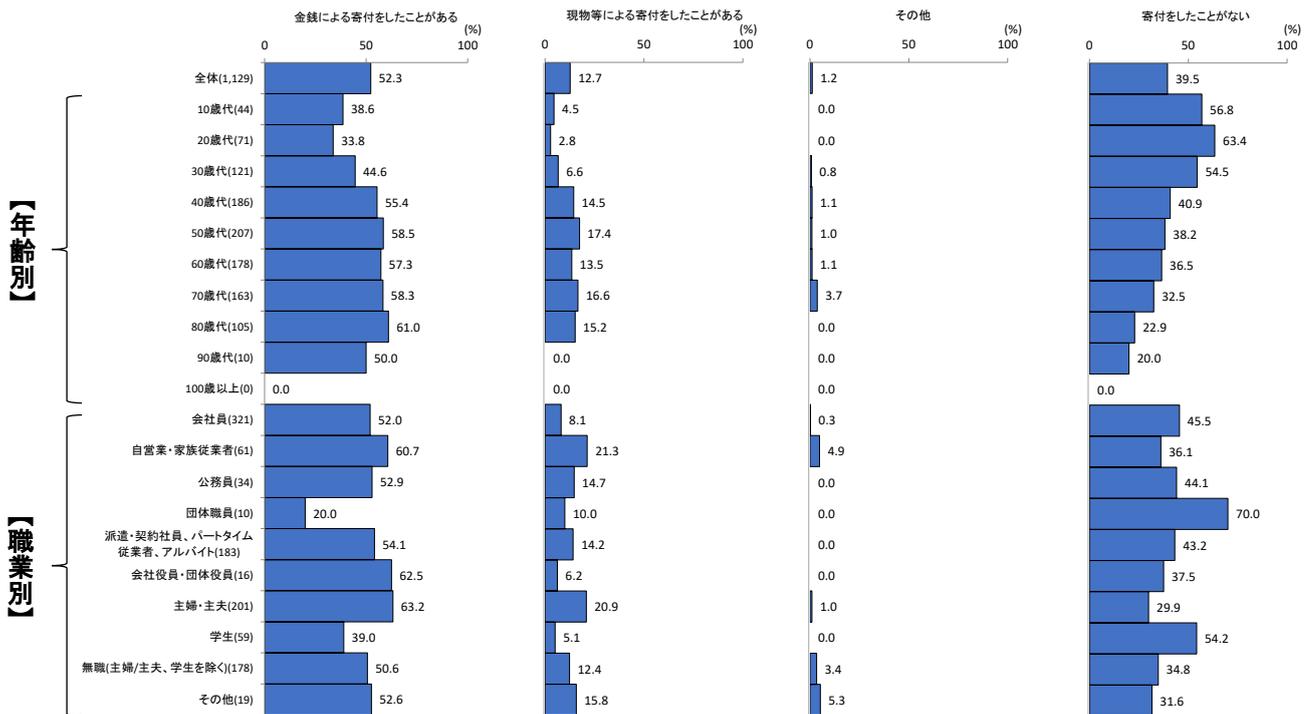
問4-1 あなたは寄付（募金、現物寄付等）をしたことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

【図表73：寄付経験の有無】



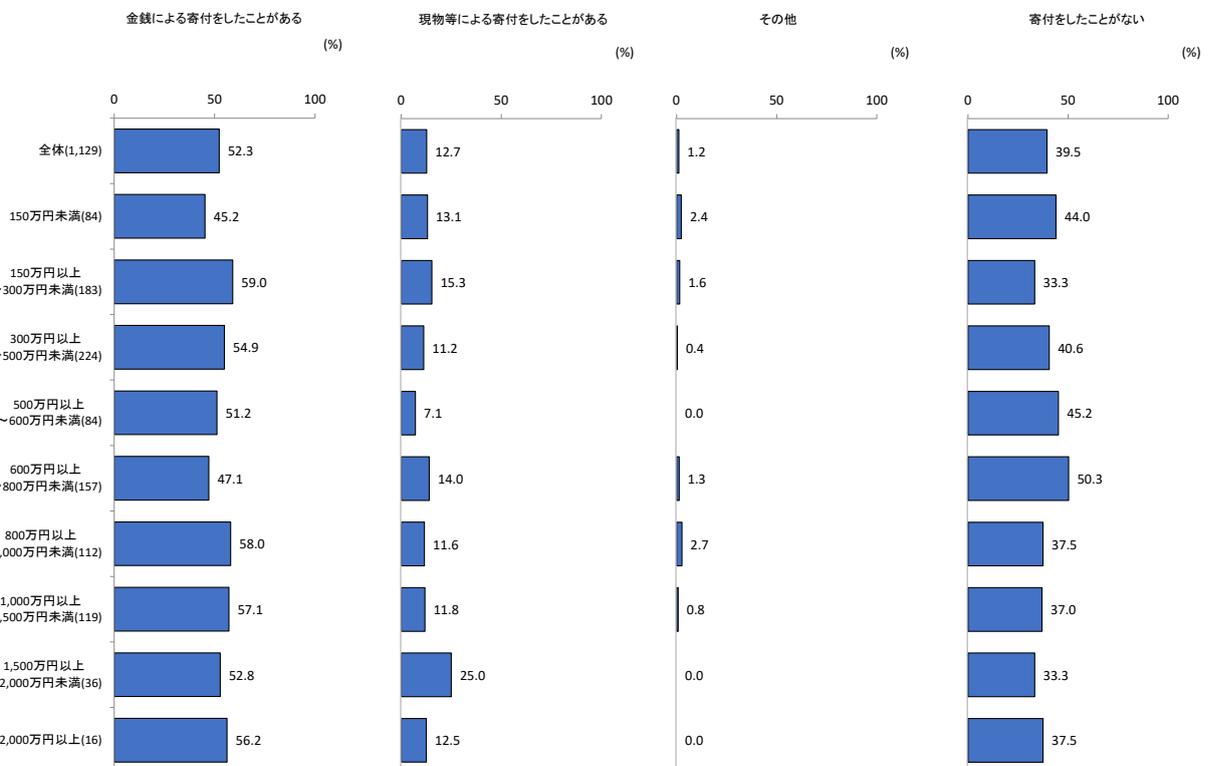
寄付経験の有無については、「金銭による寄付をしたことがある」が 52.3%で、前回調査（令和3年度）の 53.8%より 1.5 ポイント減っている。また、「現物等による寄付をしたことがある」は 12.7%で、こちらも前回調査（令和3年度）の 13.3%より 0.6 ポイント減っている。

【図表74：年齢別・職業別／寄付経験の有無】上位4項目



「金銭による寄付をしたことがある」を年齢別にみると、80歳代（61.0%）が最も高くなっている。「金銭による寄付をしたことがある」を職業別にみると、主婦・主夫（63.2%）が最も高い。一方、「寄付をしたことがない」は、20歳代（63.4%）、10歳代（56.8%）などの割合が高い。

【図表75：年収区分別／寄付経験の有無】上位4項目



「金銭による寄付をしたことがある」を年収区分別にみると、「150万円以上～300万円未満」が59.0%と最も高くなっている。

(2) 令和5年度に寄付した金額、回数、現物を寄付した回数

【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

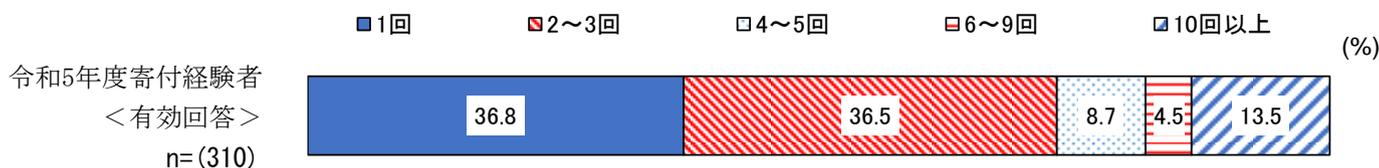
問4-2 令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）に寄付をした金額（金銭による寄付のみ）、金銭による寄付をした回数、現物等による寄付をした回数をご記入ください。

【図表76：個人の年間寄付金額】



個人の年間寄付金額は、「1～4,999円」が46.3%と最も高く、次いで「10,000～49,999円」(27.8%)、「100,000円以上」(9.6%)、「50,000～99,999円」(9.0%)、「5,000～9,999円」(7.5%)、となっている。

【図表77：個人の年間寄付金額年間金銭寄付回数】



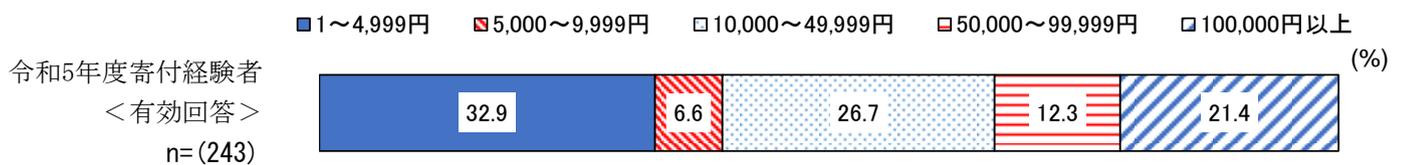
個人の年間金銭寄付回数については、「1回」が36.8%と最も高く、次いで「2～3回」(36.5%)、「10回以上」(13.5%)、「4～5回」(8.7%)、「6～9回」(4.5%)となっている。

【図表78：個人の年間現物等寄付回数】



年間現物等寄付回数については、「1回」が52.9%と最も高く、次いで「2~3回」(35.7%)、「4~5回」(8.6%)、「10回以上」(2.9%)、「6~9回」(0.0%)となっている。

【図表79：世帯全体の年間寄付金額】

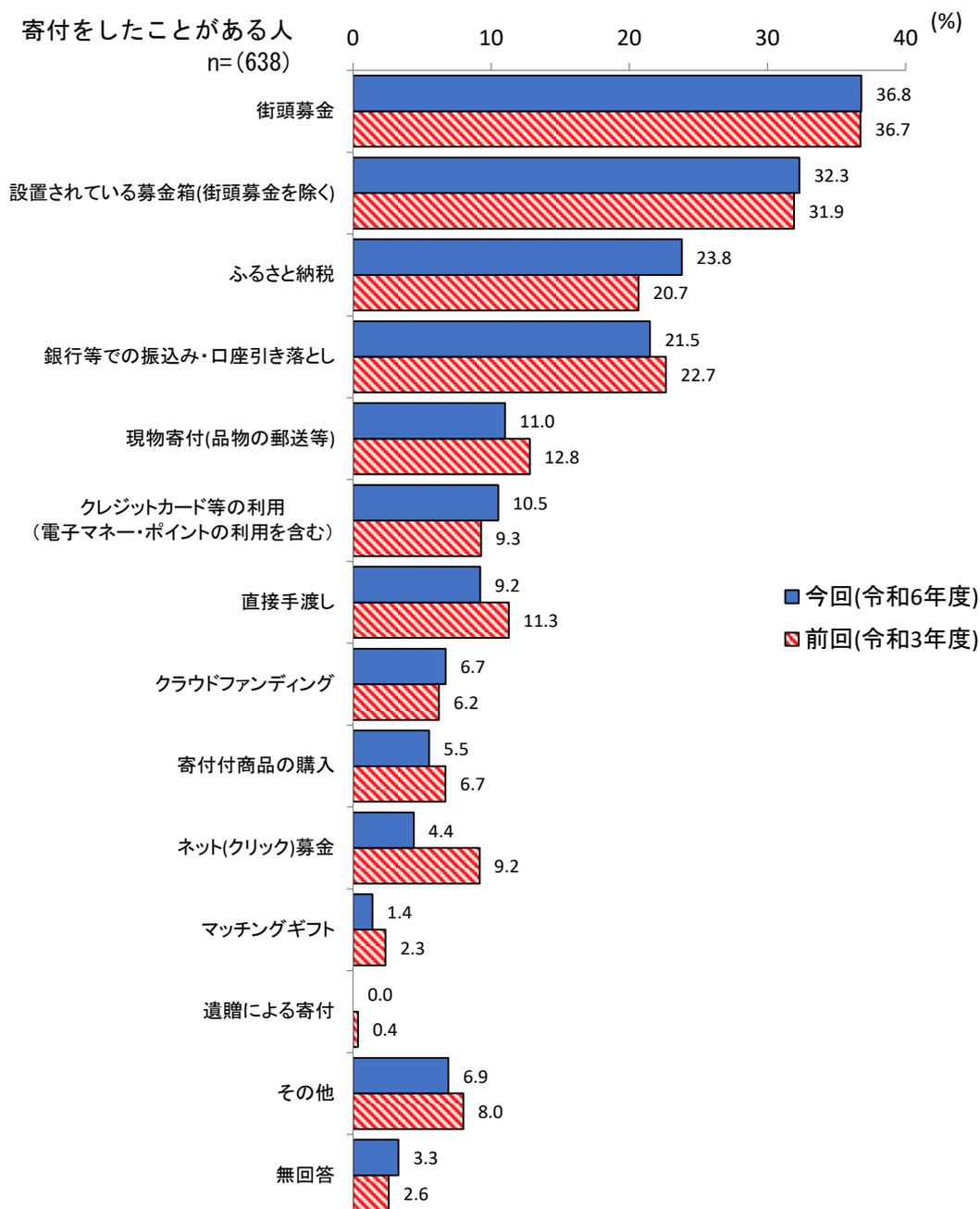


世帯全体の年間の寄付金額は、「1~4,999円」が32.9%と最も高く、次いで「10,000~49,999円」(26.7%)、「100,000円以上」(21.4%)、「50,000~99,999円」(12.3%)、「5,000~9,999円」(6.6%)となっている。

(3) 寄付を行った方法

【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-3 あなたが、寄付を行った方法は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

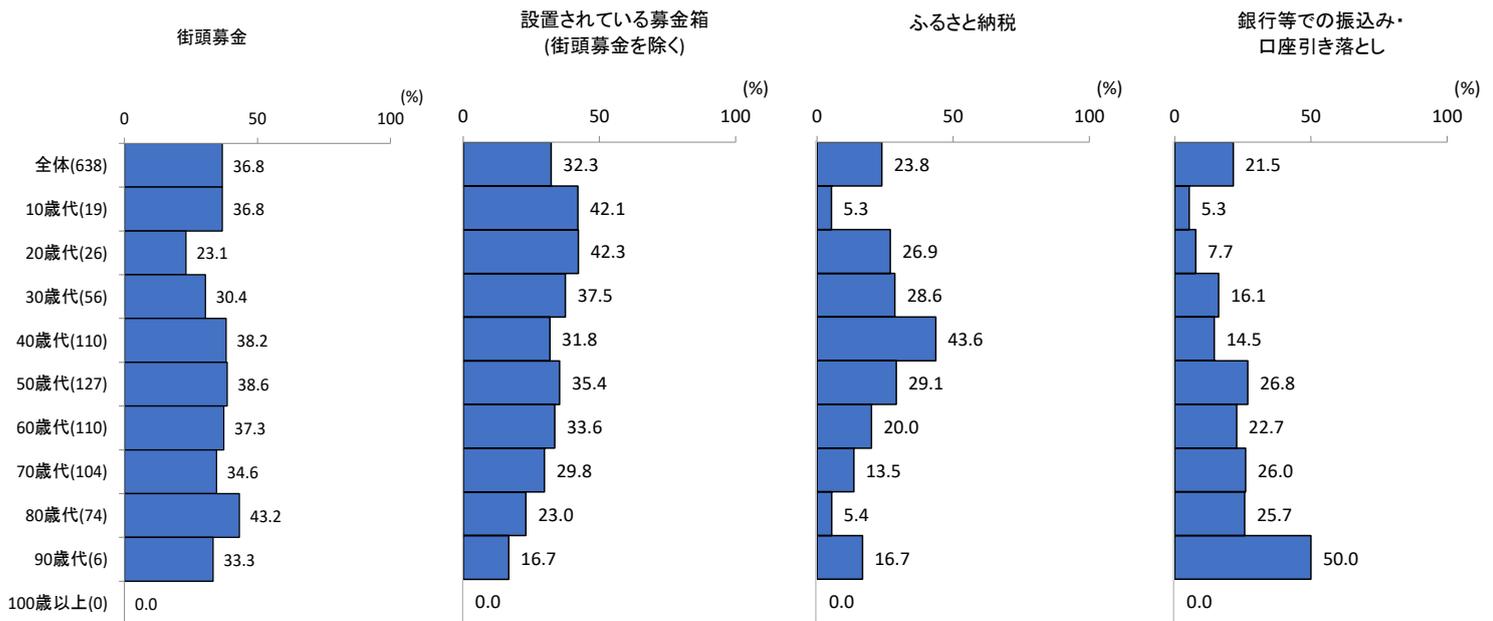
【図表80：寄付を行った方法】



寄付を行った方法については、「街頭募金」が 36.8%と最も高く、次いで、「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」(32.3%)、「ふるさと納税」(23.8%)の順となっている。

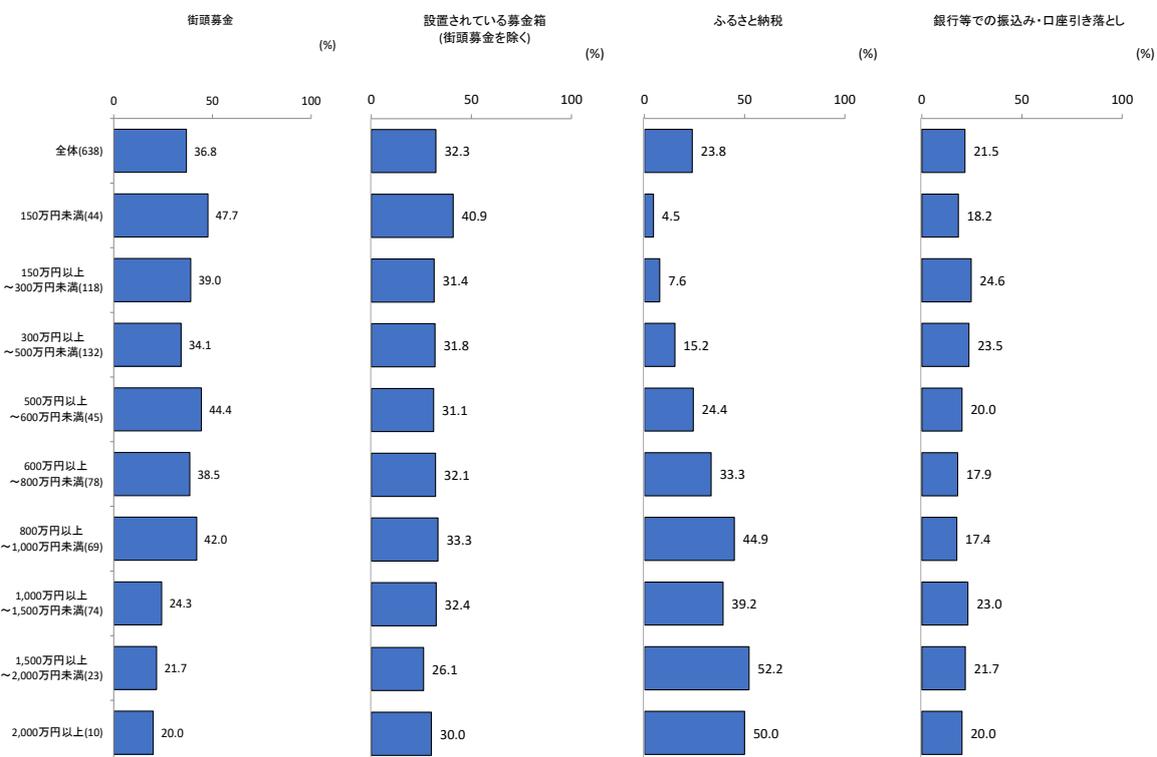
前回調査(令和3年度)と比べると、「現物寄付(品物の郵送等)」「直接手渡し」などの割合が減り、「ふるさと納税」「クレジットカード等の利用(電子マネー・ポイントの利用を含む)」などが増えている。

【図表 8 1 : 年齢別／寄付を行った方法】上位 4 項目



「街頭募金」を年齢別にみると、80歳代が43.2%と最も高くなっている。「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」は、20歳代で42.3%、10歳代で42.1%で4割以上となっている。一方、「ふるさと納税」は40歳代が43.6%と最も高くなっている。

【図表 8 2 : 年収区分別／寄付を行った方法】上位 4 項目



「街頭募金」を年収区分別にみると、「150万円未満」(47.7%)が最も高く、次いで「500万円以上～600万円未満」(44.4%)、「800万円以上～1,000万円未満」(42.0%)が4割以上となっている。

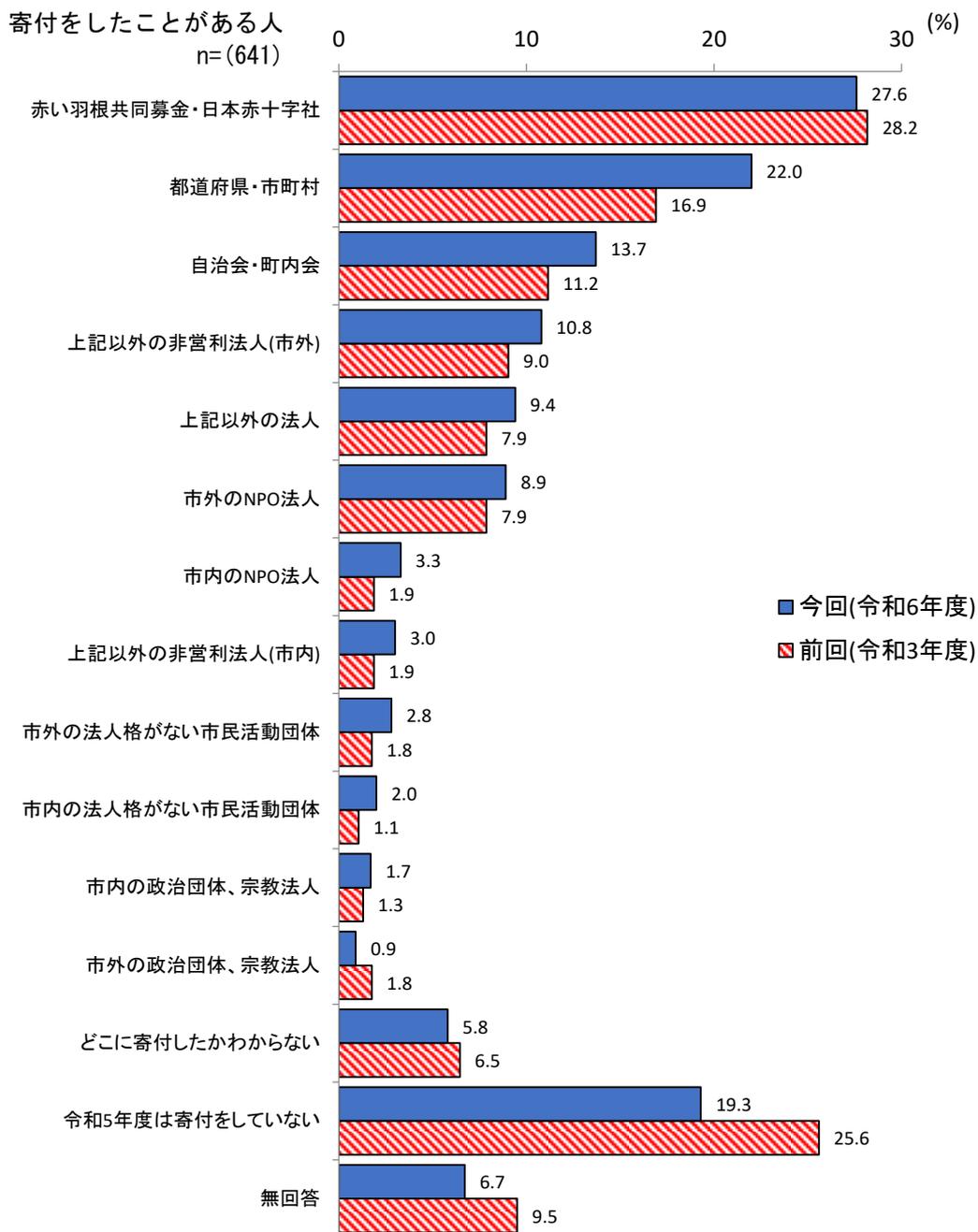
「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」は、「150万円未満」(40.9%)、「800万円以上～1,000万円未満」(33.3%)、「1,000万円以上～1,500万円未満」(32.4%)の割合が高い。

「ふるさと納税」は、「1,500万円以上～2,000万円未満」が52.2%と最も高くなっている。

(4) 令和5年度に寄付をした団体

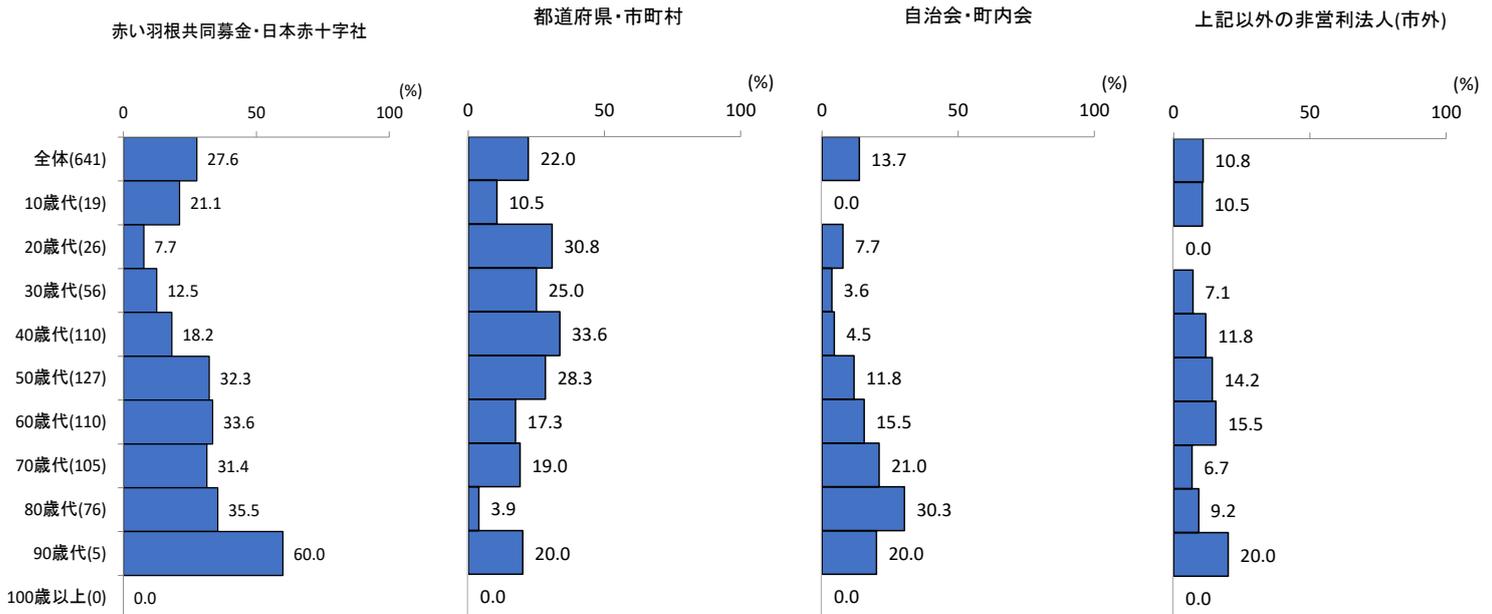
【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-4 あなたが、令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）に寄付をした団体はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表83：令和5年度に寄付をした団体】



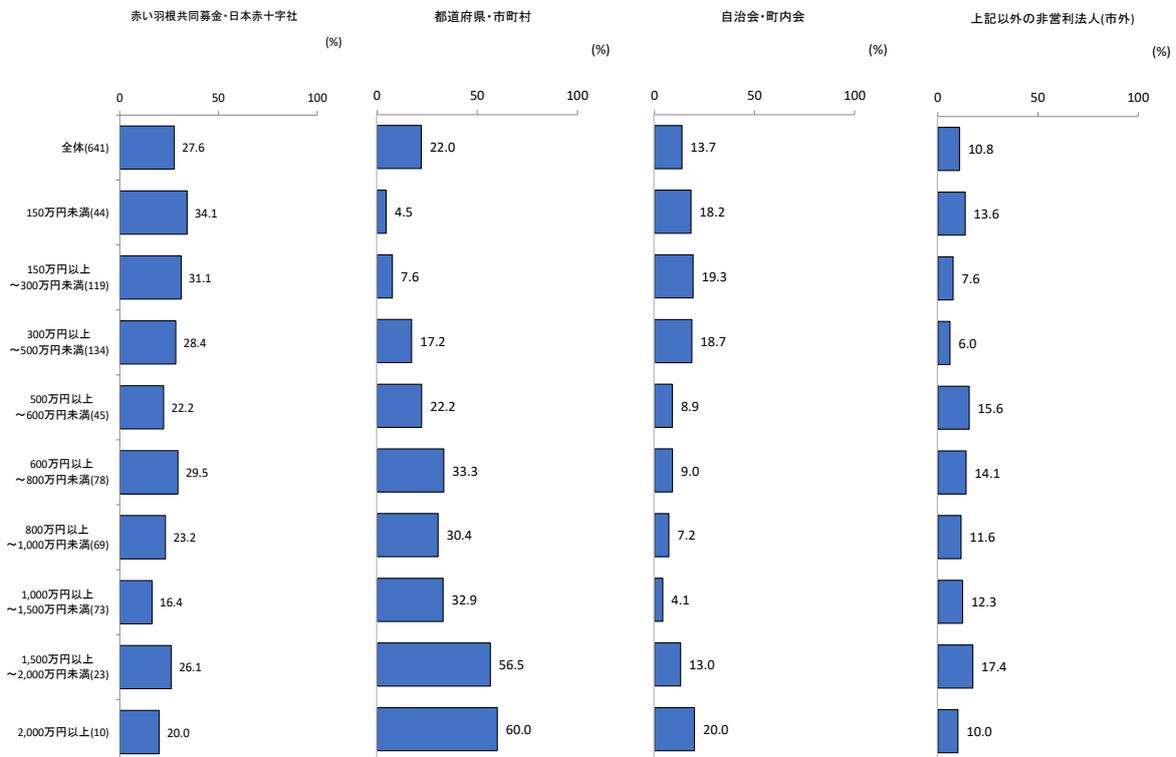
令和5年度に寄付をした団体については、「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」が27.6%と最も高く、次いで、「都道府県・市町村」（22.0%）、「自治会・町内会」（13.7%）の順となっている。

【図表84：年齢別／令和5年度に寄付をした団体】上位4項目



「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」を年齢別にみると、90歳代が60.0%と最も高く、次いで、80歳代(35.5%)、60歳代(33.6%)となっている。「都道府県・市町村」は、40歳代が33.6%と最も高く、次いで、20歳代(30.8%)、50歳代(28.3%)となっている。「自治会・町内会」は、80歳代(30.3%)および70歳代(21.0%)で割合が高くなっている。

【図表85：年収区分別／令和5年度に寄付をした団体】上位4項目

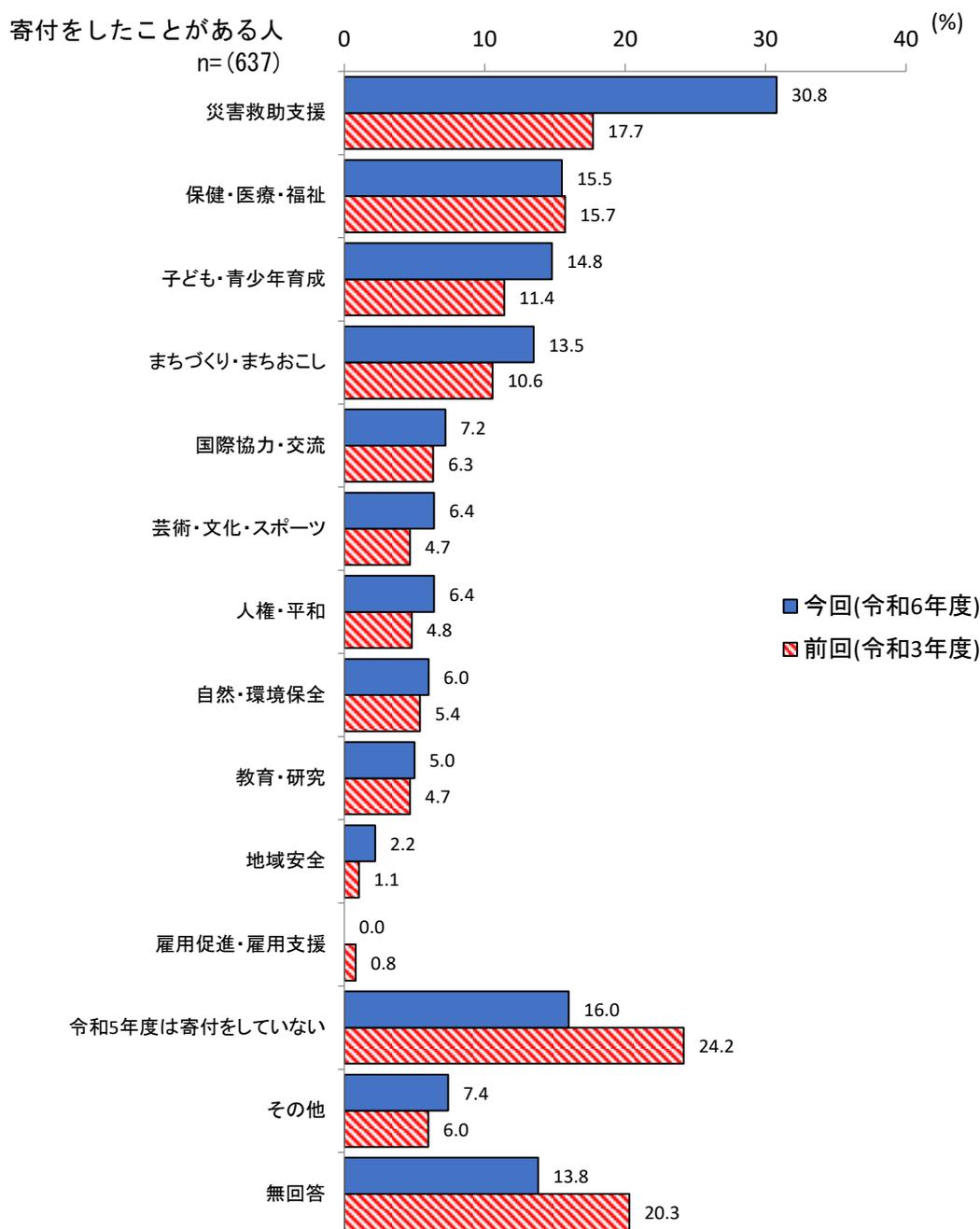


「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」を年収区分別にみると、「150万円未満」(34.1%)が最も高く、次いで「150万円以上～300万円未満」(31.1%)で3割を超えている。「都道府県・市町村」は、「2,000万円以上」が60.0%と最も高い一方、「自治会・町内会」では「150万円以上～300万円未満」が19.3%と最も高くなっている。

(5) 令和5年度に寄付をした分野

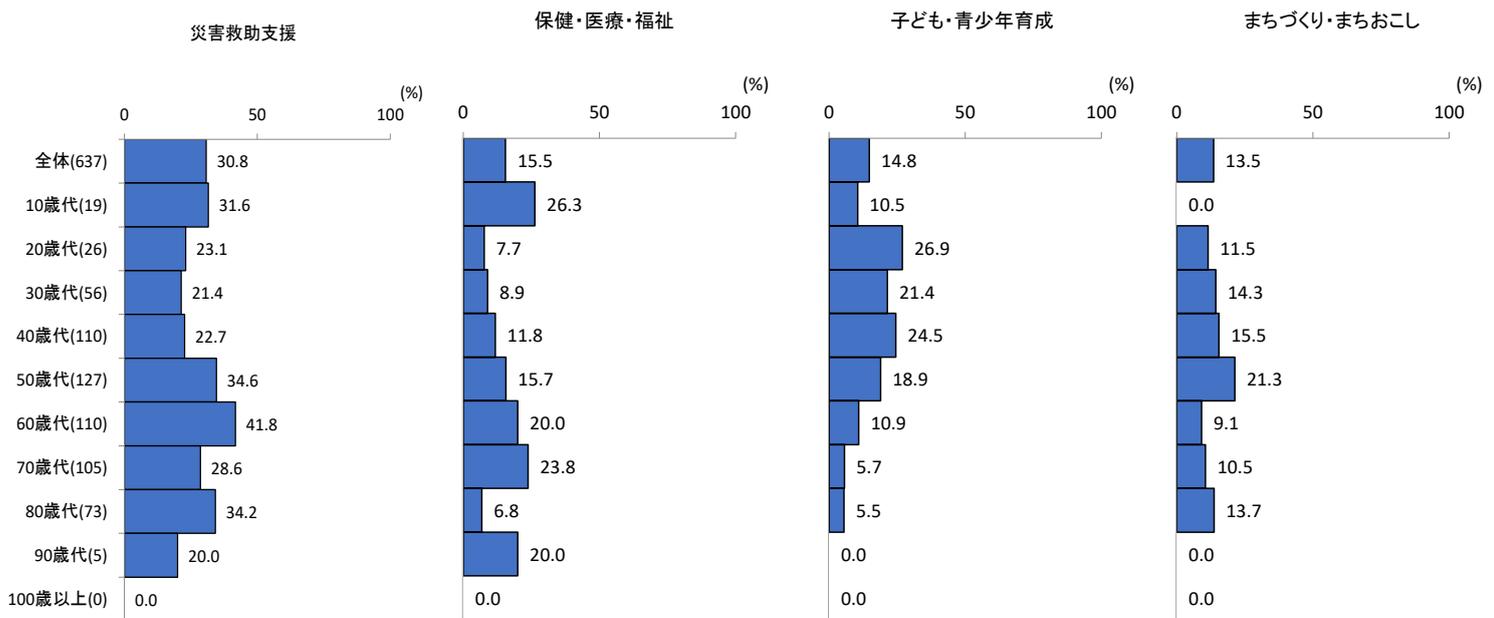
【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-5 あなたが、令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）に寄付をした分野はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表86：令和5年度に寄付をした分野】



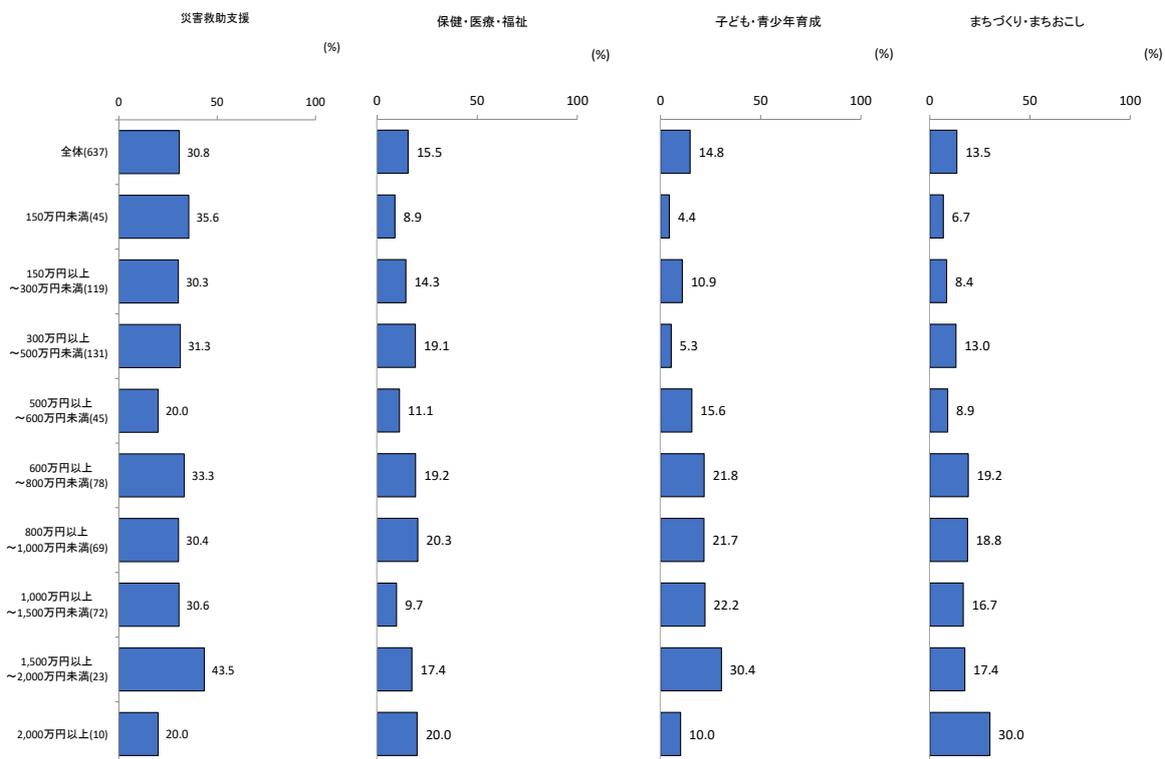
令和5年度に寄付をした分野については、「災害救助支援」が30.8%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」（15.5%）、「子ども・青少年育成」（14.8%）、「まちづくり・まちおこし」（13.5%）の順となっている。

【図表 87：年齢別／令和5年度に寄付をした分野】上位4項目



「災害救助支援」を年齢別にみると、60歳代（41.8%）が他の年代に比べてやや高くなっている。「保健・医療・福祉」については、10歳代の割合が26.3%と高く、「子ども・青少年育成」では、20歳代（26.9%）、「まちづくり・まちおこし」では50歳代（21.3%）が最も高くなっている。

【図表 88：年収区分別／令和5年度に寄付をした分野】上位4項目



「災害救助支援」を年収区分別にみると、「1,500万円以上～2,000万円未満」が43.5%と最も高く、次いで、「150万円未満」（35.6%）、「600万円以上～800万円未満」（33.3%）となっている。

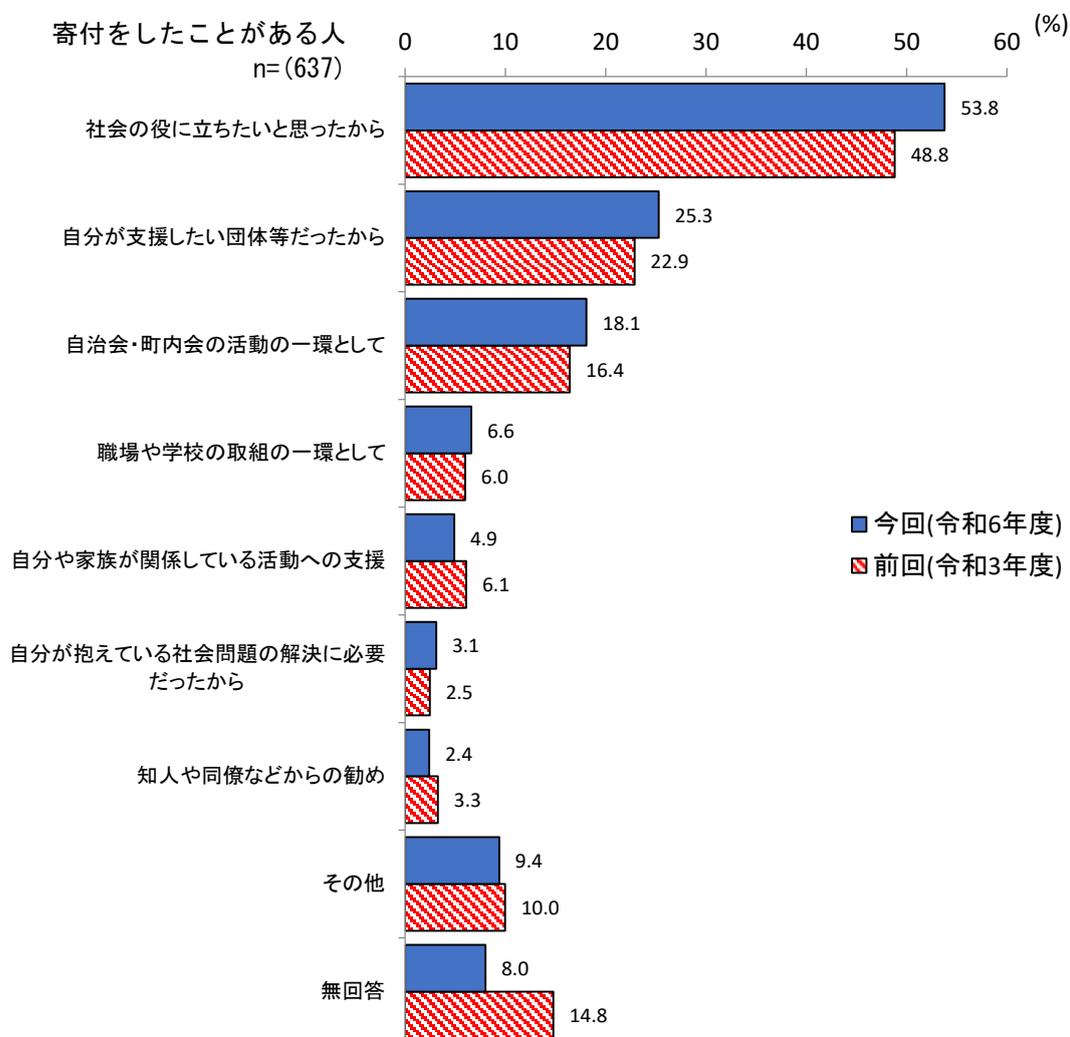
「保健・医療・福祉」では、「800万円以上～1,000万円未満」（20.3%）や「2,000万円以上」（20.0%）、「600万円以上～800万円未満」（19.2%）の割合が高くなっている。

「子ども・青少年育成」では「1,500万円以上～2,000万円未満」が30.4%、「まちづくり・まちおこし」では「2,000万円以上」が30.0%と最も高くなっている。

(6) 寄付をした理由

【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-6 あなたが寄付をした理由はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

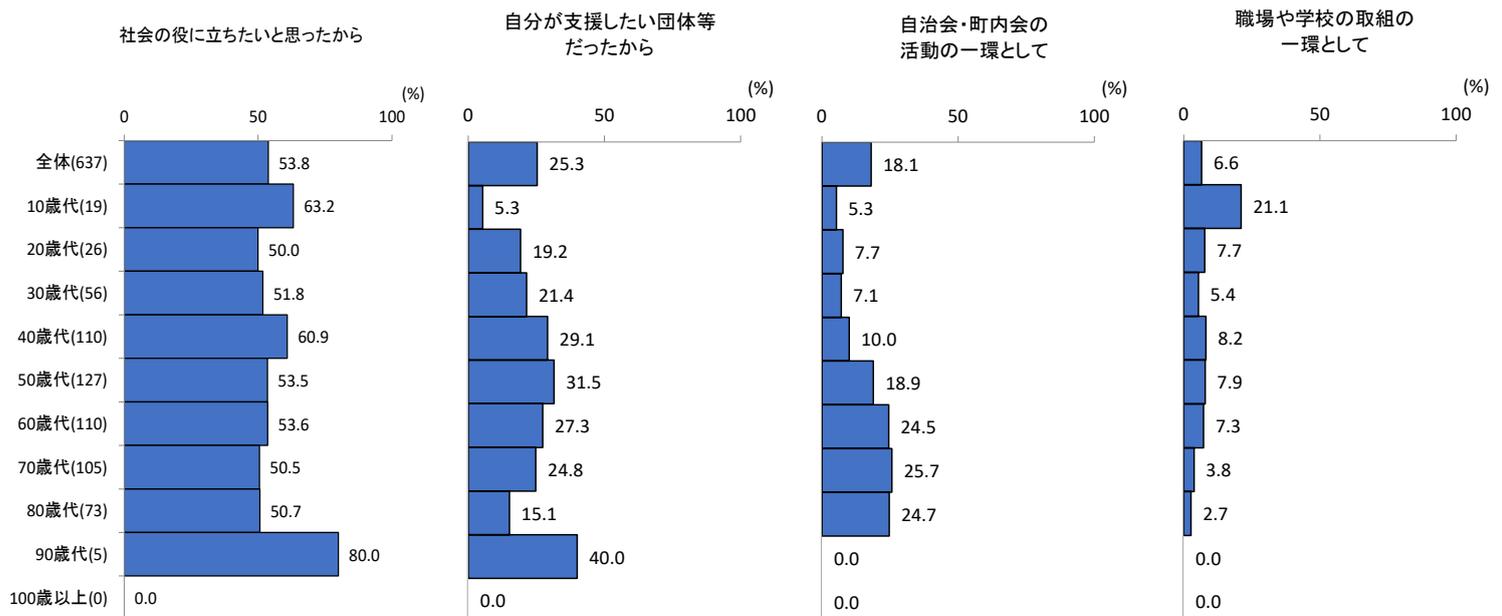
【図表89：寄付をした理由】



寄付をした理由については、「社会の役に立ちたいと思ったから」が 53.8%と最も高くなっており、前回調査（令和3年度）の 48.8%より 5.0 ポイント上がっている。

続いて割合が高いのは、「自分が支援したい団体等だったから」（25.3%）、「自治会・町内会の活動の一環として」（18.1%）の順となっている。

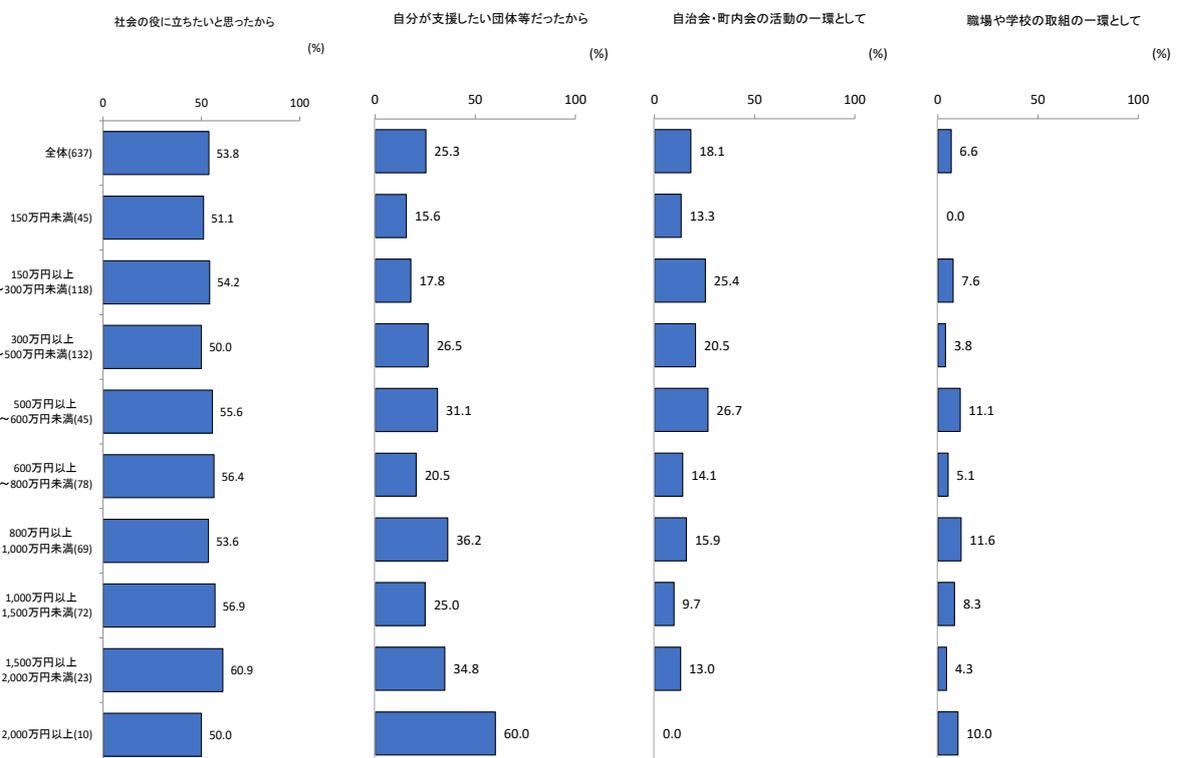
【図表90：年齢別／寄付をした理由】上位4項目



「社会の役に立ちたいと思ったから」を年齢別にみると、90歳代（80.0%）と最も高く、次いで10歳代（63.2%）、40歳代（60.9%）の順となっている。

また、「自分が支援したい団体等だったから」については、90歳代（40.0%）が最も高く、次いで50歳代（31.5%）、40歳代（29.1%）となっている。

【図表91：年収区分別／寄付をした理由】上位4項目



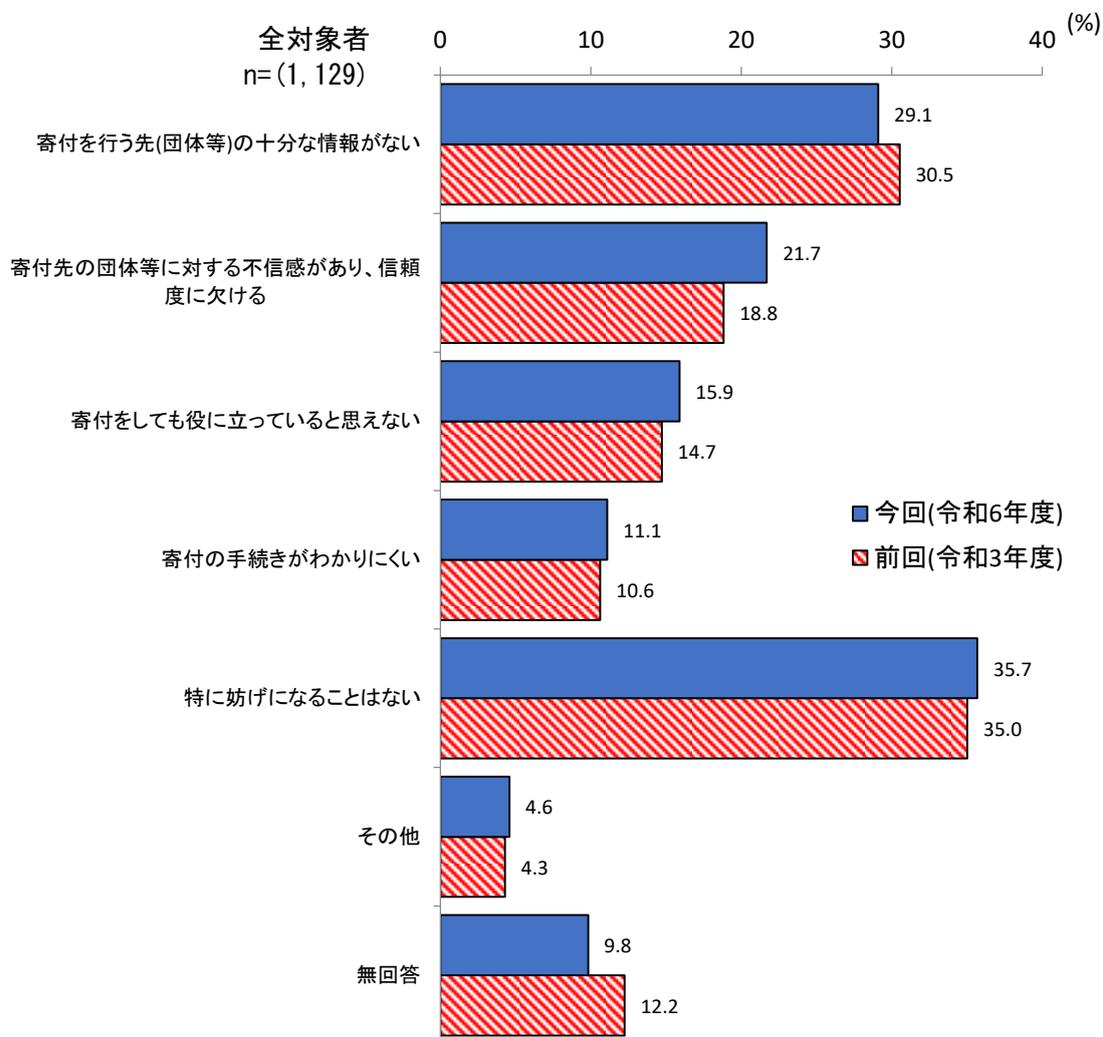
「社会の役に立ちたいと思ったから」を年収区分別にみると、「1,500万円以上～2,000万円未満」が60.9%と最も高く、次いで「1,000万円以上～1,500万円未満」（56.9%）、「600万円以上～800万円未満」（56.4%）の順となっている。

「自分が支援したい団体等だったから」では、「2,000万円以上」（60.0%）や「800万円以上～1,000万円未満」（36.2%）、「1,500万円以上～2,000万円未満」（34.8%）の割合が高くなっている。

(7) 寄付をするにあたり妨げとなること

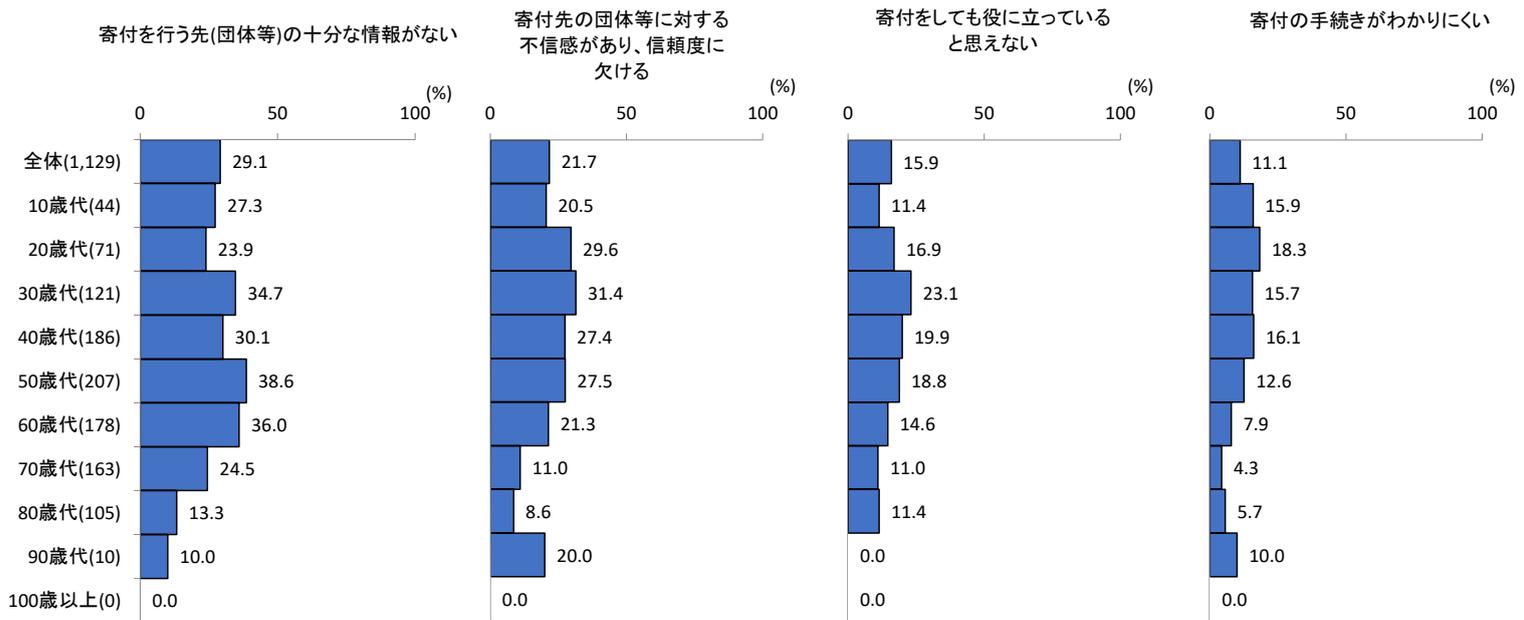
問4-7 あなたが寄付をするにあたり妨げになることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表9-2：寄付をするにあたり妨げとなること】



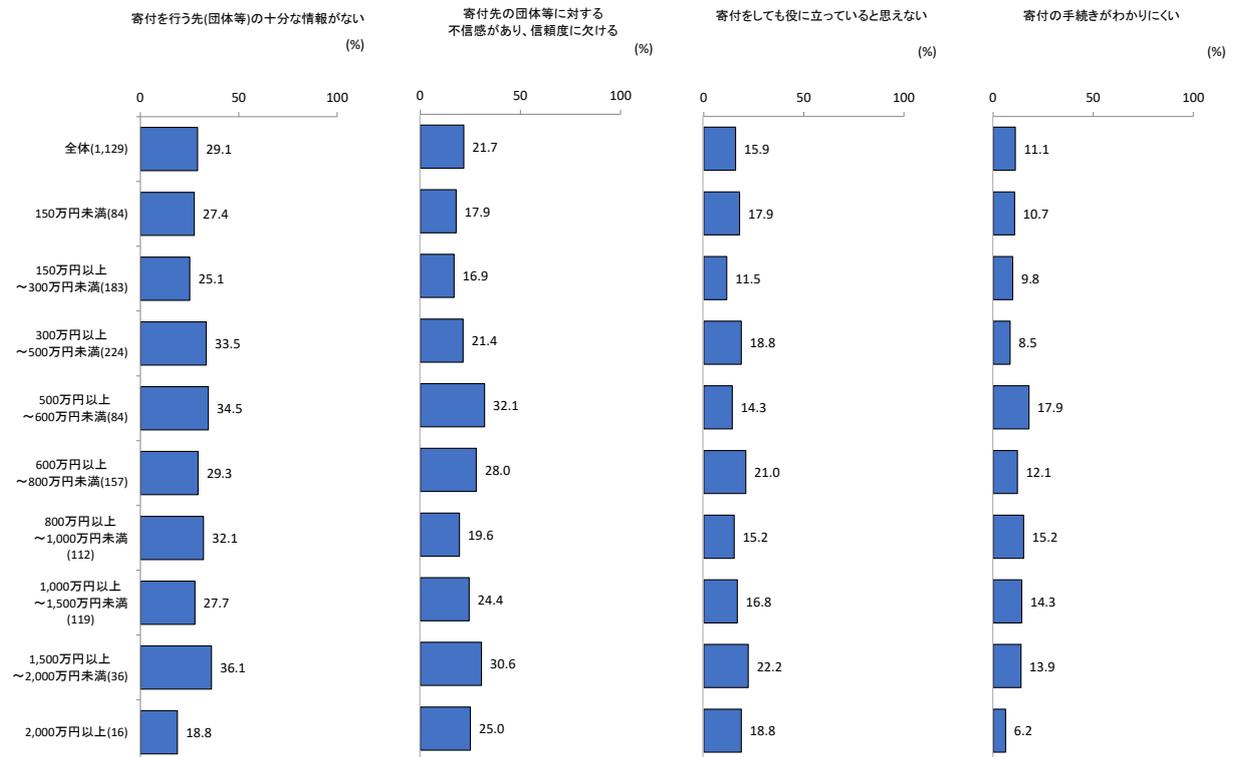
寄付をするにあたり妨げとなることについては、「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」が29.1%、次いで「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」(21.7%)、「寄付をしても役に立っていると思えない」(15.9%)、「寄付の手続きがわかりにくい」(11.1%)の順となっている。なお、「特に妨げになることはない」と回答した人は35.7%となっている。

【図表93：年齢別／寄付をするにあたり妨げとなること】上位4項目



「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」を年齢別にみると、50歳代が38.6%と最も高く、次いで60歳代(36.0%)、30歳代(34.7%)、40歳代(30.1%)が3割を超えている。「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」は、30歳代が31.4%と最も高くなっている。

【図表94：年収区分別／寄付をするにあたり妨げとなること】上位4項目



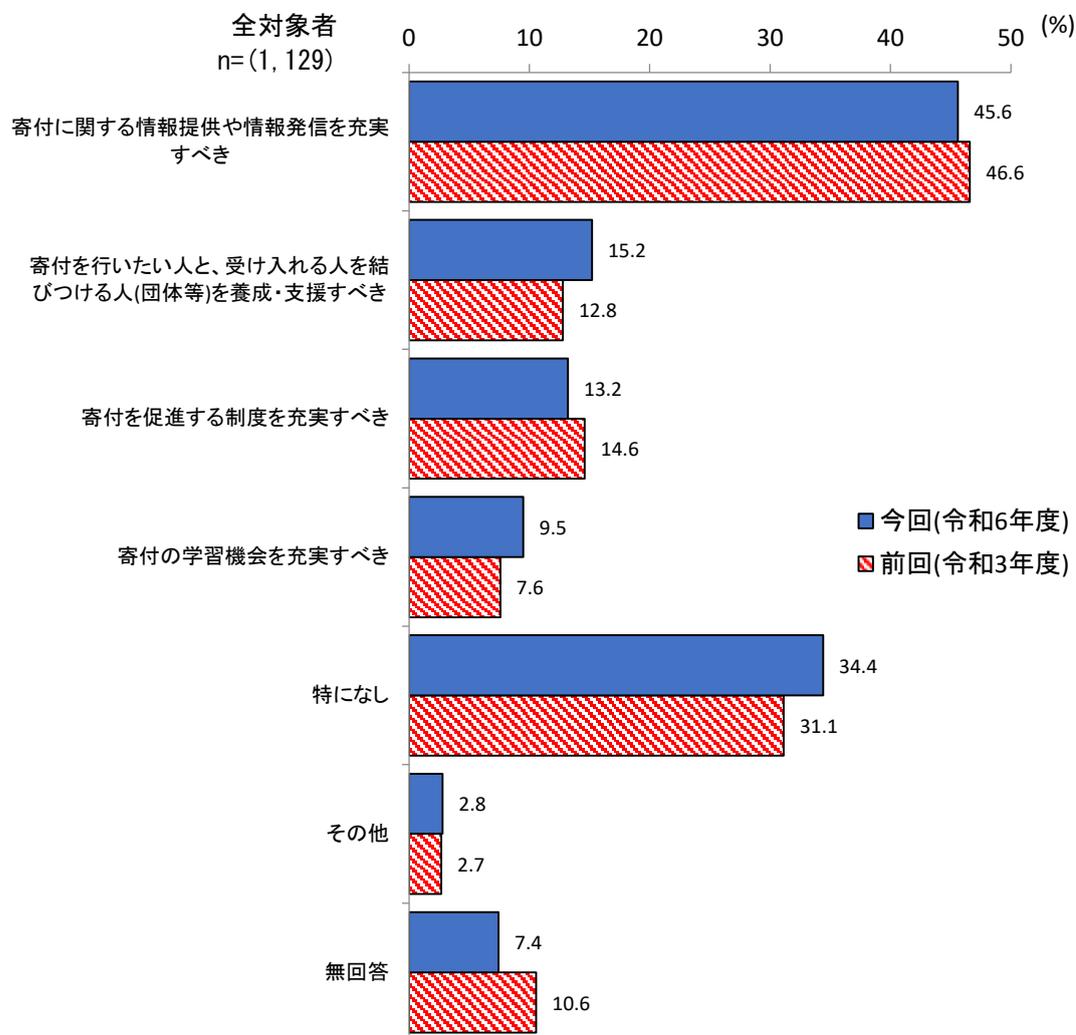
「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」を年収区別にみると、「1,500万円以上～2,000万円未満」が36.1%と最も高く、他の年収区分においても概ね3割前後となっている。

「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」は、「500万円以上～600万円未満」が32.1%と最も高く、次いで「1,500万円以上～2,000万円未満」(30.6%)が3割を超えている。

(8) 寄付促進のために市に望むこと

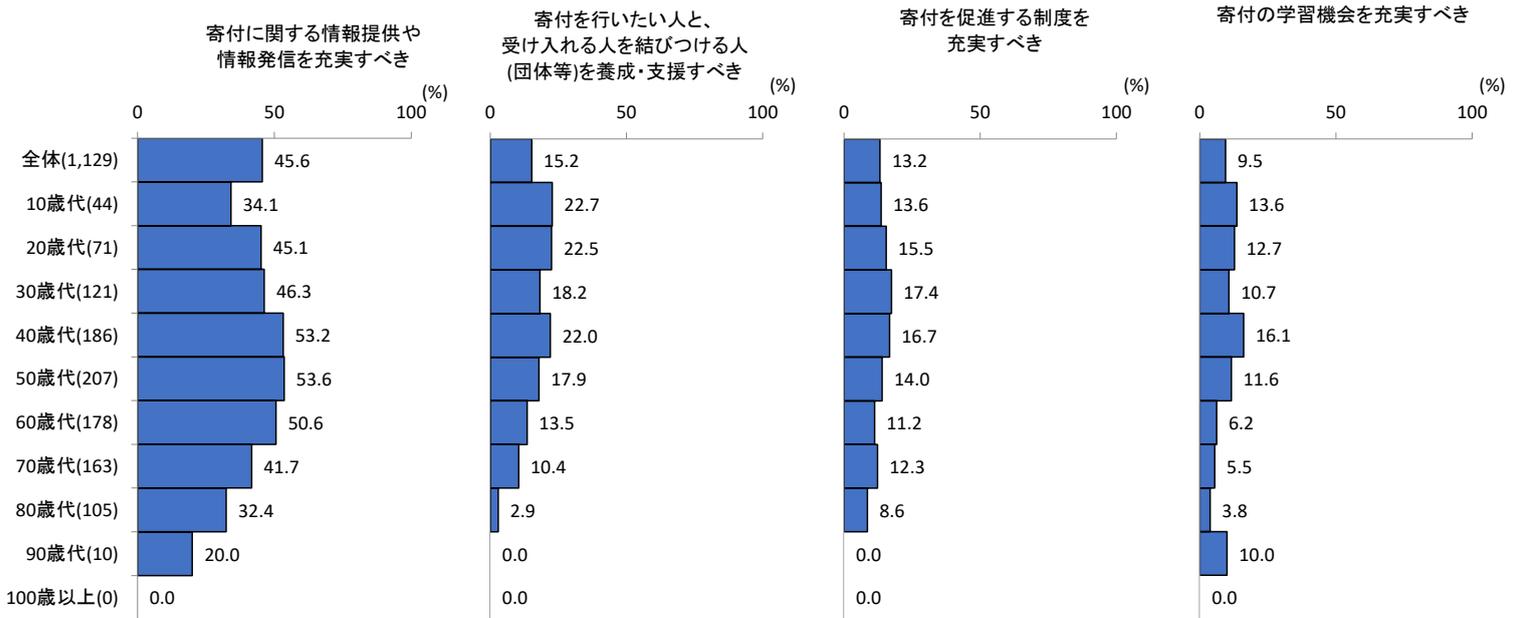
問4-8 寄付促進のために、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表95：寄付促進のために市に望むこと】



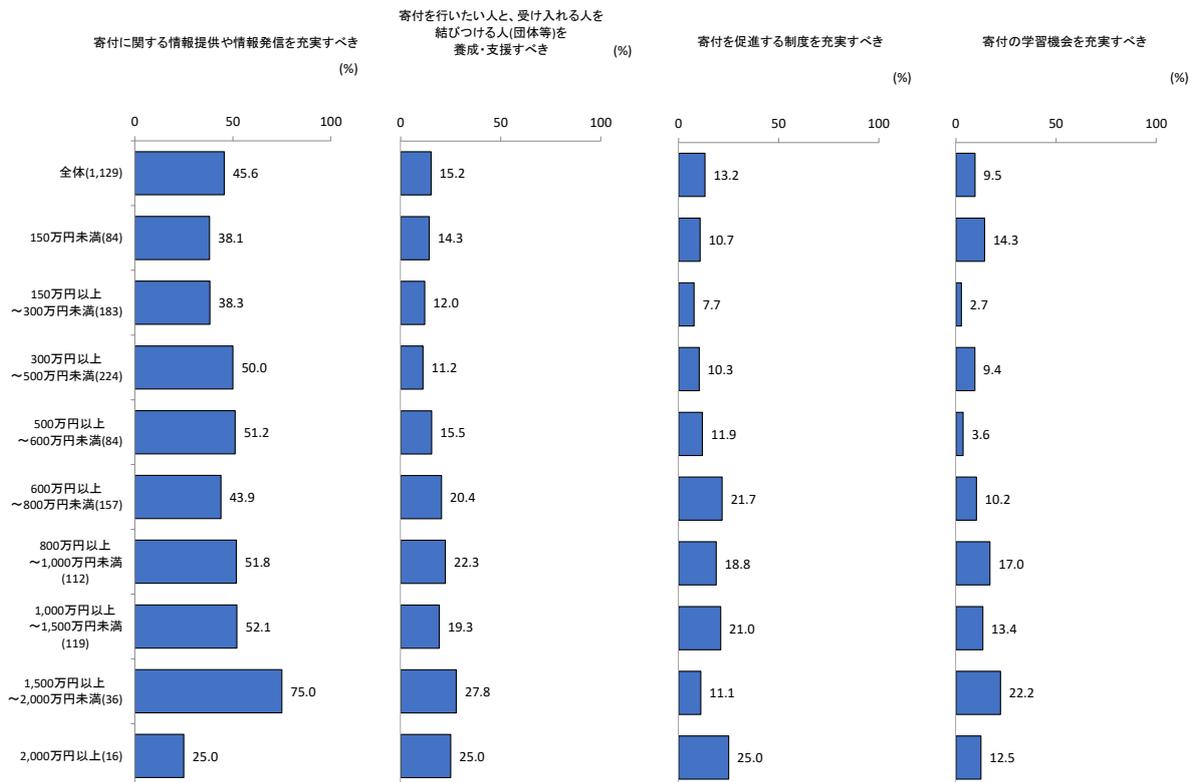
寄付促進のために市に望むことについては、「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が45.6%と最も高く、次いで「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(15.2%)、「寄付を促進する制度を充実すべき」(13.2%)、「寄付の学習機会を充実すべき」(9.5%)の順となっている。なお、「特になし」と回答した人は34.4%となっている。

【図表96：年齢別／寄付促進のために市に望むこと】上位4項目



「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別にみると、20～60歳代が5割前後と高くなっている。「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、10歳代(22.7%)、20歳代(22.5%)、40歳代(22.0%)が2割を超えている。

【図表97：年収区分別／寄付促進のために市に望むこと】上位4項目



「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年収区分別にみると、「1,500万円以上～2,000万円未満」が75.0%と最も高く、次いで、「1,000万円以上～1,500万円未満」(52.1%)「800万円以上～1,000万円未満」(51.8%)の順となっている。

「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、「1,500万円以上～2,000万円未満」が27.8%と最も高くなっている。

6. その他

(1) 新型コロナウイルスによる地域活動や市民活動への影響

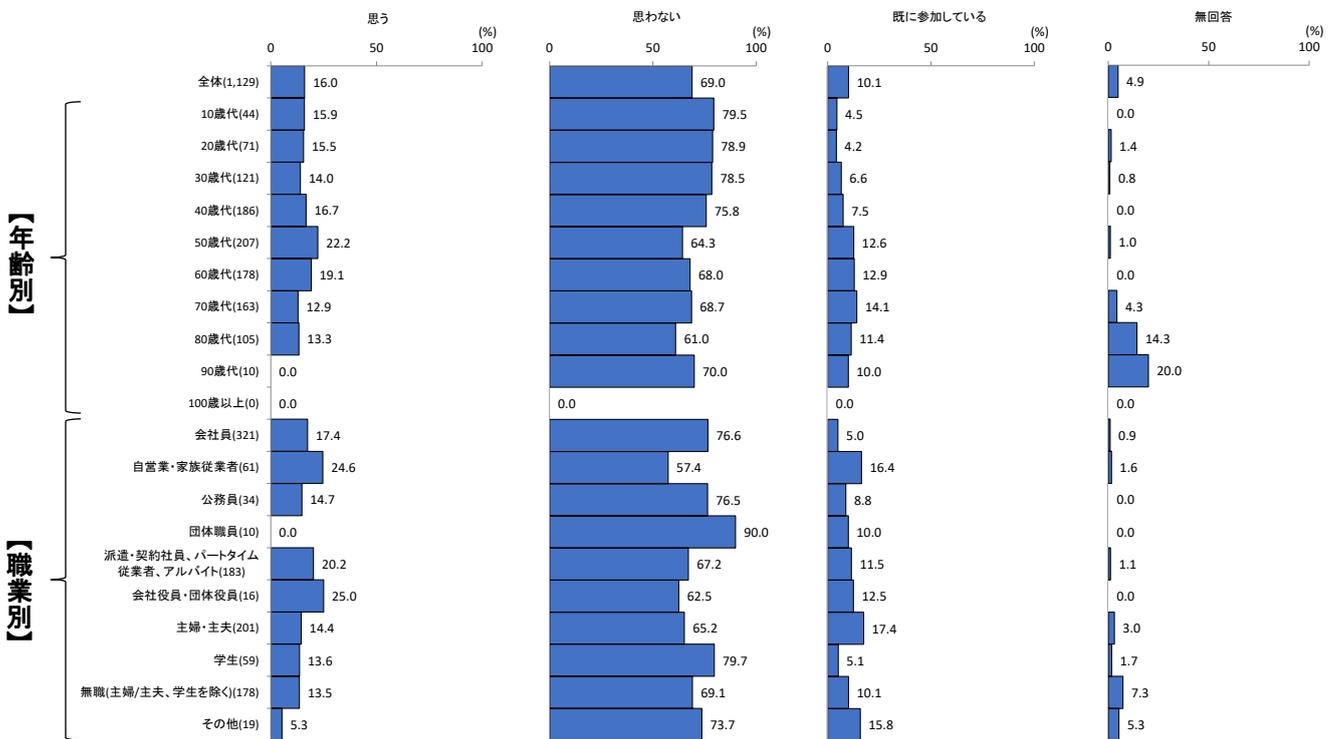
問5-1 新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化をきっかけに、地域活動や市民活動などに参加したいと思いますか。(いずれか一つに○)

【図表98：新型コロナウイルスによる生活様式の変化をきっかけに、地域活動や市民活動などに参加したいと思いますか】



新型コロナウイルス感染症の影響をきっかけに、地域活動や市民活動などに参加したいと思いますかについては、「思う」が16.0%、「思わない」が69.0%となり、7割近くが「思わない」と答えている。また、「既に参加している」との回答が10.1%あった。

【図表99：年齢別・職業別／新型コロナウイルスによる生活様式の変化をきっかけに、地域活動や市民活動などに参加したいと思いますか】

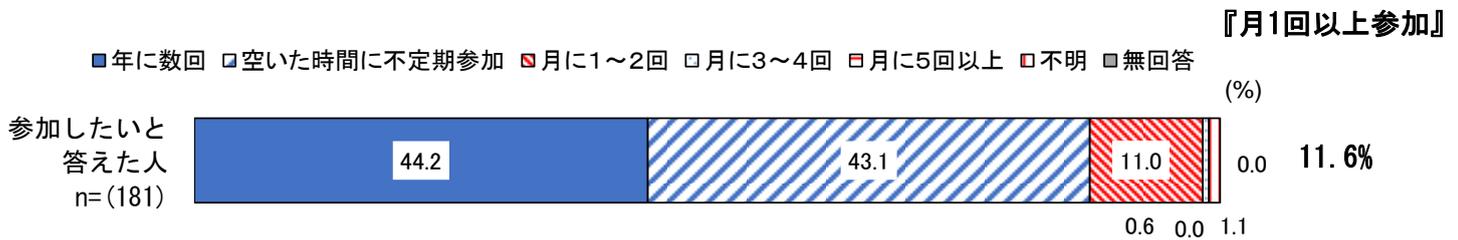


地域活動や市民活動などに参加したいと思いますかの割合を年齢別にみると、「思う」は50歳代(22.2%)が最も高く、その他の年代では2割を下回っている。「思わない」は10~40歳代で7割を超えている。

職業別に見た場合も「思う」が全ての職種で3割を下回っている。「思わない」は団体職員が90.0%と最も多く、次いで学生(79.7%)、会社員(76.6%)、公務員(76.5%)、その他(73.7%)が7割を超えている。

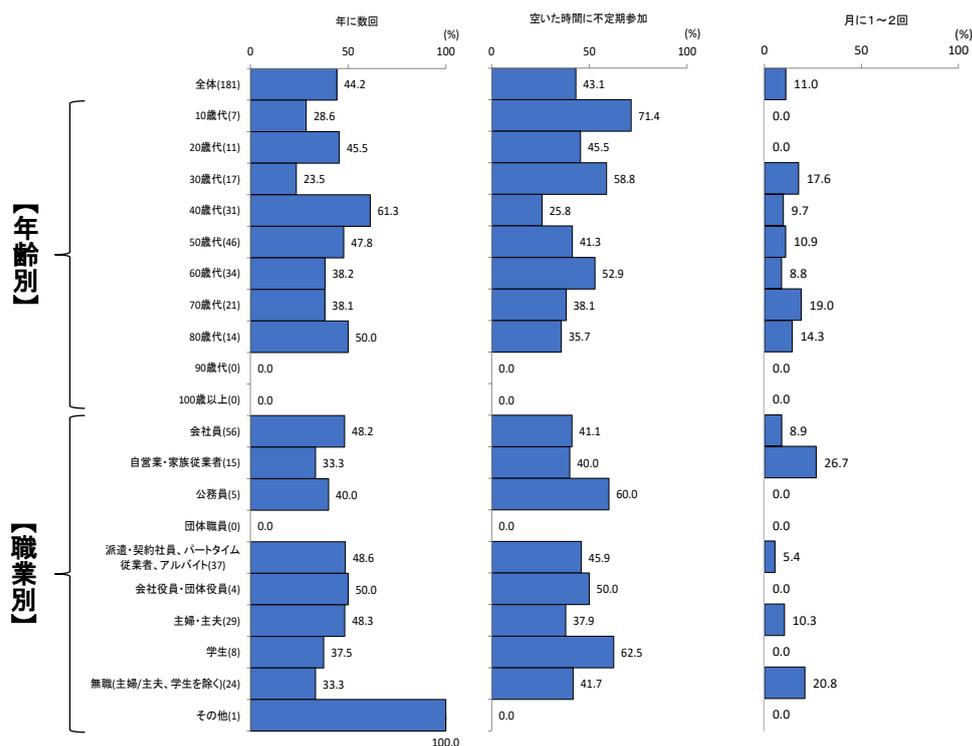
【問5-1で「1. 思う」に○をつけた方にお聞きします】
 問5-2 どれくらいの頻度で参加したいと思いますか。(いずれか一つに○)

【図表100：地域活動や市民活動にどれくらいの頻度で参加したいか】



新型コロナウイルス感染症の影響をきっかけに地域活動や市民活動などに参加したいと答えた方で、月1回以上の頻度で参加したいと思うと回答したのは11.6%だった。その内、「月に1~2回」が11.0%、「月に3~4回」が0.6%、「月に5回以上」が0.0%という結果となった。

【図表101：年齢別・職業別／地域活動や市民活動にどれくらいの頻度で参加したいか】上位3項目

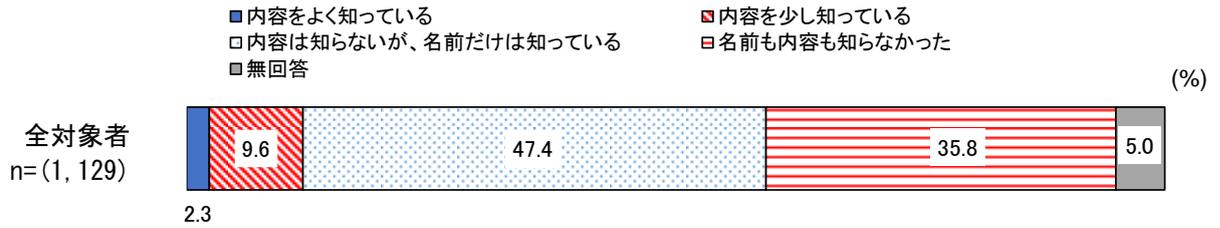


年齢別・職業別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

(2) 「藤沢市市民憲章」の周知状況

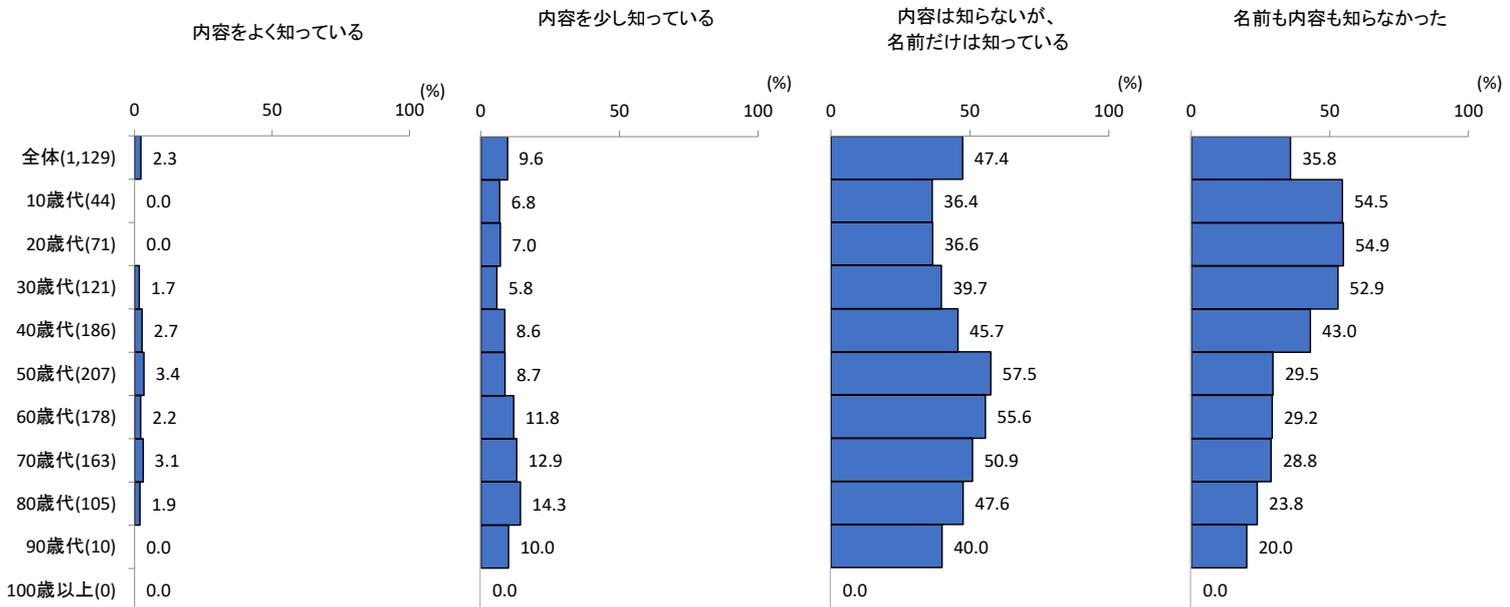
問5-3 市民が郷土を愛し、藤沢を住みよい幸せなまちにするため、市民がお互いを守るべき生活の道しるべとして「藤沢市市民憲章」が定められています。
このアンケートが届く前から、「藤沢市市民憲章」を知っていましたか。
(いずれか一つに○)

【図表102：「藤沢市市民憲章」の周知状況】



「藤沢市市民憲章」の周知状況について、「内容は知らないが、名前だけは知っている」が47.4%と最も高く、次いで「名前も内容も知らなかった」(35.8%)、「内容を少し知っている」(9.6%)、「内容をよく知っている」(2.3%)の順となっている。

【図表103：年齢別／「藤沢市市民憲章」の周知状況】



「内容は知らないが、名前だけは知っている」を年齢別にみると、50歳代が57.5%と最も高く、次いで60歳代(55.6%)、70歳代(50.9%)も5割を超えている。「名前も内容も知らなかった」は、10歳代(54.5%)、20歳代(54.9%)、30歳代(52.9%)で5割を超えている。

(3) 自由意見

問5-4 その他、何かご意見等がございましたらお書きください。

自由意見について、180人からの回答があった。「特になし」「その他」を除き回答の多かった内容は、「市民活動・ボランティア活動について」「まちづくりについて」「市民活動情報の発信について」「このアンケートについて」の順であった。

内容	件数
市民活動・ボランティア活動について (例：機会があれば参加したい、自分の生活で参加できない等)	29
このアンケートについて(例：アンケートに答えるのが難しい等)	16
市民活動情報の発信について(例：情報提供の充実等)	17
寄付対象団体や寄付金の流れについて(例：募金が正しく使われているか等)	1
まちづくりについて(例：道路整備、町の施設の充実等)	20
自治会・町内会活動や地域コミュニティについて (例：活動の負担が大きい等)	13
高齢者や障がい者施策について (例：高齢者や障がいがある方向け支援の充実等)	9
文化・スポーツイベントの開催や文化・スポーツ施設の整備について (例：ホールの整備等)	3
藤沢市の環境整備について(例：樹木の管理等)	4
藤沢市の財政について(例：税金が高い等)	9
市職員について(例：職員の地域活動等)	4
児童施策について(例：子ども向け支援の充実等)	8
市民のマナーの改善について(例：住民のモラルやマナー等)	4
防災活動について(例：消防団等)	2
防犯について(例：地域の安全安心)	4
上記以外の市政について	8
新型コロナウイルスについて(例：感染への不安や対策への関心・要望等)	4
その他	33
特になし	50

※ 1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

第3章 総評

●地域活動について

各地域活動の周知度（「知っている」割合）は、「自治会・町内会」（90.1%）「学校・PTA・子ども会等」（87.1%）「老人クラブ」（53.5%）「地域団体」（60.0%）「市民活動団体」（48.5%）「公民館などのサークルや講座」（81.0%）となっており、いずれの地域活動も前回調査（令和3年度）に比べ高くなっている。「地域団体」と「市民活動団体」については周知度が前回調査よりどちらも20ポイント前後の増加となっているが、他の地域活動ほどは周知されていない。

また、参加状況をみると、「年に数回」から「月に5回以上」を合わせた『参加している』は「自治会・町内会」の約2割が最も高く、他の活動については「参加していない」が8割以上を占めている。『参加している』割合は前回調査と比べると、減少または微増傾向である。周知度は高くとも参加にまでは至っていないのが現状である。

地域活動の参加の理由としては、いずれの地域活動でも、「地域や仲間等と繋がりたいから」が上位3項目内に入っている。他に多かった理由は「社会の一員として役に立ちたいから」「自己啓発や自らの成長につながると思うため」「自分や家族が関係している活動への支援」などがあげられる。

地域活動に参加することに妨げとなることについては、「仕事が忙しい」「自分の生活で精一杯」「参加する時間がない」「参加できる曜日や時間帯が合わない」「活動内容がわからない」の順であがっている。30歳代では、「仕事が忙しい」「活動内容がわからない」「参加の機会がない」が多くあがっている。40歳代では、「仕事が忙しい」「自分の生活で精一杯」が多い。

参加頻度で「参加していない」を回答した方の地域活動に参加することに妨げになることについては、「自治会・町内会」では「活動内容がわからない」「参加の機会がない」が上位2項目である。「学校・PTA・子ども会等」「老人クラブ」「地域団体」「市民活動団体」「公民館などのサークルや講座」においては上位2項目に「仕事が忙しい」「自分の生活で精一杯」があげられている。

以上のことから、「自治会・町内会」においては、地域活動の活動内容を周知させ、興味を持ってもらうことが、各活動への参加推進へつながると考えられる。そのためには、情報提供の方法、発信等を強化・充実させることが必要であると考えられる。また、参加しやすい環境づくり、仕組みの強化も必要である。

活動の参加理由として「地域や仲間等と繋がりたい」「社会の一員として役立ちたい」「自らの成長につながる」などがあげられたことから、これらの意識を刺激する情報発信が有効ではないかと考えられる。

●市民活動について

市民活動への参加意向については、「はい」（32.1%）が、前回調査（35.1%）より低くなっている。50歳代と60歳代の4割近くが「はい」と回答しており、40歳代以下と80歳代の6割以上は「いいえ」と回答している。

参加したい市民活動については、「芸術・文化・スポーツ」「まちづくり・まちおこし」「自然・環境保全」が上位3項目にあがっている。「芸術・文化・スポーツ」と「自然・環境保全」では10歳代が、「まちづくり・まちおこし」では40歳代の割合が最も高い。

市民活動に参加したい理由については、「社会の一員として役に立ちたいから」「自己啓発や自らの成長につながると思うため」「困っている人を支援したいという気持ち」の順であがっている。「社会の一員として役に立ちたいから」と「困っている人を支援したいという気持ち」では40歳代が、「自己啓発や自らの成長につながると思うため」は80歳代の割合が最も高い。

市民活動に参加することに妨げとなることについては、「活動内容がわからない」(29.4%)が最も高い割合である。次いで「参加する時間がない」(26.7%)「仕事が忙しい」(25.2%)「自分の生活で精一杯」(25.0%)の順であがっている。前回調査に比べると、「活動内容がわからない」は前回調査より5.8ポイントの増加、「参加する時間がない」は前回調査より11.5ポイントの減少である。10歳代では「参加する時間がない」が最も多く、30～50歳代では「仕事が忙しい」が多くあげられた。市民活動参加意向が「はい」の方は、「活動内容がわからない」「参加する手続きが分からない」「参加できる曜日や時間帯が合わない」「参加する時間がない」が上位にあがっている。

市民活動団体に期待することの有無については、「はい」(30.8%)が前回調査(47.7%)より16.9ポイント減少している。70歳代と80歳代の「はい」の割合が他の年代より高い。一方、40歳代の「いいえ」が7割以上と高い。

市民活動団体に期待することの内容については、「社会課題や地域課題に関する情報を発信してほしい」(38.5%)「地域における様々な交流の中心的役割を担ってほしい」(32.4%)「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」(31.6%)の順となっている。「社会課題や地域課題に関する情報を発信してほしい」については、20歳代(47.1%)と60歳代(48.1%)、市民活動参加意向が「はい」(42.1%)の割合が高くなっている。

市民活動団体に期待することがない理由については、「市民活動がよくわからないから」(64.4%)が圧倒的に高くなっている。特に、40歳代の8割、20歳代と30歳代の7割以上が理由にあげている。また、市民活動参加意向「はい」が7割以上、「いいえ」も6割以上となっている。

市民活動団体が活動するときに妨げになることについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」(39.9%)が最も高い。

市民活動について市に望むことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」(45.7%)が最も高くなっている。20歳代から60歳代の5割前後、市民活動参加意向「はい」の方と市民活動団体への期待の有無が「はい」の方の6割以上があげている。

「市民活動に参加することに妨げとなること」「市民活動団体に期待すること」「市民活動団体に期待することがない理由」「市民活動団体が活動するときに妨げになること」「市民活動について市に望むこと」の5つの設問で共通して、情報発信または活動の認知不足が最も多く挙げられており、以上のことから、市民活動に関する情報発信を強化・充実させることが必要であると考えられる。また、参加したい市民活動を年代別に見ると10～20代、50～60代、80代では「芸術・文化・スポーツ」、30代は「子ども・青少年育成」、40代は「まちづくり・まちおこし」、70代は「地域安全」が最も高く、年代と関心を踏まえた周知をすることが効果的と考えられる。

●ボランティア活動について

ボランティア活動への関心の有無については、「関心がある」(34.7%)が前回調査(38.0%)より減少している。10歳代の「関心がある」が5割以上と最も高い。

ボランティア活動の経験については、「したことがある」が31.9%、「したことがない」が64.7%となっている。30歳以下で「したことがある」割合が高くなっている。

ボランティア活動への参加の頻度については、「年に数回」(68.4%)が最も高い。年代が上がるにつれボランティア活動への参加頻度が高まる傾向がみられる。

令和5年度中に参加したことのあるボランティア活動については、「保健・医療・福祉」(15.5%)が最も高く、70歳代の割合が高い。次いで「自然・環境保全」(14.6%)、「子ども・青少年育成」(14.1%)の順となっている。「自然・環境保全」は10歳代と30歳代の割合が高く、「子ども・青少年育

成」では50歳代の割合が高くなっている。なお、「令和5年度はボランティア活動に参加していない」人は37.0%であった。

ボランティア活動に参加する理由については、「社会の一員として役に立ちたいから」(42.5%)「困っている人を支援したいという気持ち」(35.9%)「自己啓発や自らの成長につながるため」(31.2%)の順となっている。

ボランティア活動に参加することに妨げとなることについては、「活動に参加する時間がない」(35.3%)「活動に参加できる曜日や時間帯が合わない」(26.0%)「ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない」(25.0%)の順となっている。「活動に参加する時間がない」では、10～50歳代で5割前後となっており、30歳代が最も高くなっている。「活動に参加できる曜日や時間帯が合わない」では、10～60歳代で3割前後となっており、40歳代が最も高い。「ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない」は、10歳代が最も高くなっている。

ボランティア活動については10歳代の関心度が高いことから、その親世代の30～50歳代を取り込む情報発信の強化も有効に思われる。

ボランティア活動への関心・活動経験別にみたボランティア活動に参加することに妨げとなることでは、「活動に参加できる曜日や時間帯が合わない」の回答が多い中、関心があるが活動に参加したことがない回答者のみ「ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない」(59.5%)が最も多い。関心があるが参加できていない市民への参加を促すためには、情報発信の改善が必要であることがみれる。

今後参加したいボランティア活動については、「自然・環境保全」(22.9%)「芸術・文化・スポーツ」(22.6%)「子ども・青少年育成」(19.3%)「まちづくり・まちおこし」(19.0%)の順となっている。

ボランティア活動について市に望むことについては、「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」(35.3%)「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(33.8%)「ボランティア活動の学習機会を充実すべき」(21.5%)の順となっている。

●寄付について

寄付経験の有無については、「金銭による寄付をしたことがある」(52.3%)が、前回調査(53.8%)より1.5ポイント減少している。

寄付を行った方法については、「街頭募金」(36.8%)「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」(32.3%)「ふるさと納税」(23.8%)の順となっている。前回調査と比べると、「現物寄付(品物の郵送等)」「直接手渡し」などの割合が減り、「ふるさと納税」「クレジットカード等の利用(電子マネー・ポイントの利用を含む)」などが増えている。

令和5年度に寄付をした団体については、「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」(27.6%)「都道府県・市町村」(22.0%)「自治会・町内会」(13.7%)の順となっている。

令和5年度に寄付をした分野については、「災害救助支援」が最も高い。

寄付をするにあたり妨げとなることについては、「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」が最も高い。

寄付促進のために市に望むことについては、「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が最も高い。

●その他

新型コロナウイルス感染症の影響をきっかけに、地域活動や市民活動などに参加したいと思うかについては、「思う」が16.0%、「思わない」が69.0%となり、7割近くが「思わない」と答えている。「思う」では50歳代が2割強で最も高く、「思わない」では10～40歳代が7割を超えている。

「藤沢市市民憲章」の周知状況について、「内容は知らないが、名前だけは知っている」(47.4%) 「名前も内容も知らなかった」(35.8%) 「内容を少し知っている」(9.6%) 「内容をよく知っている」(2.3%) の順となっている。

第4章 調査票

市民活動に関するアンケート調査

日頃から、市政運営にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
藤沢市では、「市民活動の息づくまち 誰もが個性の輝きを放つ未来へ」をビジョンに、「藤沢市市民活動推進計画」を策定しています。

この度は、今後の「藤沢市市民活動推進計画」改定のため、地域活動や市民活動等について、皆様が感じていることやご意見をお聞かせいただきたく、アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、よりよい藤沢のまちづくりのため、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

2024年（令和6年）10月

藤沢市長
鈴木 恒夫

《ご回答にあたって》

1. 調査の対象者は、満15歳以上の市民3,000名を無作為に抽出させていただきました。
2. 質問の中の『あなた』とは、封筒の宛名のご本人を指しますので、質問にはその方自らお答えください。
3. 回答は、**11月27日（水）までに**、調査票にご記入のうえ、返信用封筒（切手不要）にて郵送いただくか、インターネット（スマートフォン・パソコン）にてご回答いただきますようお願いいたします。

インターネットでご回答の方は、右の二次元コードを読み取り、以下のIDとPWを入力し、回答画面にアクセスしてください。

回答ページへの二次元コード

ID :

PW :



※IDとPWは回答画面にアクセスするためのものであり、個人を特定するものではありません。

4. 調査票にご記入する場合は、該当する番号を○で囲んでください。回答の数は質問によって異なりますので、ご注意ください。また、選択肢や質問によっては具体的にご記入いただくものもあります。
5. お答えいただいた内容は統計的に処理を行い、本調査の目的以外に使用したり、個人の内容を公表することは一切ありません。
6. この調査についてご不明な点がございましたら、次の問い合わせ先へご連絡ください。

※アンケートの回答をしやすくするために、文字の大きい調査票、ふりがなを入れた調査票を用意することができます。また、調査票の代読や代筆も行います。ご希望の方は、次の問合せ先までご連絡ください。

○調査へのご回答は任意です。お答えいただける範囲でご協力をお願いいたします。

問い合わせ先

藤沢市役所 市民自治部市民自治推進課

電話 0466-25-1111（代表）

FAX 0466-50-8407

市民活動とは…藤沢市市民活動推進条例では、「市民活動」とは、市民が自主的かつ自発的に
行う営利を目的としない活動であって、宗教・政治・選挙活動でないものと定義しています。

※本アンケート調査にお答えいただく前に、以下に記載されている、地域活動、市民活動及び市民活動団体（NPOを含む）、ボランティアについてのご説明をお読みください。

1 地域活動とは

藤沢市では、市民の皆さまが地域において、お住まいの区域の地縁による活動のほか、社会貢献活動や趣味の活動など、様々な活動を行っています。本アンケート調査においては、それらを総称して「地域活動」といたします。

「主な地域活動」：

- ・自治会・町内会 ・学校やPTA・子ども会等 ・老人クラブ
- ・地域団体 ・ボランティア ・市民活動団体（NPOを含む）
- ・公民館などのサークルや講座 等

2 市民活動、市民活動団体（NPOを含む）とは

本アンケート調査では、「地域活動」のうち、社会に貢献する活動を自主的に非営利で行っている市民活動団体（NPOを含む）に関する活動を「市民活動」といたします。

「市民活動」

：市民が公益的な目的を持って自主的に活動している姿を指し、個人の活動からグループでの活動まで、様々な形があります。

「市民活動団体（NPOを含む）」

：市民活動を継続的に行っている組織を指します。市民活動団体が法人となる場合、特定非営利活動促進法に基づき、特定非営利活動法人（NPO法人）となるのが一般的ですが、最近では一般社団法人や一般財団法人として活動を始める組織も増えています。

「市民活動団体の活動の種類」

：介護、看護等の福祉に関する事業を行う団体や、パソコン教室の運営等の情報化に関する事業を行う団体をはじめ、教育・研究、芸術・文化・スポーツ、環境保全、災害救助支援など、様々な分野の活動があります。

3 ボランティアと市民活動団体（NPOを含む）の違いとは

「ボランティア」

：個人の思い、個人のスタンスを表します。よりよい社会づくりのために、個人が自ら進んで行う、金銭的な見返りを求めない活動をいいます。労働の対価を求めない代わりに、活動に関わる個人の自発性に重点が置かれます。個人単独で行うこともあります。グループで行うもの、あるいは市民活動団体（NPOを含む）や行政に関わって行うものなどがあります。

「市民活動団体（NPOを含む）」

：組織の社会的な役割を意識した言葉であり、組織のスタンスを表します。社会的使命の達成のために活動をする組織であり、自治体や企業とは異なった立場から社会的なサービスを提供し、社会的な課題の解決をめざすものです。

問1 地域活動について

【全員の方にお聞きします】

問1-1 次の地域活動のうち、このアンケートが届く前からその活動の存在を知っていたかどうかをお選びください。(いずれか一つに○)

地域活動の種類	知っていたか
自治会・町内会	1. 知っていた 2. 知らなかった
学校・PTA・子ども会等	1. 知っていた 2. 知らなかった
老人クラブ	1. 知っていた 2. 知らなかった
地域団体(※1)	1. 知っていた 2. 知らなかった
市民活動団体(NPOを含む)(※2)	1. 知っていた 2. 知らなかった
公民館などのサークルや講座	1. 知っていた 2. 知らなかった

※1「地域団体」とは、ここでは市民センター・公民館を中心とした地区社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会、郷土づくり推進会議、地区交通安全対策協議会、地区防犯協会、地区生活環境協議会、地区青少年育成協会の、地区防災協議会等を指します。

※2「市民活動団体(NPOを含む)」とは、ここでは法人格の有無や種類を問わず、市民が公益的な目的を持って自主的、かつ継続的に活動している組織をいいます。

組織の例：特定非営利活動法人(NPO法人)、公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、任意の市民活動団体等

【全員の方にお聞きします】

問1-2 あなたの地域活動への参加の頻度をお選びください。(いずれか一つに○)
また参加の理由についてお選びください。(あてはまるものすべてに○)

種類	① 参加の頻度(いずれか一つに○)	② 参加の理由(あてはまるものすべてに○)
自治会・町内会	1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上 6. 定期的ではないが、行事に参加 7. 会費の支払いで参加	1. 自己啓発や自らの成長につながるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 社会の一員として役に立ちたいから 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なから 7. 社会的に評価されるため 8. ライフスタイル等の変化により時間ができたから 9. 地域や仲間等と繋がっていたいから 10. SDGsに貢献したいから 11. 心身の健康維持・健康づくりのため 12. その他

種類	① 参加の頻度 (いずれか一つに○)	② 参加の理由 (あてはまるものすべてに○)
学校・ P T A ・ 子ども会 等	1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上 6. 定期的ではないが、行事に参加 7. 会費の支払いで参加	1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 社会の一員として役に立ちたいから 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. ライフスタイル等の変化により時間ができたから 9. 地域や仲間等と繋がっていたいから 10. SDG sに貢献したいから 11. 心身の健康維持・健康づくりのため 12. その他
老人 クラブ	1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上 6. 定期的ではないが、行事に参加 7. 会費の支払いで参加	1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 社会の一員として役に立ちたいから 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. ライフスタイル等の変化により時間ができたから 9. 地域や仲間等と繋がっていたいから 10. SDG sに貢献したいから 11. 心身の健康維持・健康づくりのため 12. その他
地域団体 (※1)	1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上 6. 定期的ではないが、行事に参加 7. 会費の支払いで参加	1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 社会の一員として役に立ちたいから 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. ライフスタイル等の変化により時間ができたから 9. 地域や仲間等と繋がっていたいから 10. SDG sに貢献したいから 11. 心身の健康維持・健康づくりのため 12. その他

種類	① 参加の頻度 (いずれか一つに○)	② 参加の理由 (あてはまるものすべてに○)
市民活動 団体 (NPO を含む) (※2)	1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上 6. 定期的ではないが、行事に参加 7. 会費の支払いで参加	1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 社会の一員として役に立ちたいから 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. ライフスタイル等の変化により時間ができたから 9. 地域や仲間等と繋がっていたいから 10. SDGsに貢献したいから 11. 心身の健康維持・健康づくりのため 12. その他
公民館 などの サークル や講座	1. 参加していない 2. 年に数回 3. 月に1～2回 4. 月に3～4回 5. 月に5回以上 6. 定期的ではないが、行事に参加 7. 会費の支払いで参加	1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため 2. 困っている人を支援したいという気持ち 3. 社会の一員として役に立ちたいから 4. 自分や家族が関係している活動への支援 5. 知人や同僚等からの勧め 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから 7. 社会的に評価されるため 8. ライフスタイル等の変化により時間ができたから 9. 地域や仲間等と繋がっていたいから 10. SDGsに貢献したいから 11. 心身の健康維持・健康づくりのため 12. その他

※1 「地域団体」とは、ここでは市民センター・公民館を中心とした地区社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会、郷土づくり推進会議、地区交通安全対策協議会、地区防犯協会、地区生活環境協議会、地区青少年育成協力会、地区防災協議会等を指します。

※2 「市民活動団体 (NPOを含む)」とは、ここでは法人格の有無や種類を問わず、市民が公益的な目的を持って自主的、かつ継続的に活動している組織をいいます。

組織の例：特定非営利活動法人 (NPO法人)、公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、任意の市民活動団体 等

【問1-2、「①参加の頻度」で2～5に○を一つでもつけた方にお聞きします】

問1-3 あなたが地域活動を行う場として利用している施設（場所）はどこですか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| 1. 市民センター・公民館 | 2. 市民の家 |
| 3. 自治会館・地区集会所 | 4. 保育園・幼稚園 |
| 5. 地域子供の家・児童館 | 6. 小学校、中学校、高等学校、専門学校 |
| 7. 大学、大学院 | 8. 市民活動推進センター |
| 9. 市民活動プラザむつあい | 10. 地区ボランティアセンター |
| 11. 地域の縁側 | 12. 福祉施設・介護施設 |
| 13. いきいきシニアセンター（湘南なぎさ荘、やすらぎ荘、こぶし荘） | |
| 14. 老人憩いの家・老人ふれあいの家 | 15. 活動団体の借り上げた場所等 |
| 16. 教会、お寺、神社 | 17. 民間のホール、民間団体（会社） |
| 18. 喫茶店、レストラン、ホテル | 19. 個人の自宅など |
| 20. その他（ | ） |

【問1-2、「①参加の頻度」で2～5に一つでも○をつけた方にお聞きします】

問1-4 あなたが地域活動を行う場として今後利用したい施設（場所）はどこですか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| 1. 市民センター・公民館 | 2. 市民の家 |
| 3. 自治会館・地区集会所 | 4. 保育園・幼稚園 |
| 5. 地域子供の家・児童館 | 6. 小学校、中学校、高等学校、専門学校 |
| 7. 大学、大学院 | 8. 市民活動推進センター |
| 9. 市民活動プラザむつあい | 10. 地区ボランティアセンター |
| 11. 地域の縁側 | 12. 福祉施設・介護施設 |
| 13. いきいきシニアセンター（湘南なぎさ荘、やすらぎ荘、こぶし荘） | |
| 14. 老人憩いの家・老人ふれあいの家 | 15. 活動団体の借り上げた場所等 |
| 16. 教会、お寺、神社 | 17. 民間のホール、民間団体（会社） |
| 18. 喫茶店、レストラン、ホテル | 19. 個人の自宅など |
| 20. その他（ | ） |

【全員の方にお聞きします】

問1-5 地域活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安はありますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 活動内容への不満 | 2. 活動内容がわからない |
| 3. 参加する手続きが分からない | 4. 活動の場が自宅から離れているなど不便 |
| 5. 趣味や余暇活動を優先 | 6. 参加の機会がない |
| 7. 参加できる曜日や時間帯が合わない | 8. 参加する時間がない |
| 9. 自分の生活で精一杯 | 10. 仕事が忙しい |
| 11. 子育てや介護が忙しい | |
| 12. 参加する際の経費があり経済的負担が大きい | |
| 13. 健康面の不安など、身体状況から参加が難しい | |
| 14. 気恥ずかしい | 15. 人間関係がわずらわしい |
| 16. 地区外で活動している | 17. 新型コロナウイルス感染症の影響 |
| 18. 興味や関心がない | |
| 19. その他（具体的に： | ） |

問2 市民活動について

「市民活動」とは、市民が公益的な目的を持って自主的に活動している姿を指します。ここでは、法人格の有無や種類を問わず、社会的な課題の解決のために、市民活動を継続的に行っている、「市民活動団体（NPOを含む）」に関する組織的な活動をいいます。

公益的な活動の例：ビーチクリーン活動、子ども食堂運営活動、子どもの居場所づくり活動、高齢者の見守り活動、文化芸術の普及活動、防犯や交通安全の活動 等

【全員の方にお聞きします】

問2-1 今後、市民活動（市民活動団体（NPOを含む）の活動）に参加したいですか。
（いずれか一つに○）

1. はい

2. いいえ

【問2-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問2-2 次のうち、参加したい市民活動の分野をお選びください。（あてはまるものすべてに○）

保健・医療・福祉	1
教育・研究	2
まちづくり・まちおこし	3
芸術・文化・スポーツ	4
自然・環境保全	5
災害救助支援	6
地域安全	7
人権・平和	8
国際協力・交流	9
子ども・青少年育成	10
雇用促進・雇用支援	11
その他	12
（具体的に： _____ ）	

【問2-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問2-3 市民活動に参加したい理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 自己啓発や自らの成長につながるため
2. 困っている人を支援したいという気持ち
3. 社会の一員として役に立ちたいから
4. 自分や家族が関係している活動への支援
5. 知人や同僚等からの勧め
6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから
7. 社会的に評価されるため
8. ライフスタイル等の変化により時間ができたから
9. 地域や仲間等と繋がっていたいから
10. SDGsに貢献したいから
11. 心身の健康維持・健康づくりのため
12. その他（具体的に： _____ ）

【全員の方にお聞きします】

問2-4 市民活動に参加することに妨げや参加にあたっての不安はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 活動内容への不満 | 2. 活動内容がわからない |
| 3. 参加する手続きが分からない | 4. 活動の場が自宅から離れているなど不便 |
| 5. 趣味や余暇活動を優先 | 6. 参加の機会がない |
| 7. 参加できる曜日や時間帯が合わない | 8. 参加する時間がない |
| 9. 自分の生活で精一杯 | 10. 仕事が忙しい |
| 11. 子育てや介護が忙しい | |
| 12. 参加する際の経費があり経済的負担が大きい | |
| 13. 健康面の不安など、身体状況から参加が難しい | |
| 14. 気恥ずかしい | 15. 人間関係がわずらわしい |
| 16. 地区外で活動している | 17. 新型コロナウイルス感染症の影響 |
| 18. 興味や関心がない | |
| 19. その他(具体的に:) | |

【全員の方にお聞きします】

問2-5 あなたは市民活動団体に期待することはありますか。(いずれか一つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

【問2-5で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問2-6 あなたが市民活動団体に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

また、1～4、7に○をつけた方は、期待する具体的な内容があれば、ご記入ください。

- | | |
|--|--|
| 1. 行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい
(具体的に:) | |
| 2. 社会的な問題を解決してほしい(具体的に:) | |
| 3. 地域課題を解決してほしい(具体的に:) | |
| 4. 個人的な問題を解決してほしい(具体的に:) | |
| 5. 地域におけるイベントに参加してほしい | |
| 6. 地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい | |
| 7. 社会課題や地域課題に関する情報を発信してほしい | |
| 8. その他(具体的に:) | |

【問2-5で「2. いいえ」に○をつけた方にお聞きします】

問2-7 あなたが市民活動団体に期待することがないのはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. 市民活動がよくわからないから | |
| 2. 身近に市民活動団体がいないから | |
| 3. 市民活動団体の組織体制(財政基盤・事務能力等)が弱いから | |
| 4. 市民活動団体の情報発信力・事業実行力が弱いから | |
| 5. 市民活動団体の活動内容が気に入らないから | |
| 6. 市民活動団体に興味がないから | |
| 7. その他(具体的に:) | |

【全員の方にお聞きします】

問2-8 市民活動団体が活動するときに、妨げになると思うことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|------------------------|
| 1. 市民活動を行う場所が少ない | |
| 2. 市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない | |
| 3. 市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人（コーディネーターや団体）が少ない | |
| 4. 市民活動の学習機会が少ない | 5. 市民活動のための休暇・休職制度が少ない |
| 6. 市民活動に対する経済的な支援が少ない | 7. 新型コロナウイルス感染症の影響 |
| 8. 特になし | |
| 9. その他（具体的に： |) |

【全員の方にお聞きします】

問2-9 市民活動について、市にどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|---|
| 1. 市民活動を行う場所を充実すべき | |
| 2. 市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき | |
| 3. 市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人（団体等）を養成・支援すべき | |
| 4. 市民活動の学習機会を充実すべき | |
| 5. 市民活動のための休暇・休職制度の普及を行うべき | |
| 6. 市民活動に対する経済的な支援を行うべき | |
| 7. 特になし | |
| 8. その他（具体的に： |) |

問3 ボランティア活動について

「ボランティア」とは、よりよい社会づくりのために、個人が自ら進んで行う、金銭的な見返りを重視しない活動をいいます。ここでは、団体などの組織に属する一員として行う活動ではなく、個人的なスタンスで行うものをいいます。

【全員の方にお聞きします】

問3-1 あなたはボランティア活動に関心がありますか。(いずれか一つに○)

- | | |
|--------------|---|
| 1. 関心がある | |
| 2. あまり関心がない | |
| 3. まったく関心がない | |
| 4. その他（具体的に： |) |

【全員の方にお聞きします】

問3-2 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(いずれか一つに○)

- | | |
|------------|------------|
| 1. したことがある | 2. したことがない |
|------------|------------|

【問3-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問3-3 あなたのボランティア活動への参加の頻度をお選びください。(いずれか一つに○)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 年に数回 | 2. 月に1～2回 |
| 3. 月に3～4回 | 4. 月に5回以上 |

【問3-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問3-4 あなたは令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）にどのような分野のボランティア活動に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

保健・医療・福祉	1
教育・研究	2
まちづくり・まちおこし	3
芸術・文化・スポーツ	4
自然・環境保全	5
災害救助支援	6
地域安全	7
人権・平和	8
国際協力・交流	9
子ども・青少年育成	10
雇用促進・雇用支援	11
令和5年度はボランティア活動に参加していない。	12
その他	13
(具体的に：))

【問3-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問3-5 あなたにとって、ボランティア活動に参加する理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------|
| 1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため |
| 2. 困っている人を支援したいという気持ち |
| 3. 社会の一員として役に立ちたいから |
| 4. 自分や家族が関係している活動への支援 |
| 5. 知人や同僚等からの勧め |
| 6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なだから |
| 7. 社会的に評価されるため |
| 8. ライフスタイル等の変化により時間ができたから |
| 9. 地域や仲間等と繋がっていたいから |
| 10. SDGsに貢献したいから |
| 11. 心身の健康維持・健康づくりのため |
| 12. 職場や学校の取組の一環として |
| 13. その他 (具体的に：) |

【全員の方にお聞きします】

問3-6 ボランティア活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない
2. 活動に参加する際の経費（交通費等）があり、経済的負担が大きい
3. 活動に参加しても、実際に役に立っているとは思えない
4. 活動に参加する時間がない
5. 活動に参加できる曜日や時間帯が合わない
6. 活動に参加するために、休暇取得等を行う必要がある
7. ボランティアを受け入れる団体・NPO等に対する不信感があり、信頼度に欠ける
8. 健康、体力面で不安がある
9. 活動に参加すると人間関係がわずらわしい
10. 活動を行う際の保険が不十分
11. 新型コロナウイルス感染症の影響
12. 特に妨げとなることはない
13. その他（具体的に： _____)

【全員の方にお聞きします】

問3-7 あなたが今後参加したいボランティア活動の分野を選んでください。

(あてはまるものすべてに○)

※すでに参加したことがあり、引き続き参加したい分野も含めてお答えください。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 保健・医療・福祉 | 2. 教育・研究 |
| 3. まちづくり・まちおこし | 4. 芸術・文化・スポーツ |
| 5. 自然・環境保全 | 6. 災害救助支援 |
| 7. 地域安全 | 8. 人権・平和 |
| 9. 国際協力・交流 | 10. 子ども・青少年育成 |
| 11. 雇用促進・雇用支援 | |
| 12. ボランティア活動に参加したいと思わない | |
| 13. その他（具体的に： _____) | |

【全員の方にお聞きします】

問3-8 ボランティア活動について、市にどのようなことを望みますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき
2. ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人（団体等）を養成・支援すべき
3. ボランティア活動の学習機会を充実すべき
4. ボランティア保険への加入推進等、事故への対応を整備すべき
5. ボランティア活動のための休暇・休職制度の普及を行うべき
6. ボランティアを受け入れる団体・NPO等に対する経済的な支援を行うべき
7. 特になし
8. その他（具体的に： _____)

問4 寄付について

本アンケート調査においては、以下の2つの要件を満たすものを「寄付金」といいます。

① 支出する側に任意性があること

金銭寄付金（時には物品も含む。）を出す人自身が、その金銭寄付金を出すか出さないかを自由に決定でき、かつ、その金額も自由に決めることができること。

② 直接の反対給付がないこと

金銭寄付金（時には物品も含む。）を出した人が、その支出した金銭寄付金の代わりに、一般に流通するような商業的価値を持つ商品やサービスなどを受け取らないこと。（クラウドファンディングやふるさと納税は、返礼品がある場合も、ここでは寄付とします。）

【全員の方にお聞きします】

問4-1 あなたは寄付（募金、現物寄付等）をしたことがありますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 金銭による寄付をしたことがある | |
| 2. 現物等による寄付をしたことがある | |
| 3. その他（具体的に： | ） |
| 4. 寄付をしたことがない | |

【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-2 令和5年度(令和5年4月～令和6年3月)に寄付をした金額(金銭による寄付のみ)、金銭による寄付をした回数、現物等による寄付をした回数をご記入ください。

※寄付額については、あなた個人の金額と世帯全体の金額に分けてお答えください。

※令和5年度は寄付をしていない場合は、「0」とお答えください。

	① (年間) 寄付金額	② (年間) 金銭寄付回数	③ (年間) 現物等寄付回数
① あなた	円	回	回
② 世帯全体	円		

【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-3 あなたが、寄付を行った方法は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 街頭募金
2. 設置されている募金箱（「1. 街頭募金」を除く）
3. 銀行等での振込み・口座引き落とし
4. 直接手渡し
5. クレジットカード等の利用（電子マネー・ポイントの利用を含む）
6. 現物寄付（品物の郵送等）
7. 寄付付商品の購入
8. マッチングギフト（※1）
9. ネット（クリック）募金（※2）
10. ふるさと納税
11. 遺贈による寄付
12. クラウドファンディング
13. その他（具体的に： _____)

※1 「マッチングギフト」とは、企業や団体などが社会貢献のために寄付や義援金を募る際、寄せられた金額に対して企業側が金額の上乗せを行い、寄付金額を増やした上で同じ寄付対象に寄付をするという取り組み。

※2 「クリック募金」とは、ウェブページ内の決められた箇所をクリックすると、個人や企業がクリックされた回数に応じて環境問題や人道支援などに取り組む団体に現金を送金する仕組み。

【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-4 あなたが、令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）に寄付をした団体はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 自治会・町内会 | 2. 市内の法人格がない市民活動団体 |
| 3. 市外の法人格がない市民活動団体 | 4. 市内のNPO法人 |
| 5. 市外のNPO法人 | 6. 市内の政治団体、宗教法人 |
| 7. 市外の政治団体、宗教法人 | 8. 赤い羽根共同募金・日本赤十字社 |
| 9. 上記以外の非営利法人（市内） | 10. 上記以外の非営利法人（市外） |
| 11. 上記以外の法人 | 12. 都道府県・市町村 |
| 13. どこに寄付したかわからない | 14. 令和5年度は寄付をしていない |

【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-5 あなたが、令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）に寄付をした分野はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

保健・医療・福祉	1
教育・研究	2
まちづくり・まちおこし	3
芸術・文化・スポーツ	4
自然・環境保全	5
災害救助支援	6
地域安全	7
人権・平和	8
国際協力・交流	9
子ども・青少年育成	10
雇用促進・雇用支援	11
令和5年度は寄付をしていない	12
その他	13
（具体的に： _____ ）	

【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-6 あなたが寄付をした理由はどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 社会の役に立ちたいと思ったから
2. 自治会・町内会の活動の一環として
3. 職場の取組の一環として
4. 知人や同僚などからの勧め
5. 自分や家族が関係している活動への支援
6. 自分が抱えている社会問題の解決に必要なことから
7. 自分が支援したい団体等だったから
8. その他（具体的に： _____ ）

【全員の方にお聞きします】

問4-7 あなたが寄付をするにあたり妨げになることはありますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 寄付を行う先（団体等）の十分な情報がない
2. 寄付の手続きがわかりにくい
3. 寄付をしても役に立っていないと思えない
4. 寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける
5. 特に妨げになることはない
6. その他（具体的に： _____ ）

【全員の方にお聞きします】

問4-8 寄付促進のために、市にどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき
2. 寄付を促進する制度を充実すべき
3. 寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき
4. 寄付の学習機会を充実すべき
5. 特になし
6. その他(具体的に:)

問5 その他

【全員の方にお聞きします】

問5-1 新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化をきっかけに、地域活動や市民活動などに参加したいと思いますか。(いずれか一つに○)

1. 思う
2. 思わない
3. 既に参加している

【問5-1で「1. 思う」に○をつけた方にお聞きします】

問5-2 どれくらいの頻度で参加したいと思いますか。(いずれか一つに○)

1. 年に数回
2. 月に1~2回
3. 月に3~4回
4. 月に5回以上
5. 空いた時間に不定期参加

【全員の方にお聞きします】

問5-3 市民が郷土を愛し、藤沢を住みよい幸せなまちにするため、市民がお互いに守るべき生活の道しるべとして「藤沢市市民憲章」が定められています。

このアンケートが届く前から、「藤沢市市民憲章」を知っていましたか。

(いずれか一つに○)

1. 内容をよく知っている
2. 内容を少し知っている
3. 内容は知らないが、名前だけは知っている
4. 名前も内容も知らなかった

【全員の方にお聞きします】

問5-4 その他、何かご意見等がございましたらお書きください。

藤沢市
市民活動に関するアンケート調査
報告書

発行日／令和7年1月

発行／藤沢市市民自治部市民自治推進課

〒251-8601 神奈川県藤沢市朝日町1番地の1

TEL 0466-25-1111（代表）

FAX 0466-50-8407